

2024年度

「学生による授業評価アンケート」
報 告 書

立教大学

2025年 9月

これまでに発行した『学生による授業評価アンケート報告書』は、大学教育開発・支援センターの Web サイトより閲覧いただけます。下記 URL または QR コードへアクセスし、
「刊行物・情報公開」から「学生による授業評価アンケート報告書」を選択してください。

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>



はじめに

総長 西原 廉太

立教大学の「学生による授業評価アンケート」は2004年度から運用が開始され、本年度でちょうど21年目となります。この間、「学生による授業評価アンケート」は進化を重ねていますが、その基本的な目的は変わることはありません。それは、教員が自らの授業改善に資するための基礎的データであり、学生の授業への参与度、姿勢、期待を知るための手がかりであることはもちろん、学生たちがアンケートに回答することを通して、学生に授業履修への積極性と責任意識の醸成を促すこと、また、さらには、学部・学科のカリキュラムの有効性を測定するための資料であり、ひいては、立教大学のあらゆる教学改革方針・施策を決定していくための重要なデータとしての役割が期待されています。

2024年度も、教職員のみなさんのご尽力の結果、年間を通しての授業運営ができました。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

2025年度は、RIKKYO Learning Style 第2ステージ構想に加えて、教学マネジメントの進化のための多角的な検討作業を進めています。その際に、この「学生による授業評価アンケート」からも多くの重要な論点が抽出されています。

本学の「学生による授業評価アンケート」を特徴づけるものの一つは、その質問項目が、学生自身の授業への取り組み方、学生が授業から得られたものを中心に問うていることです。この質問項目の背景には、大学の授業というものが、教員からの一方的な知識の伝達ではなく、教員と学生のインタラクティブな営みであるという思想があります。私たちの授業とは、教員と学生が、知の礎の上に立ちながら、共に対話し、新たな意味や価値の発見に開かれていくダイナミックな現場です。そこでは教員もまた、「教えられ、変えさせられ、強められる」ことに気づかされます。

本報告書が、教職員のみならず、とりわけ授業の最も重要な当事者である学生のみなさんに読んでいただくことを期待しています。

目 次

はじめに

1. 本学における「学生による授業評価アンケート」について	1
1-1 目的	1
1-2 「報告書」作成の基本的な考え方	2
1-3 「所見票」について	3
1-4 実施科目の選定方針	4
1-5 回答結果の全学的な活用に向けて	5
2. 授業評価アンケートの実施概要	7
2-1 実施方式	7
2-2 設問項目	7
2-3 各学部等の科目選定方針	11
2-4 実施科目数	13
2-5 実施期間	13
2-6 回答者数	14
2-7 「所見票」の公開	14
2-8 任意実施科目	14
3. 科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック	15
3-1 科目担当者	15
3-2 学部等	15
4. 学部等総評	20
4-1 文学部	21
4-2 経済学部	24
4-3 理学部	26
4-4 社会学部	29
4-5 法学部	33
4-6 経営学部	36
4-7 異文化コミュニケーション学部	39
4-8 グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	43
4-9 観光学部	45
4-10 コミュニティ福祉学部	48
4-11 現代心理学部	52
4-12 スポーツウェルネス学部	55
4-13 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	57
4-14 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	65
4-15 学校・社会教育講座	75
5. 2024年度のまとめと今後の展望	77
6. 2024年度集計データ（資料編）	79
6-1 回答者数・回答率	79
6-2 学部等別設問項目別平均値・回答割合	80

1. 本学における「学生による授業評価アンケート」について

まず、本項では、本学における「学生による授業評価アンケート」の実施概要について取り上げる。

前半の1-1「目的」、1-2『報告書』作成の基本的な考え方、1-3「所見票について」では、2004年度の「学生による授業評価アンケート」の開始以来、これまで継承している本アンケート実施にあたっての基本的理念および方針について、同年度の「報告書」における当該項目の記載内容を転載することによって確認する。

後半の1-4「実施科目の選定方針」、1-5「回答結果の全学的な活用に向けて」では、これらの基本的理念および方針を受けて、2004年度から当該年度までのアンケート実施の経過や変更点について記載する。

1-1 目的

本学における全学規模の学生による授業評価アンケートは、2002年7月10日に総長に提出された「全学FD検討委員会答申」に始まる。その中で、本学にとっての最重要FD課題として次の3点が挙げられている。第一に「教員における授業力の向上」、第二に「カリキュラム編成の合理化」、第三に「成績評価の厳正化」である。そして、その中でも緊急性がもっともあるとされたのが第一の課題であり、その中で「授業力向上に向けての具体策」のひとつとして挙げられていたのが「学生による授業評価の制度的実施」である。それを受けて、2002年12月18日付け文書「FDについて―学生による教育評価アンケートの2003年度実施に当たって―」の中で総長は、敢えて「教育評価」という言葉を用い、「個々の科目の授業やその担当教員への評価をこえて、広く本学の教育について、学生の評価を参照したい」と述べ、「学生による教育評価アンケート」をできる限り早期に実施したいとの方針を明らかにした。

それを受けて直後の2002年12月21日には早くも全学教務委員会FD専門部会の第1回部会が招集され、年度をまたいで検討が続けられた。その過程で、2003年度実施は見送られ2004年度実施を目標とすること、施設その他の教育条件一般を問うアンケートの前に、授業そのものに目標を絞って問うことなどの合意が形成され、「学生による授業評価アンケート」を行うことが決まった。そして、具体的アンケート項目作成作業が開始され、他大学のものをも参照しつつも、三つの独自案にまとまってゆき、並行して行われていたアンケートの目的や実際の実施方法などの検討結果とも連動しながら、最終的にひとつの案に集約されていった。その結果は部長会に報告され、了承を得て、その後、各学部教授会とのやり取りがあり、2003年の秋に2004年度前期から「学生による授業評価アンケート」を実施することが正式に決定した。そして、2004年度4月から「学生による授業評価アンケート実施委員会」が立ち上げられ、前期と後期に実施された。

その実施の目的は、部会における議論の結果、以下の点にあると考えられるにいたった。

- ① 教員が自らの授業改善を目指す自己研修の資料を得る。
- ② 教員同士が授業に関して相互研修をおこなう機会を提供する。
- ③ 学生の学習姿勢を知るための資料とする。
- ④ 学生の授業への期待のありかを知る資料を得る。

- ⑤ 学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
- ⑥ 学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る。
- ⑦ 大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。

以上である。

要するに、本学の「学生による授業評価アンケート」は端的に言って、個々の教員による授業を、学生がより充実して学習を進め大学としての教育力が今より一層効果的に機能することを目指して改善し、その結果として学部・学科としての教育力をも増進することを唯一の目的とする、ということである。そうして、学生をも巻き込んで、本学が知的に活発で、創造性に富み、常に先進的に新しい知を発信し、それに基づく生き方を常に提案し続ける力を保持することができるようになることを最終目的とする。

それに対して、場合によっては教員の活力を削ぐことになりかねない教員管理の視点は厳しく排除される。大学は教職員と学生が相互に自己管理することを前提に、自由に精神活動をおこなう場である。特定の目的のために教職員ならびに学生を管理し、特定の方向へ向けるべく力を加えることは、大学本来の知的創造力を失わせ、ひいては大学が本来持っているはずの社会的役割を放棄し、その負託に答えられなくなることを意味する。その意味で、この「学生による授業評価アンケート」結果のデータは特定の意図を持って処理され、一律の基準の下に評価されることはない。それゆえに、集計データの統計的処理はアンケート対象になった個々の教員に任されることになった。それが所見票に表現されるのである。

このアンケートは大学としての教育力向上を目的としておこなわれるので、学生の自覚を促すことも期待されている。そのことは、一朝一夕に実現させることは難しいかもしれないが、学生たちの評価アンケート結果に対して、各教員がそれぞれの学問的見識を持って所見票で答え、実際の授業に反映する努力が積み重ねられることによって、徐々に現実化してゆくであろう。現在の大学では学生の自主的活動が必ずしも本来期待されているほど十分でなく、大学生の学校生徒化が進んでいると一般に言われている。その中で、学生の主体的参加が教員との関係を変えるきっかけになることを直接に経験することで、学生の姿勢が変化することを期待したい。

さらに、アンケート結果、所見票が公表されることにより、教職員相互間、あるいは教員と学生との間で切磋琢磨する風潮が広まれば、大学全体として、個々の学問研究と教育の活動に根ざした種々の改善が期待される。カリキュラムはもちろん、組織の運営体制や施設なども、このアンケートを手がかりにその評価の俎上に載せられることになってゆくであろう。

この「学生による授業評価アンケート」が、大学の知的エネルギーを構成している教職員相互の関係や教職員と学生との関係、あるいは学生相互の関係などを揺り動かし、多様な観点から相互に力を及ぼしあう結果になることを、我々は心から期待したい。そして、そのことがやや動脈硬化が進行してきた大学という組織にも再び熱い血を通わせ、教職員も学生も本学に集うことこそがその熱い血の拍動を生み、学問に触れることが楽しくて仕方がないという状況を生み出すことを心から願う。

1－2 「報告書」作成の基本的な考え方

「学生による授業評価アンケート」は調査である限りその結果がまとめられなければな

らない。我々はそれを報告書という形で世に問う。この報告書はアンケート対象になった個々の授業が1－1で述べられた目的に沿って学生によって評価された結果を総体として、学部・学科ごとに、そして大学全体として、その教育力を評価し、成果の上がっていることに関してはその成果の意味を明らかにし、さらにその成功を維持するための方策を考え、改善が必要なことに関しては、その原因を究明し、その克服のための方法を構築する。そして次のアンケートにその改善努力の成果を問う。

この報告書の構成は以下のとおりになっている。

まず、(1)すでに述べたとおりこのアンケートの目的を明らかにする。その次に、(2)その目的に沿ったアンケート実施の概要を報告する。その上で、(3)統計処理上の技術的方針について、我々の考え方を明示し、データの性格を規定し、将来の調査をも視野に入れた分析方針を提示する。そして、(4)全学的な総評をおこなう。最後に(5)学部やその他の教育組織ごとの総評をまとめる。以上である。

この報告書はあくまで1－1のアンケートの目的に謳われている⑥学部・学科としてのカリキュラムの有効性を測定するための資料、および⑦大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を提供するためにおこなわれる。したがって、この報告書には個々の授業やその担当者、あるいはある学科の科目として特定できるような記述は記載されない。

それと同時に、この作業は全体としての③学生の学習姿勢を知るための資料、および④学生の授業への期待のありかを知る資料を得ることにつながる。授業に参加する学生たち自身の勉強に対する姿勢もアンケート項目に入っているため、それらについてはこの報告書の中で、各所で触れられることになるだろう。

これらの目的達成を検証することを狙い、我々は報告書を作成する。ちなみに目的の①と②は次に述べられる所見票に示されるだろう。

1－3 「所見票」について

個々の科目のアンケート結果は、同じ科目の将来の開講の際に生かされるはずである。しかし、一方ではアンケートに答えた学生たちには、将来の授業では直接的にフィードバックすることはできない。そこで、個々の科目のアンケート結果についても、何らかの形で少なくとも当該学生たちには公開される必要がある、と我々委員会は考えた。その際には、単純にアンケート項目の集計結果だけを公開する方法と、それに対する教員の所見をも添えて公開する方法が考えられる。

我々は個々の科目担当者に、自分の科目についての自己点検・評価という意味でアンケート結果のデータを読んでもらい、「授業評価に対する担当教員の所見」、「自由記述欄に対する担当教員の所見」、「改善に向けた今後の方針」を書いてもらうこととした。この3つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果を帯グラフに表したデータを付したものを「所見票」と称した*1。そして、この所見票を学生に公開することにした。

所見票を書くことはアンケート対象教員にとって負担にはなる。しかし、我々は敢えて対象となった教員全員に所見票作成を依頼した。なぜならば、自分の授業についての学生による評価が出たならば、それについての対処を明確に行い、アンケートに協力してくれた学生たちに直接回答することも、授業担当者である教員の義務だと、我々は考えたからである。所見票はそのすべてが、学生に対して学内で公開されることになる。

所見票の狙いは以下の点にある。

- ① 教員がアンケート結果についてそれを直視し、自らの見解を発表する場を与える。
- ② 学内で公表されることによって、学生に直接回答する機会を与える。
- ③ アンケートに含まれる自由記述についてはデータ化できないので、教員の直接的コメントを通してその内容を明らかにすることを求める。
- ④ 改善に向けた明確な決意と工夫を書くことにより、次のアンケートとの比較を行い易くし、具体的授業改善の実現を可能にする。

以上である。

①については、教員側にも、もし学生からいわれのない不評や批判があった場合には、弁明する機会が欲しいとの声もあった。また、所見票を書けば、アンケート結果をつぶさに直視し、それに向き合って、自分に取り入れる契機とすることができる。さらに、データの多様な集計を当該教員に任せ、教員の必要に応じた分析を行い、納得の行く分析結果を出してもらうことにも意を注いだ。所見票はその結果を発表する場でもある。

②については、学生に対する直接回答であることを重視し、教員が自らの見解を自由に率直に表明しやすくするという趣旨で、公開は学内に限り、学生の便宜を考えて図書館に配置することにした*2。

③については、自由記述が単純にデータ化できないため、結果すべてを所見票に載せることはできない。また、記述内容によっては書き手が特定される場合もある。そこで、それを読んだ教員の責任でまとめてもらうことにして、教員所見にそのための欄を設けた。

④については、これを書くことでこのアンケートの目的で指摘された教員の自己研修を促すことになる。また、所見集が学内で公開されることから、学生以外にも同僚教員の目に触れる機会もあり、相互研修にもなることが期待される。

以上、所見票はこのようなことを期待して作られたのである。

*1 教員執筆項目は 2020 年度の教育改革推進会議（2020 年 10 月 1 日）において、「授業評価に対する担当教員の所見」と「改善に向けた今後の方針」の 2 項目に集約された。このこととアンケートの Web 形式実施に伴い、2020 年度からの所見票は、二つの教員記述にアンケートのすべての項目についてその結果のデータを付したものとなっている（p.18 参照）。

*2 現在は Web のみで公開

（以上、2004 年度報告書より抜粋。*は追記）

1－4 実施科目の選定方針

本学における「学生による授業評価アンケート」は 2004 年度にスタートし、2006 年度までの当初 3 年間は「講義科目を対象に 1 教員 1 科目」の原則で実施した。これにより、教員個々人の意識が高まり、授業改善の効果が上がったことは、各項目の数値が有意に上昇したことから明らかである。

2007 年度には、スタート時に確認された目的のうち、「学部・学科としてカリキュラムの有効性を測定するための資料を得る」「大学として教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る」に比重を移し、実施対象科目に一部の演習科目を加えた上で、各学部・学科等の必要性により科目を選定する方式に切りかえた。2008 年度、2009 年度はこの方針を踏襲

して実施した。

一方で、「学生による授業評価アンケート」開始当初から、アンケートは単年度ごとにその目的と実施内容を検討・決定するのではなく、数年度単位の中期的な計画に基づいて展開する必要性が指摘されており、その策定に向けて、継続的に議論を行ってきた。

2006 年度には、「1 教員 1 科目の原則による実施は、教員個々人の意識を高め、教員全員が自らの自己研修の資料を得る観点から、少なくとも数年に一度は必要である」との全学的合意がなされた（2007 年 1 月 25 日、部長会）。その後、他大学の実施状況調査を行うとともに、全学教務委員会および教育改革推進会議での学部等からの意見収集ならびに協議を経て、2009 年度の教育改革推進会議（2009 年 11 月 19 日）において、2010 年度以降の基本方針を以下のとおり決定した。

- ① 授業評価アンケートは毎年実施する。
- ② 「1 教員 1 科目」の原則による実施は、3 年に一度とする。
- ③ ②以外の年度は、「学部等の必要性に応じた選定」により実施する。

基本方針決定以降の、科目選定方針は以下のとおりである。2010 年度は定められた基本方針に拠って実施する初年度となり、上記②の「1 教員 1 科目」の原則により実施した。

・2010、2013、2016、2019、2022 年度：「1 教員 1 科目」

・2011、2012、2014、2015、2017、2018、2020、2021、2023、2024 年度：「学部等の必要性に応じた選定」

授業評価アンケート実施対象科目は、2019 年度まで専門演習、実験、集中講義や実技を伴う科目、全学共通科目の言語系科目を除外してきたが、2020 年度秋学期から「立教時間」による Web 方式を採用したことによって、設問項目の改訂が行われたことや、実施上限科目数、教室内でのマークシート用紙の配布等の制約が解消されたため、これらの除外科目についても含めることが可能となった。さらに、学部等が選定した実施科目に加えて、各教員が希望した科目において任意に「学生による授業評価アンケート」を実施可能とすることになった。

なお、2024 年度の各学部等における科目選定方針については、「2－3 各学部等の科目選定方針（p.11）」を参照されたい。

また、本アンケートはその性質から無記名で行われ、個人が特定される情報は教員・学部提供しないことを前提としてきた。さらに、2020 年度の教育改革推進会議（2020 年 10 月 1 日）において、履修登録者が 4 名以下の科目は実施対象外とすることを決定した。

1－5 回答結果の全学的な活用に向けて

本学は、従来、1－1 に記載した目的に沿い、「学生による授業評価アンケート」の集計結果を教員個人の授業改善や、学部等による FD の基礎資料として活用してきた。しかし、回答データを計量分析し、全学的な FD に活用するには至っていなかった。

そこで、2012 年度 10 月に発足した大学教育開発・支援センター教学 IR 部会では、2015 年度に 2013 年度の回答データを用いた分析を実施し、「教員の授業に対する工夫や努力、たとえば、各回の授業内容を明確に提示するよう意識するなどの取り組みによって、学生の授業や学習に対する意欲は高められる」という知見を得、教育改革推進会議を通じて全学へ

報告し、共有した（詳細は、2015 年度報告書に掲載）。

上述の知見を踏まえて、2017 年度に行われた第 1 回「立教大学教育活動特別賞」の選定にあたっては、2016 年度授業評価アンケートの一部の項目の集計結果を各学部等へ提供した。各学部等からの候補者の推薦を受けて、34 名の方々に賞を授与するとともに、受賞者の教育に関する優れた取り組みを共有するために、全学の FD 活動としてシンポジウムを開催した。その後、「立教大学教育活動特別賞」は第 2 回の 2020 年度では 28 名、第 3 回の 2023 年度では 30 名の方々に賞を授与するとともに、全学の FD 活動として広く共有する機会としている。

そして、「学生による授業評価アンケート」の運営主体について、2020 年度からは、このような全学の FD 活動をより推し進めていくために全学教務委員会の下に組織されていた「学生による授業評価アンケート」実施委員会を廃止とし、全学を対象とした FD・調査を担う大学教育開発・支援センターが中心となり、教務部の協力を得ながら進める体制へ移行されることになった。これにより、同センターの TL (Teaching & Learning) 部会では、本報告書の作成や回答結果を活用した FD プログラムの企画を、教学 IR (Institutional Research) 部会では、アンケート実施の企画やデータ集計・分析をそれぞれ担うことになった。

2. 授業評価アンケートの実施概要

本報告書において、「学部等」とは、各学部、グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター、全学共通カリキュラム運営センター、学校・社会教育講座を示す。また、学部表示は科目開設学部等を示しており、回答者（学生）の所属ではない。

2-1 実施方式

「立教時間」を用いた Web 方式にて実施した。

2-2 設問項目

全科目共通設問は、2023 年度の設問を踏襲し、すべて英語併記とした。

5 段階による評価方式の設問が 4、複数選択回答による設問が 3、数値入力による設問が 1、自由記述による設問が 3 の構成とした（p.8 参照）。設問の中には、必ずしも全科目には該当しないと思われるような設問もあるが、各設問項目の数値は、科目の特徴に照らして各科目担当者の裁量により解釈されるものとしている。

また、学部等によって独自の設問が設定できるよう、1 学部あたり最大で 6 設問を設定できるようにした。2024 年度は、経済学部（5 設問）、理学部（4 設問）、現代心理学部（2 設問）、全学共通カリキュラム運営センター（総合系科目 6 設問・言語系科目 6 設問）が学部等による設問項目を設定した（pp.9-10 参照）。

2024 年度「授業評価アンケート」設問項目（全科目共通設問）

数値入力、複数選択の設問以外の選択肢は 5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう
 思わない、1:そう思わない、の 5 件法となります。

(英文選択肢) 5. Strongly Agree 4. Agree 3. Neither Agree nor Disagree 2. Somewhat Disagree 1. Disagree

I 学生の学習姿勢 My participation in this course
I 1 この授業に積極的に参加した I actively participated in the lessons.
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に） ⇒数値による入力 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course. ⇒ Fill in how many hours.
II 教員の授業改善に向けて To improve instructors' teaching
II 1 各回の授業内容は明確だった The content of each lesson was clear.
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった The instructor's way of communicating was easy to understand.
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】 ①配付資料(授業のレジュメなど)、②板書(電子媒体のものを含む)、③パワーポイント、④動画等の映像視 覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)、⑤シラバス、⑥上記にあてはまるものがない Is there anything that you thought good about this course?【Multiple answers allowed】 ①Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) ②Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) ③PowerPoint ④Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) ⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
II 4 II 3 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自 由記述】 If there is any reason for the answers for II 3 and other things you thought good about this course, please explain. 【Free writing】
II 5 この授業で改善すべき点があった点がありますか【複数選択可】 ①配付資料(授業のレジュメなど)、②板書(電子媒体のものを含む)、③パワーポイント、④動画 等の映像視覚教材(オンライン授業そのものの動画ではありません)、⑤シラバス、⑥上記にあては まるものがない Is there anything that can improve this course?【Multiple answers allowed】 ①Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) ②Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) ③PowerPoint ④Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself) ⑤Syllabus ⑥N/A not applicable
II 6 II 5 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自 由記述】 If there is any reason for the answers for II 5 and other things that can be improved, please explain. 【Free writing】
III 学生が授業に期待するもの Student's expectations of this course
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】 ①自分にとって新しい考え方・発想、②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識 ③自分で調べ考える姿勢、④学問的興味、⑤上記にあてはまるものがない Through this course I learned/acquired the following.【Multiple answers allowed】 ①New concepts and new ways of thinking ②Basic academic knowledge related to the field taught in this course ③A positive attitude towards doing my own research and analysis ④Academic content which was suitably challenging ⑤N/A not applicable
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. 【Free writing】
III 3 この授業を受けて満足した I was satisfied with this course.

2024 年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）（1/2）

学部等	「学部等による設問」	
	有無	(6 項目まで。1 項目は 10～30 字程度)
文学部	無	
経済学部	有	1) (基礎ゼミナール 1) 経済関連の文献を読む力がついた 2) (基礎ゼミナール 1) レジューメやレポート作成の力がついた 3) (データ分析入門 1) 表計算ソフト (Excel) の応用力が身についた 4) (データ分析入門 1) Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた 5) (データ分析入門 1) WEB 上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた 1) (Pro-Seminar1) I gained the ability to read economic literature. 2) (Pro-Seminar1) I gained the ability to create resumes and reports. 3) (Introduction to Data Analysis 1) I have acquired the ability to utilize spreadsheet software (Excel). 4) (Introduction to Data Analysis 1) I have acquired the ability to create presentation materials in Power Point. 5) (Introduction to Data Analysis 1) I have acquired the ability to collect economic and statistical data from the web.
理学部	有	1) シラバスに沿って授業が行われた 2) 教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた 3) (必修科目のみ) 授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった 4) (1年次必修科目のみ) 教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた 1) The instructor conducted lessons based on the syllabus. 2) The instructor was willing to answer my questions/inquiries. 3) (This question is for the compulsory subjects only.) We solved problems through group works (i.e., working out exercises together, etc.) during the lessons. 4) (This question is for the freshman's compulsory subjects only.) The instructor gave us lessons with due consideration of the difference of lesson styles between high school's and university's.
社会学部	無	
法学部	無	
経営学部	無	
異文化コミュニケーション学部	無	
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	無	
観光学部	無	
コミュニティ福祉学部	無	

2024 年度「授業評価アンケート」設問項目（学部等による設問）（2/2）

学部等	「学部等による設問」	
	有無	(6 項目まで。1 項目は 10～30 字程度)
現代心理学部	有	1)この授業の受講者数は適切だった 2)この授業の設備・環境に満足している 1)The number of the students in this class is appropriate. 2)The facilities and learning environments in this class are satisfactory.
スポーツ ウエルネス学部	無	
全学共通 カリキュラム 運営センター (総合)	有	1)この授業の教室の大きさは適切だった 2)この授業の受講者数は適切だった 3)この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった(大きさの観点を除く) 4)【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた 5)【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた 6)【F 科目のみ対象】この授業を通して英語で学ぶことに対する意欲が向上した 1)The size of the classrooms was appropriate. 2)The number of students in this class was appropriate. 3)The environment and facilities in the classroom where this class was held were adequate(except in terms of size). 4)[For Introduction to Academic Studies] Through this class, I felt the difference between high school and university learning. 5)[For Introduction to Academic Studies] This class helped to acquire proactive attitude towards university learning. 6)[For Comprehensive Courses conducted in foreign languages] Through this class, my motivation to learn in English has improved.
全学共通 カリキュラム 運営センター (言語)	有	1)宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立った 2)宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた 3)授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた 4)この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】 ①読む力、②書く力、③聞く力、④話す力、 ⑤プレゼンテーションをする力、⑥ディスカッションをする力 5)その言語圏の社会や文化についての知見を得られた 6)その言語の学習を継続したいと思うようになった 1)The homework and assignments were useful for understanding course content. 2)Feedback about homework and assignments, and responses to questions were sufficient. 3)Content covered in previous lessons was reviewed sufficiently. 4)What abilities did you improve through this course? (Multiple selections possible) ①Reading ability, ②Writing ability, ③Listening ability, ④Speaking ability, ⑤Presentation ability, ⑥Discussion ability 5)I could gain insights into the society and culture of this linguistic community. 6)I feel like continuing to study this language.
学校・社会 教育講座	無	

2-3 各学部等の科目選定方針

実施対象科目は、学士課程における 2024 年度開講科目である。

2024 年度は、基本方針により「学部等の必要性に応じた選定」により実施した（詳細は p.20 参照）。各学部等の選定方針は、下表のとおりである。

学部等	科目選定方針
文 学 部	(1) 各学科・専修の導入教育（初年次教育）科目 ①1 年次必修科目 ②1 年次で履修可能な科目 ③2 年次必修科目 ④2 年次で自動登録となる科目 (2) 文学部基幹科目 (3) 各学科・専修で必要と認める科目
経 済 学 部	(1) 「講義科目 1 教員 1 科目」の調査は実施しない (2) 本年度については原則春学期に実施するが、通年科目は秋学期に実施する。ただし「社会経済学入門」及び「ミクロ・マクロ経済学入門」は、それぞれ春・秋学期に実施する。また簿記 1・2 は同一教員のため秋学期のみに実施する (3) 共通シラバスを用い、授業の目的及び内容にある程度の共通性があり、複数コマ開講されている科目及び積み上げ方式の 1 年次科目についてアンケートを実施する
理 学 部	(1) 数学科では新カリキュラム（2021 年度より移行）の有効性を検証するために、新カリキュラムにおける新規に設計した必修科目・選択必修科目について、定点観測（毎年、同じ科目で調査）を行う (2) 物理学科では原則として複数担当科目以外の全ての講義科目を選定する。経年変化を見るために、なるべく毎年同じ科目について、アンケートを実施する。ただし、講義は受講者が少ない場合が多いので、担当者の希望がある場合のみ実施することにする。また、一部の実験・演習科目でも行う (3) 化学科では原則として、必修講義科目ならびに選択講義科目（複数教員担当科目を除く）の経年変化を調査するために、毎年同じ科目についてアンケートを実施する (4) 生命理学科では授業評価に対する改善策の具体的効果を継続的に検証するために、前年度と同じ科目についてアンケートを実施する。なお、教員の希望により追加する科目もある (5) 共通教育科目では、受講者の少ない科目、ゼミナール科目を除いて実施する
社 会 学 部	(1) 必修科目はすべて実施する (2) 「講義科目」については、科目の種類を問わず、なるべく「年間 1 教員 1 科目」となるように選定作業を行う
法 学 部	(1) 3 年に 1 回全教員（専任・兼任）について、1 教員 1 科目を原則に行う (2) (1) を行わない年度については、本学で初めて授業を開講する教員、およびアンケートの実施を希望する科目を対象に行う ※2024 年度は (2) に該当する
経 営 学 部	「演習」を除く全科目で実施する。ただし、科目特性を考慮して、独自にアンケートを実施する科目については、当該アンケートの実施対象に含めない
異文化コミュニケーション学部	2024 年度からの新カリキュラム・定員増を受けてアンケート結果に目立った変化が生じるかを検証するため、以下の科目を対象とする (1) 1 年次必修科目 (2) 1 年次自動登録科目 (3) 基礎科目 (4) 新規開講された基盤科目
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	演習系科目は実施対象外とする

学部等	科目選定方針
観 光 学 部	(1) 原則として学部方針によって選定する 2 年間のうちに全教員 1 回 1 科目で実施する (2) 演習科目は対象としない (3) 複数教員担当科目は対象としない (4) 集中講義は対象としない
コミュニティ福祉学部	(1) 学部専任教員（助教含む）1 科目以下の実施を原則とする (2) 資格科目を優先する (3) 演習科目は対象外とする (4) 昨年度実施科目を優先する
現 代 心 理 学 部	(1) 学部専任教員が担当する「初年次教育科目」 (2) 学部専任教員が担当する「講義科目」及び「共通シラバスにより展開される一部の科目」 なお、「演習科目」「実験科目」及び「複数教員担当科目」は、原則として実施対象としない
スポーツウエルネス学部	(1) 学部専任教員（助教含む）1 科目以下の実施を原則とする (2) 資格科目を優先する (3) 演習科目は対象外とする (4) 昨年度実施科目を優先する
全学共通カリキュラム運営センター（総合）	(1) 学びの精神、多彩な学び 1～6 カテゴリの全科目、F 科目の全科目、演習系「立教ゼミナール発展編」の全科目を対象とする (2) 学びの精神、多彩な学び 1～5 カテゴリを担当する 1 教員（専任・兼任）1 科目の実施とする。ただし、F 科目（導入）、「立教ゼミナール発展編」を担当する教員はこれに追加して実施する (3) 多彩な学び・6 カテゴリで開講するグローバル教育センター提供科目は、本学で開講される全科目で実施をする (4) 1 教員につき実施対象候補科目が複数ある場合には、以下の順序で、実施科目を選定する ① 学びの精神を優先 ② 多彩な学びの企画提案型科目「コラボレーション科目」を優先 ③ 新座開講科目を優先 ④ 2 時限・3 時限を優先 ⑤ 全体における春学期・秋学期の実施科目数に配慮する
全学共通カリキュラム運営センター（言語）	原則として、全科目実施する。ただし、連続性のある科目（例：「～語 1/2」「～語 A/B」「上級英語 1・2」）を同一教員が春学期・秋学期担当する場合は、秋学期のみ実施する
学校・社会教育講座	(1) 履修者 5 名以下が予想される科目は対象外とする (2) 教職課程は「講義科目 1 教員 1 科目」を原則として実施する (3) 他課程は、今年度、特に授業評価を要する重点的科目に限って、アンケートを実施する

2-4 実施科目数

最少回答人数（5名以上）の条件を満たした科目数を実施科目数とする。
（最少回答人数に満たなかった科目については、学部提供データをはじめとした各種統計データには含めないこととする。）

実施科目数は、春学期 1,346 科目、秋学期 1,468 科目、合計 2,814 科目であった。
所見票提出率は 85.79%（2,414/2,814）となった。

科目開設学部等	実施 予定 科目数	実施学期内訳		実施 科目数 (回答者 5名以上)	実施学期内訳		所見票 提出数	実施学期内訳	
		春学期	秋学期		春学期	秋学期		春学期	秋学期
文 学 部	149	72	77	114	59	55	89	50	39
経 済 学 部	70	54	16	61	47	14	55	43	12
理 学 部	122	60	62	105	55	50	93	48	45
社 会 学 部	122	60	62	99	49	50	76	40	36
法 学 部	19	12	7	13	9	4	10	8	2
経 営 学 部	91	48	43	61	34	27	34	18	16
異文化コミュニケーション学部	79	41	38	65	33	32	50	26	24
グローバル・リベラル・アーツ・プログラム運営センター	40	22	18	22	13	9	14	10	4
観 光 学 部	59	30	29	50	26	24	37	20	17
コミュニティ福祉学部	31	21	10	31	21	10	28	20	8
現 代 心 理 学 部	17	6	11	15	6	9	13	4	9
スポーツウエルネス学部	20	9	11	16	8	8	12	7	5
全学共通カリキュラム運営センター ・総合系科目	438	236	202	373	213	160	277	163	114
全学共通カリキュラム運営センター ・言語系科目	2,152	874	1,278	1,740	740	1,000	1,586	657	929
学校・社会教育講座	55	36	19	49	33	16	40	29	11
合 計	3,464	1,581	1,883	2,814	1,346	1,468	2,414	1,143	1,271

2-5 実施期間

原則として 13 回目の授業時に実施し、休講等で実施できなかった場合は 14 回目（最終授業）の授業時もしくは、実施期間終了時まで実施することとした。

春学期：2024 年 7 月 6 日（土）～7 月 12 日（金）

- ・（予備週）7 月 13 日（土）～7 月 19 日（金）
- ・学生が回答可能な期間は 7 月 6 日（土）～7 月 19 日（金）

秋学期：2024 年 12 月 21 日（土）～2025 年 1 月 14 日（火）

- ・（予備週）1 月 15 日（水）～1 月 21 日（火）
- ・学生が回答可能な期間は 12 月 21 日（土）～1 月 21 日（火）

なお、四半期科目については原則として 7 回目の授業時に実施し、学生が回答可能な期間はこの実施期間に加えて期間終了後の 1 週間延長することとした。

春学期 1：2024 年 5 月 25 日（土）～5 月 31 日（金）

- ・学生が回答可能な期間は 5 月 25 日（土）～6 月 7 日（金）

秋学期 1：2024 年 11 月 8 日（金）～11 月 14 日（木）

- ・学生が回答可能な期間は 11 月 8 日（金）～11 月 21 日（木）

2-6 回答者数

アンケート実施科目の延べ回答者数を、科目の開設学部等別に下表にまとめた。参考のために、延べ履修者数も表に載せた。

アンケートの回答率（※）は、40.2%（〈B〉 63,286 / 〈A〉 157,367）であった。

※ 〈B〉 集計対象科目回答者数（回答者 5 名以上） / 〈A〉 集計対象科目履修者数（回答者 5 名以上）

科目開設学部等	春学期		秋学期		合 計	
	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数	履修者数	回答者数
文 学 部	5,580	2,141	5,024	1,441	10,604	3,582
経 済 学 部	2,958	1,466	1,346	427	4,304	1,893
理 学 部	4,106	1,657	3,294	1,349	7,400	3,006
社 会 学 部	9,299	2,466	8,061	1,666	17,360	4,132
法 学 部	2,395	772	306	39	2,701	811
経 営 学 部	7,164	1,049	5,833	749	12,997	1,798
異文化コミュニケーション学部	1,756	867	1,488	641	3,244	1,508
グローバル・リベラル・アーツ・プログラム運営センター	324	191	149	91	473	282
観 光 学 部	4,372	1,319	3,770	1,162	8,142	2,481
コミュニティ福祉学部	2,800	1,348	1,421	705	4,221	2,053
現 代 心 理 学 部	775	292	1,096	321	1,871	613
スポーツウエルネス学部	1,212	795	673	264	1,885	1,059
全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目	24,131	8,070	19,047	4,964	43,178	13,034
全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目	15,199	11,481	21,457	14,523	36,656	26,004
学校・社会教育講座	1,307	646	1,024	384	2,331	1,030
合 計	83,378	34,560	73,989	28,726	157,367	63,286

2-7 「所見票」の公開

所見票（科目別の集計結果および科目担当者による所見）は、Web 上で学生・教職員（兼任講師含む）に対し閲覧に供している。

※閲覧にあたっては V-Campus ID / パスワードが必要

< 立教時間：所見票検索 >（2020 年度以降の所見票）

教職員：<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/tcr/ces/feedback/search/index>

学 生：<https://portfolio.rikkyo.ac.jp/stu/ces/feedback/search/index>

※2019 年度以前の所見票の閲覧を希望する場合は、大学教育開発・支援センターにて個別に対応する

2-8 任意実施科目

大学教育開発・支援センターより「立教時間（SPIRIT メール）」を通じて、任意実施について案内を行い、春学期は 12 科目、秋学期は 8 科目実施した。

3. 科目担当者・学部等への集計結果のフィードバック

3-1 科目担当者

担当科目の以下の集計結果をアンケート実施 1～2 ヶ月後に「立教時間」上に掲載し、これらを基に、科目担当者に所見票の執筆を依頼した（p.16 にサンプル画面を掲載）。

- ・ 回答情報（自由記述回答含む）
- ・ 回答統計情報

3-2 学部等

以下により集計し、2) の結果と科目担当者が執筆した所見票を送付の上、学部等総評の執筆を依頼した。

1) 集計の方針

集計の方針は、以下のとおりとした。

- ① 学部等別・学科等別に集計する。
- ② 科目選定方針が「学部等の必要性に応じた選定」である本年度は、全学集計は行わない。また、全学部等の設問項目別平均値・回答割合（学部等間比較）の一覧表は作成しない。

2) 集計内容

① 回答者数・回答率

アンケート回答者数を学部等別、学年別に集計した（合計も記載）。また、アンケート実施科目について学部等別の回答率（回答者数/履修者数）を算出した（p.79 参照）。

② 平均値・回答割合に関する集計

平均値・回答割合に関する集計は、下表のとおり行った。

提供した 集計データ	集計単位	
	学部等別 *1	学科等別 *1
設問項目別	● *2 (pp.80-94 参照)	●
授業規模別	●	—
学年別	●	—

*1 学部等には、当該学部の結果を提供

*2 学部等には、該当項目別に回答割合を示した帯グラフも提供

サンプル <授業評価アンケート結果確認・所見入力画面> (1/2)

立教時間

立教太郎

≡

Home / ※科目名が入る / 授業評価アンケート選択 / 授業評価アンケート入力・確認

✎

授業評価アンケート結果確認・所見入力

授業評価アンケート結果確認・所見入力

キャンセル一時保存する入力内容を確認ダウンロード

2024年度秋学期「学生による授業評価アンケート」

所見ステータス	未着手
教室情報	
所見提出日	
アンケート入力期間	
所見入力期間	
シラバスの参照	
説明	このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。調査は無記名で行われ、回答の内容が成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、みなさん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもって回答してください。 The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rikkyo University. Please keep in mind that the evaluation is conducted anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rikkyo University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

回答数:5件

1 学生の学習姿勢

1 My participation in this course

1-1 この授業に積極的に参加した

1-1 I actively participated in the lessons.

5 大いにそう思う／Strongly Agree:20% (1)

4 そう思う／Agree:20% (1)

3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:20% (1)

2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:20% (1)

1 そう思わない／Disagree:20% (1)

1-2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）

1-2 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course.

⇒Fill in how many hours.

平均：3.0 (5)

2 教員の授業改善に向けて

2 To improve instructors' teaching

みなさんの回答は教員が読み、授業の参考にします。無責任な誹謗や中傷は避け、真摯な態度で回答してください。

The instructor will read every comment to make improvements in their course design and management in the future. Please focus on providing constructive feedback and suggestions (as opposed to defamatory comments or personal attacks).

2-1 各回の授業内容は明確だった

2-1 The content of each lesson was clear.

5 大いにそう思う／Strongly Agree:20% (1)

4 そう思う／Agree:20% (1)

3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:20% (1)

2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:20% (1)

1 そう思わない／Disagree:20% (1)

2-2 教員の伝え方はわかりやすかった

2-2 The instructor's way of communicating was easy to understand.

5 大いにそう思う／Strongly Agree:20% (1)

4 そう思う／Agree:20% (1)

3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:20% (1)

2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:20% (1)

1 そう思わない／Disagree:20% (1)

2-3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】

2-3 Is there anything that you thought good about this course? 【Multiple answers allowed】

配付資料（授業のレジュメなど）／Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (5)

板書（電子媒体のものを含む）／Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (4)

サンプル <授業評価アンケート結果確認・所見入力画面> (2/2)

	パワーポイント/PowerPoint (3) 動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) /Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (2) シラバス/Syllabus (1) 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (0)
2-4 上記2-3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】 2-4 If there is any reason for the answers for 2-3 and other things you thought good about this course, please explain. 【Free writing】	自由記述サンプル回答 1 自由記述サンプル回答 2 自由記述サンプル回答 3 さらに表示... (残2件)
2-5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】 2-5 Is there anything that can improve this course? 【Multiple answers allowed】	配付資料 (授業のレジュメなど) /Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (5) 板書 (電子媒体のものを含む) /Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (4) パワーポイント/PowerPoint (3) 動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) /Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (2) シラバス/Syllabus (1) 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (0)
2-6 上記2-5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】 2-6 If there is any reason for the answers for 2-5 and other things that can be improved, please explain. 【Free writing】	自由記述サンプル回答 1 自由記述サンプル回答 2 自由記述サンプル回答 3 さらに表示... (残2件)
3 学生が授業に期待するもの 3 Student's expectations of this course	
3-1 この授業から得ることができたものはありますか【複数選択可】 3-1 Through this course I learned/acquired the following. 【Multiple answers allowed】	自分にとって新しい考え方・発想/New concepts and new ways of thinking (5) 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識/Basic academic knowledge related to the field taught in this course (4) 自分で調べ考える姿勢/A positive attitude towards doing my own research and analysis (3) 学問的興味/Academic content which was suitably challenging (2) 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (1)
3-2 上記3-1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 3-2 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. 【Free writing】	自由記述サンプル回答 1 自由記述サンプル回答 2 自由記述サンプル回答 3 さらに表示... (残2件)
3-3 この授業を受けて満足した 3-3 I was satisfied with this course.	5 大いにそう思う/Strongly Agree:20% (1) 4 そう思う/Agree:20% (1) 3 どちらともいえない/Neither Agree nor Disagree:20% (1) 2 あまりそう思わない/Somewhat Disagree:20% (1) 1 そう思わない/Disagree:20% (1)

ダウンロード

担当教員の所見

授業評価に対する担当教員の所見 Feedback from instructor on class evaluation survey	(0 / 800)
改善に向けた今後の方針 Plans for improvements in the future	(0 / 800)

キャンセル

一時保存する

入力内容を確認

立教時間

立教太郎

≡

Home / 所見票検索 / 授業評価アンケート選択 / 所見票確認

※科目名が入る

授業評価入力・確認

2024年度秋学期「学生による授業評価アンケート」

担当教員名	立教太郎
ステータス	確定
教室情報	
提出日	
アンケート入力期間	
シラバスの参照	クリックしてシラバスを表示
説明	このアンケートは、立教大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。調査は無記名で行われ、回答の内容が成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、みなさん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任をもって回答してください。 The aim of this Class Evaluation is to improve the content of the courses and the curriculum in order to enhance the quality of education at Rikkyo University. Please keep in mind that the evaluation is conducted anonymously and in no way will your evaluation affect your grade in this course. As an important member of Rikkyo University, your feedback is indispensable to improve the quality of our education. Please provide your candid and constructive opinions below.

回答数:5件

1 学生の学習姿勢

1 My participation in this course

1-1 この授業に積極的に参加した 1-1 I actively participated in the lessons.	5 大いにそう思う／Strongly Agree:60% 4 そう思う／Agree:0% 3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:20% 2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:20% 1 そう思わない／Disagree:0%
1-2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に） 1-2 Outside of the lessons, I spent an average of ... per week studying for this course. ⇒Fill in how many hours.	平均：3.0 (5)

2 教員の授業改善に向けて

2 To improve instructors' teaching

みなさんの回答は教員が読み、授業の参考にします。無責任な誹謗や中傷は避け、真摯な態度で回答してください。
The instructor will read every comment to make improvements in their course design and management in the future. Please focus on providing constructive feedback and suggestions (as opposed to defamatory comments or personal attacks).

2-1 各回の授業内容は明確だった 2-1 The content of each lesson was clear.	5 大いにそう思う／Strongly Agree:100% 4 そう思う／Agree:0% 3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:0% 2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:0% 1 そう思わない／Disagree:0%
2-2 教員の伝え方はわかりやすかった 2-2 The instructor's way of communicating was easy to understand.	5 大いにそう思う／Strongly Agree:100% 4 そう思う／Agree:0% 3 どちらともいえない／Neither Agree nor Disagree:0% 2 あまりそう思わない／Somewhat Disagree:0% 1 そう思わない／Disagree:0%
2-3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】 2-3 Is there anything that you thought good about this course? 【Multiple answers allowed】	配付資料（授業のレジュメなど）／Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (4) 板書（電子媒体のものを含む）／Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (0)

サンプル <所見票> (2/2)

パワーポイント/PowerPoint (2) 動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) /Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (4) シラバス/Syllabus (0) 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (0)	
2-4 上記2-3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】 2-4 If there is any reason for the answers for 2-3 and other things you thought good about this course, please explain. [Free writing]	
2-5 この授業で改善すべき点があった点がありますか【複数選択可】 2-5 Is there anything that can improve this course? [Multiple answers allowed]	配付資料 (授業のレジメなど) /Handouts (Worksheets, including digital resources etc.) (0) 板書 (電子媒体のものを含む) /Write on the blackboard (Written communication in class, including use of digital whiteboards) (0) パワーポイント/PowerPoint (0) 動画等の映像視覚教材 (オンライン授業そのものの動画ではありません) /Video and other visual aids (This is not a video of the online class itself.) (0) シラバス/Syllabus (0) 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (4)
2-6 上記2-5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】 2-6 If there is any reason for the answers for 2-5 and other things that can be improved, please explain. [Free writing]	
3 学生が授業に期待するもの 3 Student's expectations of this course	
3-1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】 3-1 Through this course I learned/acquired the following. [Multiple answers allowed]	自分にとって新しい考え方・発想/New concepts and new ways of thinking (3) 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識/Basic academic knowledge related to the field taught in this course (3) 自分で調べ考える姿勢/A positive attitude towards doing my own research and analysis (2) 学問的興味/Academic content which was suitably challenging (3) 上記にあてはまるものがない/N/A not applicable (0)
3-2 上記3-1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】 3-2 If you have any other learned/acquired comments and opinions about this course, please explain. [Free writing]	
3-3 この授業を受けて満足した 3-3 I was satisfied with this course.	5 大いにそう思う/Strongly Agree:80% 4 そう思う/Agree:20% 3 どちらともいえない/Neither Agree nor Disagree:0% 2 あまりそう思わない/Somewhat Disagree:0% 1 そう思わない/Disagree:0%

担当教員の所見： 立教太郎

授業評価に対する担当教員の所見 Feedback from instructor on class evaluation survey	※所見が表示されます
改善に向けた今後の方針 Plans for improvements in the future	※所見が表示されます

戻る

4. 学部等総評

学部等総評は、科目ごとの集計結果、各教員の執筆した所見および学部全体の集計結果をもとに、下記を基本形として、各学部等が執筆した。

＜構成の基本形＞

1. 科目選定方針とねらい
2. 集計データにみられる結果のまとめ
3. 担当教員の所見に対するまとめ（学生の意見に関する内容を含む）
4. 今後の改善に向けて

4-1 文学部

1. 科目選定方針とねらい

2024 年度は、全学の科目選定方針である「学部等の必要性に応じた選定」の原則に基づき、導入ならびに基礎科目を中心として調査を行うことを学部の方針とし、次の三つの基準で科目を選定した。

- (1) 各学科・専修の導入教育（初年次教育）科目
- (2) 文学部基幹科目
- (3) 各学科・専修で必要と認める科目

2023 年度と同じく学部による設問項目については設定せず、全科目共通設問に拠ってアンケートを行った。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

アンケートの対象科目数は全 149 科目（春学期：72、秋学期：77）、実施科目数は全 114 科目（春学期：59、秋学期 55）であった。対象科目の履修者数は 10,604 人、回答者数は 3,582 人で、回答率は 33.8%であった。回答率の全体平均 40.2%を下回っているものの、昨年度の回答率（34.5%）とほとんど変動はない。近年の回答率の推移を見ると、2021 年度：31.8%、2022 年度：31.3%、2023 年度：34.5%となっており、同じ水準で推移している。

もちろん、3 割強という回答率は数値として低いと判断せざるをえない。ただ、他学部と比較してみると、文学部同様に履修者数の合計が一万を超え、かつ回答者数が数千名に上る学部は回答率が低い（参考：社会学部：23.8%、経営学部：13.8%）。こうした傾向の理由としては、少人数の演習系科目と違い、大教室での講義系科目においては不特定多数の学生に回答を強いることが難しいためと推測できる。これは回答率向上の案を今後考えるうえで留意すべきポイントである。

学年別の回答者数を見ると、1 年生 1,535 名、2 年生 1,089 名、3 年生 618 名、4 年生 330 名、その他が 10 名であった。初年次教育科目、基幹科目を中心にアンケート対象科目を選定した文学部の狙いに沿った回答者分布になっている。

I 「学生の学習姿勢」

文学部の平均値は、「I1 この授業に積極的に参加した」が 4.34、「I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間」が 1.40 となった。いずれも昨年度の数値（「I1」=4.31、「I2」=1.29）から微増している。内訳を見ると、後者に関しては「1 時間」がもっとも多く、次に多かったのが「0 時間」であり、授業外の学習時間の少なさが気がりである。文学部では、演習系科目に比べて予習時間が少ないであろう講義系科目も多く展開されている事情も、この数字に関係していると考えられる。いずれにせよ、学生の授業外の学習を促すことが課題であることがこの数字からわかる。

II 「教員の授業改善に向けて」

文学部の平均値は、「II1 各回の授業内容は明確だった」が 4.39、「II2 教員の伝え方はわかりやすかった」が 4.30 となった。いずれも昨年度の数値（「II1」=4.36、「II2」=

4.27) から数値的には微増している。授業内容や方法に関する評価点を「Ⅱ3 この授業でよいと思った点がありますか」(複数回答可)で見ると、「配付資料(授業のレジュメなど)」が 55.5%、「パワーポイント」が 32.8%、「動画等の映像視覚教材」が 23.7%となっており、ここ数年の傾向・数値とほとんど変わらない。これらの数字から、授業での配付資料、投影するパワーポイントの質が学生にとって主たる評価基準となっていることが明らかであり、教員はこの点を意識して授業準備を考える必要があるだろう。

なお、前年同様、「シラバス」に関する数値は選択肢中、最も低い(7.1%)。「Ⅱ5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか」(複数回答可)でも「シラバス」の数値は 2.2%と最も低く、シラバスに関する数値の低さが際立っている。以上から、学生がシラバスの内容に細かく注意を向けていないという可能性を読みとることができ、各教員はシラバスの内容を所与のものとするのではなく、学期開始の時点で授業のルールや目的などを丁寧に学生に説明することが求められる。

Ⅲ「学生が授業に期待するもの」

「Ⅲ1 この授業から得ることができたものがありますか」(複数回答可)に関しては、例年通り「①自分にとって新しい考え方・発想」および「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の数値が高く(それぞれ 59.2%、60.4%)、導入教育科目や基幹科目の狙いに沿った結果であるといえる。「自分で調べ考える姿勢」は今年度は 27.6%となっており、2022 年度以来、若干の改善の兆しが見られる(2022 年度: 25.1%、2023 年度: 26.5%)。「学問的興味」については 45.4%となっており(2022 年度: 49.2%、2023 年度: 45.7%)、2022 年度に比べると減少傾向にあるのが気がりである。一方、授業の満足度は全体が 4.40 と、2022 年度の 4.37、2023 年度の 4.36 と同水準であり、全体として質の高い授業を提供できていると総括できる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生からの肯定的な意見として多く取り上げられているのは、レジュメや配付資料、パワーポイント、動画資料の充実度であった。これらは Canvas LMS 等で共有可能であり、かつ講義終了後も閲覧、ダウンロードが可能であることから、講義内容を復習できる環境の提供が高い評価につながっていると考えられ、この点は昨年度と同様である。また、リアクションペーパーの内容の共有、教員による応答に対する学生の高い評価も目立つ。演習系科目はもちろんのこと、大人数講義においても授業の双方向性を担保することの重要性がここから浮き彫りになる。

学生からの否定的な評価・意見として目に付くのは、まさに上記の肯定的評価の裏返しであり、リアクションペーパーへのフィードバックがないことに対する不満である。大人数の講義系科目であっても、学生の側は何かしらの双方向性を求めていることが見てとれる。また、配付資料・掲示資料の読みづらさ、特にパワーポイントの文字数が多いといった不満の声が目立つ。

予習にかけた時間に関する学生の回答に対し、教員側が想定していた予習時間よりも少なかったことを嘆く声が散見された。また、授業中に投影するパワーポイントを配布してほ

しいとの希望に対し、授業中に集中してメモを取ることの重要性を訴える所見も複数あった。また、すでにシラバスに記載されている、あるいは授業中に説明した授業方針に対して学生が不満を漏らしている例が複数あり、教員の側でこれ以上は如何ともしがたいとする反応も見られた。また、文字テキストの読解を主眼とする授業にもかかわらず、映像資料を使ってほしいとの学生からの要望に困惑する所見も複数見受けられた。以上のように、各教員が授業で目指す教育効果と学生側の要望の齟齬が見受けられる。この点は、先述したように、学生がシラバスをしっかりと読まないで授業を受講している件と連動しているはずである。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

どの教員もアンケートの内容を真摯に受け止めて、具体的な改善の方針を示している。ただし先述の教育効果と学生の要望の齟齬などに関しては、学生の要望をそのまま聞いて反映すればよいものではなく、教員の側が学生に対してどのような狙いをもって授業運営をしているのか、丁寧に説明することが望ましい。学生の側の努力で補えることを、教員が先回りして懇切丁寧に対応することが本当に教育効果を産むのかどうかは立ち止まって考えるべき点である。そうした行き違いを防ぐためにも、授業の狙いと目的を学生に向けてより明確に説明することが、学生の満足度向上と授業改善につながると思われる。

4. 今後の改善に向けて

数年来の懸案事項である回答率の低さについては、引き続き検討が必要である。個々の教員も授業時間内で回答時間を設けるなど工夫をしているが、履修者数が100名を超える大人数講義は回答率が低くなる傾向が顕著である。このことから、特に大人数の講義で回答率をどう上げるかということが今後の中心的な課題になるであろう。一つの対策として、授業中にアンケートを答える時間を必ず設けるといった工夫が考えられる。また、兼任講師の方々に本学におけるアンケートの重要性を認識してもらうことも重要である。

学生側の要求と教員側の教育目標の乖離についても、今後は対応が必要であろう。先述のとおり、各教員はシラバスの内容を学生に理解されていることを前提にするのではなく、学期開始の時点で授業のルールや目的などを丁寧に学生に説明することによってこの齟齬はある程度は解消されると期待できる。

また、2023年度の総評において、「学生の主体的に学ぶ姿勢を引き出す授業づくりを目指した、各教員の授業改善」が今後の課題として提示されていた。今回のアンケートの中で、この課題に対しての工夫と改善策として目立ったものを挙げると、(1) リアクションペーパーに対するフィードバックを与えた、(2) Canvas LMS の「ディスカッション」機能を活用した、(3) 授業資料（パワーポイントなど）を事前に学生と共有した、といったものがある。いずれも学生の学習意欲を活性化することに寄与したようなので、次年度以降も同様の対応を継続することが望ましい。

最後に、次年度以降のさらなる課題としては、先述した学生の授業外の学習時間の少なさを挙げておきたい。授業外の学習を促すためには、例えば前段落で述べたように、事前に資料を共有することで学生が予習しやすい環境を整えることなどが考えられるが、ほかにも対策を模索していくべきであろう。

4-2 経済学部

1. 科目選定方針とねらい

2024 年度の選定方針は概ね以下の通りである。

- (1) 「講義科目 1 教員 1 科目」の調査は実施しない。
- (2) 本年度については原則春学期に実施するが、通年科目は秋学期に実施する。ただし「社会経済学入門」及び「ミクロ・マクロ経済学入門」は、それぞれ春・秋学期に実施する。また簿記 1・2 は同一教員のため秋学期のみに実施する。
- (3) 共通シラバスを用い、授業の目的及び内容にある程度の共通性があり、複数コマ開講されている科目及び積み上げ方式の 1 年次科目についてアンケートを実施する。

アンケートのねらいは、学生側からの授業評価を通じて、今後における授業改善のための課題を各々の授業担当教員が認識することにある。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2024 年度のアンケート実施科目数は 61 科目（実施対象科目 70 科目）、回答者は延べ 1,893 名となった。履修者数に対する回答率は 44.0%と全学平均（40.2%）をやや上回ったが、2023 年度の学部回答率 51.0%から低下した。その要因として、アンケートの実施対象科目の大部分を 1 年次向けの必修あるいは自動登録科目としていることが挙げられる。これらの科目では、学部執行部から担当教員に対してアンケート実施に対する事前のアナウンスを強く要請してきたため、全学平均よりも高い回答率に結びついていた。しかしながら、今年度は 1 年次配当の「基礎ゼミナール」において、4 名以下の回答者にとどまるクラスが 6 クラス発生してしまった。このことが、回答率の低下に結びついたと考えられる。

設問項目別平均値についてまとめる。「Ⅰ 学生の学習姿勢」、「Ⅱ 教員の授業改善に向けて」、「Ⅲ 学生が授業に期待するもの」では、「Ⅰ 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」の平均値が 1.32 時間であったことを除いて、全ての項目で 4.15～4.40 という高い数値となっている。「Ⅳ 学部等による設問」においても、5 項目のうち 4 項目が 4.30 以上という非常に高い数値となっている。5 項目すべてにおいて 4.0 以上ではあるものの、「Ⅳ1（基礎ゼミナール 1）経済関連の文献を読む力がついた」については 4.06 と、相対的に低い数値となっており、ここには改善の余地があると思われる。この点については、4. で後述する。

次に、設問項目別回答割合についてまとめる。「Ⅱ 3 この授業でよいと思った点がありますか（複数選択可）」では、「配付資料（授業のレジュメなど）」が 58.2%と突出しており、「パワーポイント」が 35.5%と続いている。注目すべきは、「Ⅱ 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか（複数選択可）」でも、「配付資料（授業のレジュメなど）」が 14.3%と最も高い数値になっていることである。学生にとってレジュメを含む配付資料が非常に重要であることが、これらの結果に反映されていると見られることから、配付資料の作成・配付について担当教員は十分に留意する必要がある。なお、Ⅱ 5 の回答の最上位は「上記にあてはまるものがない」の 60.3%であり、他の選択肢と比較して突出して高くなっている。現在、Ⅱ 3 と Ⅱ 5 は同一の選択肢となっているが、Ⅱ 5 の選択肢を改善し、より明確に学生の評価を図ることを考慮しても良いと思われる。「Ⅲ 1 この授業から得ることができたものはありますか（複数選択可）」で

は、「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 64.4%と最も高い一方で、「自分にとって新しい考え方・発想」、「自分で調べ考える姿勢」、「学問的興味」は、昨年度と同様に、いずれも 24.7～35.6%と相対的に低くなっており、ややアンバランスな回答となっている。ここにも改善の余地があると思われ、この点についても 4. で後述する。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

所見内容は各教員によって差異があるものの、概ね学生からの評価は高く、教員自身も手応えを感じていることがうかがえる。こうした中、Canvas LMS などの授業支援システムの活用や課題実施方法については、依然として学生からの要望が複数存在している点がやや目立つ。これまで Blackboard を使っていた教員が Canvas LMS に習熟していないことも考えられることから、この点については引き続き改善への取り組みが必要とされている。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

ゼミナール以外の科目については、板書や演習・実習方法における改善方針が中心である。いずれも学生からの要望に即したものであり、時間的余裕を持たせる方針が概ね共通している。また、私語についての対応方針も複数の科目で示されている。一部を除いて対面授業となっている現在、私語や「BeReal.」などの利用を含めた静謐な授業環境を阻害する行為への対応が改めて求められていると言える。この点については、2025 年度に注視したい。ゼミナール科目については、学生の発言を促す点に関する改善方針が中心である。この点については、各教員の様々な工夫が示されているので、成果があがることを期待したい。

4. 今後の改善に向けて

基本的には学生より高い評価を得ることができたと言えるが、改善の余地はある。まず、2. の第 2 段落で指摘した、「IV1（基礎ゼミナール 1）経済関連の文献を読む力がついた」、が相対的に低い割合となっていることについてである。「II3 この授業でよいと思った点がありますか（複数選択可）」で「配付資料（授業のレジュメなど）」が最も高い割合になっていることを踏まえると、配付資料の充実がむしろ授業外での経済関連の文献への関心を弱めている可能性がある。また、この点は、2. の第 3 段落で指摘した、「III1 この授業から得ることができたものはありますか（複数選択可）」で「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」以外の回答割合が低かったこととも関連していると考えられる。「自分にとって新しい考え方・発想」、「自分で調べ考える姿勢」、「学問的興味」は、いずれも授業内容を踏まえた授業外での自発的な学習を通してより多く得られると考えられるからである。これらの点は過年度から改善すべき課題として認識されてきたが、引き続き学生（とりわけ 1 年次生）に対し経済問題や経済学そのものへの関心を高める継続的試みが必要と考えられる。

こうした授業改善に関する課題や取組みを共有する場として、基礎ゼミナール担当者連絡会議、兼任講師懇談会、および FD 研修会などを設けているので、学生が配付資料や輪読文献以外の文献を手にとってくれるような取り組みを検討、実施していきたい。また、今年度の学部回答率の低下を踏まえ、上記の場を活用して、授業評価アンケート実施の重要性について更なる周知を図っていきたい。

4-3 理学部

1. 科目選定方針とねらい

「学部等の必要性に応じた選定」という全学の科目選定方針、および経年変化を調査するため同じ科目を選定するという理学部の方針に沿って、数学科は必修科目・選択必修科目、物理学科は原則すべての講義科目（複数教員担当科目を除く）、化学科は必修講義科目と選択講義科目（原則、複数教員担当科目を除く）、生命理学科は前年度と同じ科目を選定した。複数の科目が教員一人の担当とならないよう重複は避けた。共通教育科目は履修者数の少ない科目、ゼミナール科目を除いた科目について実施した。理学部独自の設問についても例年通り行った。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

理学部の回答率は 40.6%で、全学平均の 40.2%と同レベルであった。また、昨年度の回答率 37.1%、一昨年度の回答率 33.1%から増加傾向にある。それより前から現れた減少傾向は回復しつつあるようである。学年ごとにおける回答者数（延べ人数）は、1 年生 1,440 名（2023 年度 1,360 名、2022 年度 1,149 名、2021 年度 912 名）、2 年生 912 名（2023 年度 738 名、2022 年度 636 名、2021 年度 761 名）、3 年生 562 名（2023 年度 461 名、2022 年度 657 名、2021 年度 404 名）、4 年生 87 名（2023 年度 93 名、2022 年度 127 名、2021 年度 50 名）、その他 5 名となっており、学年が進むにつれて減少する傾向は例年と同様に見られた。

設問項目別平均値を見ていくと、「(I 2) この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」は 1.58 時間で、昨年度の 1.85 時間、一昨年度の 1.93 時間と比較すると微減の傾向が続いている。他の項目は、総じて前年度と比べ大きな変化は見られなかった。設問項目別回答割合について、「(II 3) この授業でよいと思った点はありますか」、「(II 5) この授業で改善すべきだと思った点はありますか」、「(III 1) この授業から得ることができたものはありますか」の項目についても、前年度から大きな変動はない。それぞれ、「(II 3 ①) 配付資料（授業のレジュメなど）」、「(II 5 ⑥) 上記にあてはまるものがない」、「(III 1 ②) 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 5 割以上と一番割合が大きかった。各設問の次点は「(II 3 ②) 板書（電子媒体のものを含む）」、「(II 5 ①) 配付資料（授業のレジュメなど）」、「(III 1 ①) 自分にとって新しい考え方・発想」だった。

学科間の比較では「(I 1) この授業に積極的に参加した」、「(II 1) 各回の授業内容は明確だった」、「(II 2) 教員の伝え方はわかりやすかった」、「(III 3) この授業を受けて満足した」、「(IV 3)（必修科目のみ）授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった」、「(IV 4)（1 年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた」で数学科のポイントが高い。物理学科は、昨年度に引き続き、「(I 2) この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」は 1.88 h で他学科より少し多いが、2023 年度の 2.34 h より少なくなった。いずれにせよ、2 時間以下で大変少ない。また、物理学科は「(II 1) 各回の授業内容は明確だった」、「(II 2) 教員の伝え方はわかりやすかった」、「(III 3) この授業を受けて満足した」は、4 以上であるものの他学科に比べて低い。「(I 2) この授業に関連して、授業以外に学習した時間」「(IV 3) 授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった」で化学科の

ポイントがやや低い。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

(数学科)

科目によってアンケートの回答数が少ないため、すべての受講者の評価は分からないが、アンケートに回答した学生の意見から、授業内容や質問対応について高い評価を得ている。具体的に、授業の良い点としてレジュメなどの配付資料が高く評価されている一方、わずかなではあるが板書・配付資料について指摘があった。

(物理学科)

板書の改善が必要との学生からの意見もあるが、講義ノートに Canvas LMS に up したり、リアクションペーパーに質問を書いてもらいその返事を Canvas LMS に上げる等、教員の工夫が良い評価につながっている。演習での発表時間の調整は難しい。また、講義内容を理解してもらうためには、学生の意欲を高める必要がある。

(化学科)

講義内容や配付資料等については、肯定的な意見が多く寄せられた。一方で、改善を期待される項目で一番言及が多いのも、配付資料についてである。配付資料への書き込み、問題演習、質問の積極的な受け取りなど、受動型だけでなく講義への工夫は評価が高かった。全体的に肯定的な意見が多かったと捉えている。担当教員は講義時間以外の学習に対するコメントも多かった。教員は分かりやすい配付資料準備や板書を心掛ける一方で、それらを活用して毎回の講義後の復習をすることで、理解を深めることを期待している。

(生命理学科)

総じて一定の評価が得られており、それに対して肯定的に記述している所見が多く見られた。一方で、アンケート回答率から必ずしも全体の評価を反映していない可能性があるという記述もいくつか見られた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

(数学科)

板書・配付資料内のわずかな間違いについては、できるだけ改善していく。また、受講者のレベルに応じて、内容の難易度を調整していく。

(物理学科)

実験では複数教員が同時に説明を行い聞き取りにくいとの指摘があるので、4 隅に分かれて説明する等の対策をする。また、板書や資料、内容の明確さ、また、授業の進め方の時間配分等さらに改善する努力を行う。演習では、講義との進捗の調整、それから、ヒントを出す量の検討を行う。さらに自分で学習する姿勢を身につけさせる指導も行う。

(化学科)

板書の濃さや配付資料でのメモ欄の追加など、改善できるものは積極的に改善していく。この授業評価アンケートの結果も踏まえて、配付資料は穴埋め式にしたり、授業時間内での演習問題を取り入れたり、工夫を凝らしている。また、学生による講義時間外の学習にもつながる、最新の話題、練習問題、補足資料等の提供など、さらなる改善を期していく。

(生命理学科)

高い評価を得ている試みは継続しつつも、自由記述からの意見（文字が小さい、話すスピードが速い、など、少数意見ではあるものの）を真摯に受け止め、改善点として挙げている所見が多く見られた。

4. 今後の改善に向けて

昨年度に挙げた改善点の一つが一昨年度に引き続き「アンケート回答率を向上させるために、講義時間内に時間をとるなど、確実に回答してもらう」であり、その効果もあってか回答率の継続した増加傾向が見られた。一方で、学年が上がるにつれて、アンケートの回答率が低くなる傾向にあるので、授業評価アンケートの重要性を説明することで、アンケート回答率を高めていく。

また、昨年度の改善事項として、スライドや配付資料について位置付けの明確化や工夫が謳われ、教員がアンケートを振り返り、講義準備や改善の努力をしていることが伺える。また、Canvas LMS の機能を使う等の努力がなされ、改善しているものと思われる。しかし、学生からはさらなる改善が期待されている。また、授業を進める速さについても指摘があるので、スライドや配付資料の一層の工夫とともに適切な速さを模索することが重要であろう。加えて、本年度は、授業時に複数種の資料を併用する、或いは授業と復習で板書とスライドを使い分けることで、学生から好意的な評価が得られるという改善が見られた。今後は、復習をはじめとした講義時間外の学習につながる工夫も、継続していきたい。

学生のアンケート結果を振り返ることで、教員の講義準備・改善の材料になっていることは間違いない。

4-4 社会学部

1. 科目選定方針とねらい

対象科目の選定方針は前年度を踏襲し、以下のとおりとした。

①必修科目はすべて実施する

②講義科目については、科目の種類を問わず、なるべく「年間1教員1科目」となるように選定作業を行う

2012年度導入の現行カリキュラムでは、従来学科別に行われていた初年次、2年次の必修科目を学部共通の必修科目と位置づけ、これまで以上に学部として基礎教育の充実を目指すことになった。これらの科目に対する学生の評価は、今後の基礎教育のさらなる充実を考慮すると、重要なものとなる。①については、2011年度まで「必修・選択必修の講義科目は、原則としてすべて実施する」というやや緩やかな方針をとっていたが、基礎教育を重視するカリキュラム改訂の実施を踏まえて、2012年度から必修科目は全て実施するという変更を行った。また、社会学部においては②を2007年度以降選定方針としており、2024年度についてもこれに準拠した。2025年度からは2012年度カリキュラムを一部改訂したカリキュラムが始まるが、その影響を把握するためにも、授業評価アンケートは参考となるものだろう。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2-1 授業規模別

50名以下を「S」、51～100名を「M」、101～150名を「L」、151名以上を「LL」として、社会学部99科目の結果を見てみたい。このとき、授業規模が大きくなるほど対象授業数が減るため、特に対象授業数の少ないLやLLクラスの平均値は、特定の授業の回答傾向に影響を受けている可能性も考慮する必要がある。近年、授業規模と評価の関係は、 $S > M > L > LL$ という単純な関係でないことが多いが、本年もこのような状況が続いている。

Ⅱの「教員の授業改善に向けて」のⅡ1「各回の授業内容は明確だった」Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」について、従来は $S > M > L > LL$ のように授業規模が小さいほど評価が高い傾向を見せていたというが、本年度は両設問ともに $LL > S > M > L$ となっている。

Ⅰ「学生の学習姿勢」のⅠ1「この授業に積極的に参加した」については、前年度はクラス規模との関連はほとんどないということだったが、今年度も同様である。また、Ⅰ2の「授業以外に学習した時間」については、今年度は $LL > L > M > S$ の順であり、クラス規模が大きくなるほど長くなる傾向があった。

Ⅱ「教員の授業改善に向けて」を見ると、Ⅱ3「この授業でよいと思った点」で多く選択されたのは「①配付資料（授業のレジュメなど）」「③パワーポイント」であり、それに「④動画等の映像視覚教材」が続く。Ⅱ5「この授業で改善すべきだと思った点」については、全体の平均85.2%に対しLクラスが88.2%とやや回答割合が高かった。授業規模別にみると、サイズに関わらず約6割の学生は「⑥上記にあてはまるものがない」を選択している。相対的に選択したものが多かったのは「①配付資料」であり、Lの授業でやや改善要求が多かった。これは前年度と同様の傾向である。

次にⅢ「学生が授業に期待するもの」を見てみよう。Ⅲ1「この授業から得ることができたものはありますか」については、前年度と同様、概ね高得点を示していた。割合としては

M クラスを除き「①自分にとって新しい考え方・発想」「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」「④学問的興味」の順に多かった(M クラスは②>①>④)。なお、「③自分で調べ考える姿勢」「④学問的興味」についてはSクラスがもっとも高い数値を示していた。また、Ⅲ3の授業への満足度についてはLL>S>M>Lの順に高かった。

今年度も授業規模と回答内容の関連性について、「小規模クラスほど評価が高くなる」というわけではなかった。もっとも授業規模の分類は「回答者数が実際の出席者数に近い」という想定から回答者数に基づいているため、対象授業 99 科目のうち 69 科目が 50 人以下という扱いになっている。しかし、上記の分類は、履修登録者数 300 人超の科目が多数ある社会学部の状況とはギャップがあるように思われる。そこまで出席者数が少ないとも考えにくいので、授業によっては履修者数・出席者数に対する回答者数がきわめて少なく、普段の実態とはかけ離れた規模のクラスに分類されている可能性もある。本項目で述べた授業規模と回答の関係についても上記のような可能性を加味する必要があるだろう。引き続き回答率上昇に向けた取り組みが求められる。

2-2 学年別

学年別の延べ回答者数は、学年が上がるにつれて明白に減る傾向にある。I1の「この授業に積極的に参加した」の項目では4年生の評価が低いが、これには就職活動の影響や卒業のために取らざるを得ないという動機が関係していよう。また、I2の授業以外の学習時間に関しては2年生が1時間未満であり、1年生が1.34時間ともっとも長い。

しかし、II「教員の授業改善に向けて」のII1「授業内容が明確だった」とII2「教員の伝え方はわかりやすかった」、そしてⅢ3「この授業を受けて満足した」のいずれの項目も1年生の評価はもっとも低い。これは前年通りの傾向である。

また、例年、II1「各回の授業内容は明確だった」II2「教員の伝え方はわかりやすかった」、Ⅲ3「この授業を受けて満足した」の項目は学年が上がるほど理解度や満足度が高まる傾向があるという。今回は先の二つの設問が4年生>2年生>3年生>1年生、満足度に関する設問が4年生>3年生=2年生>1年生という順となり、学年が上がるほど評価が高くなるという、これまでとおおよそ同じ傾向が見られたと言えよう。

授業の改善点について、II3の「この授業でよいと思った点」では1年生の回答の中で多く選択されたのは「①配付資料」、「③パワーポイント」、「④動画などの映像視覚教材」の順であるが、他学年と比べて視覚教材の満足度は低い。これも前年度と同じ傾向である。視覚教材については学年が進むほど多く選択されているが、映像をどのように学びに生かしたら良いのか、学年が進むにつれてコツがわかってきたということかもしれない。

また、II5の「この授業で改善すべきだと思った点」は「⑥上記にあてはまるものがない」が2~4年ではおよそ6割だが、1年生は57.9%とやや低い。全学年で次に改善すべきものとして多くなるのが「①配付資料」であったが、学年間では大きな差は見られなかった。

2-3 学科別

学科別のデータでみると、Ⅲ3「この授業を受けて満足した」の項目では現代文化学科のスコアが最も高く、それに続いて社会学科、メディア社会学科の順であった。また、I1の「この授業に積極的に参加した」やI2「授業外学習時間」については、社会学科、現代文

化学科、メディア社会学科の順となっており、メディア社会学科は 0.94 時間と授業外学習時間が 1 時間に満たない。だが、過年度の結果を見るとこの順序は固定化されていないため、特定の学科が問題を抱えているわけではないと判断できる。

Ⅱ「教員の授業改善に向けて」のⅡ3「この授業でよいと思った点」ではメディア社会学科の「①配付資料」「②板書」「③パワーポイント」への満足度がかなり低い。たとえば、板書については社会学科の 3 分の 1 程度の水準となっているが、「④動画等の映像視覚教材」への満足度は社会学科の 4 倍近くになっている。この点については学科の特徴によって異なる結果が出たと言えるかもしれない。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

履修者による評価が好評であったことや授業に積極的な学生が多かったことへの安心や感謝の声が目立った。他方で回答者数の少なさや授業外学習時間の短さに関する指摘もあった。

学生から肯定的な意見として、コメントなどを通じた双方向のコミュニケーション、視聴覚教材の使用、ゲストスピーカーなどが挙げられていた。

学生からの否定的な意見として、教室変更や不備などの環境や機材、投影資料の配付や文字量・大きさに関するもの、伝え方・話し方などがあり、前年度と同様に授業内容というよりは教学環境に関するものが多かった。一部からは、教室ひっ迫問題の影響もうかがえた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

積極的な授業改善に取り組みたいとする回答が多かった。特に、インタラクティブなやり取りの導入や資料の見やすさ・配付方法に関する改善、時間配分や情報量の調整が目立った。

4. 今後の改善に向けて

前年度の報告書でも挙げられていた課題として、対面授業とオンライン授業の併用や活用の仕方がある。現在、全学教務委員会による各学部・研究科へのアンケート実施を通じ、授業実施形態に関する検証が行われようとしている（2025 年 7 月時点）。社会学部でもアンケート回答の際、コロナ禍から数年を経た現状に合ったオンライン授業のあり方や授業実施形態のルールについて様々な意見が出た。オンライン授業の活用については、引き続きの課題となるだろう。

社会学部では、授業期間中はほぼ月 1 回のペースで、必修授業や実習、演習などの授業形態のテーマを立てて FD を実施しており、授業で生じた（生じうる）様々な問題点の共有をはかっている。アンケートの結果は、全体として良好だと評価できるが、その中でも指摘された問題点については、FD などを通じて情報共有に努め、改善をはかっていきたい。

しかしながら、回答率の低さは問題である。近年のアンケート回答率は全体的に低下傾向にあったが、2024 年度の社会学部の回答率は前年度の 25.5%から 23.8%へと低下している（全学は 40%→40.2%）。これではアンケートの代表性や信頼性に疑問を生じさせかねない。また、回答者数 4 人以下のためアンケート不成立だった科目割合も 17.9%から 18.9%へと増え、全学の数値が 20.7%→18.8%に低下しているのとは異なる傾向を見せている。

2023 年 5 月 25 日の教育改革推進会議で示された「学生による授業評価アンケート」の実施状況や回答率が高い科目の担当者が行なっている工夫については、社会学部内でも共有されている。全学的には、上記の「工夫」に基づき考案された「学生から多くの回答を得るためのヒント」が科目担当者に対してアンケート実施時に送付されている。しかし、近年の回答率を見る限り、社会学部ではこれらの成果が出ているとは言いがたい。学部から科目担当者に対して直接上記の工夫を行なうよう呼びかけるなどの対策を行なう段階に来ているのかもしれない。

4-5 法学部

1. 科目選定方針とねらい

法学部では、2011 年度より、全教員（専任・兼任）について授業評価アンケートを行うのは 3 年に 1 回とし、それ以外の年度は、本学で初めて授業を開講する教員および実施を希望する科目を対象にアンケートを行うことにした。

2024 年度は、学部等の必要性に応じた選定を科目選定方針とする年度に該当する。すなわち、①本学で初めて授業を開講する教員、およびアンケートの実施を希望する科目を対象に行う、②演習科目は対象としない、との選定方針にもとづき、合計 13 科目につき授業評価アンケートを行った。大人数科目が多い法学部においては、講義科目における教育が容易ではないことに鑑み、これらの授業の改善を重視している一方、演習科目においては少人数を対象としており、アンケート調査が行いにくいという事情があるためである。

なお、毎年度の全教員についての授業評価アンケートの実施をとりやめたのは、授業評価アンケートも回を重ねるにつれて、アンケート結果に対して授業改善に取り組むという姿勢が浸透しているため、3 年に 1 回のアンケートで、学生からの意見のフィードバックとしては十分であると考えられるためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

集計データを参照し、回答率、設問項目別平均値、授業規模別平均値、学年別平均値の結果についてまとめる。

2024 年度のデータの前提として、昨年度（2023 年度）同様、学部等の必要に応じた科目選定を行い、履修者数が 4 名を下回る科目もあったことから、科目数は多くはない。また、今回も学部独自の設問は特に設定しなかった。

回答率は、30.0%であり、昨年度の 27.0%から微増しているものの、他学部の回答率や全学の平均と比較して低い部類に属する。履修者数のうち 3 割の学生からの回答であることは、このアンケート結果の分析において念頭におく必要がある。

設問項目別平均値については、対象科目の範囲の違いなど前提が異なるため、比較の限界はあるものの、各項目の平均値は、全体的な評価傾向に大きな違いはない。すなわち、Ⅱ1「各回の授業内容は明確だった」（4.28）は、昨年度（4.46）より下がったものの、依然として高い値を示している。Ⅱ2「教員の伝え方はわかりやすかった」（4.14）も同様に、引き続き高い水準にある。Ⅱ3「この授業でよいと思った点（複数選択可）」としては、①「配付資料（授業のレジュメなど）」を挙げる者が多く（56.2%）、③「パワーポイント」（29.1%）、②「板書（電子媒体のものを含む）」（18.1%）などが続いている。これら授業で使用する資料、媒体の違いは、当該授業の進め方や内容にもよるところも大きいと思われ、また、改善を望む意見は一定程度あるものの（Ⅱ5 参照）、授業における配付資料等の媒体の使用については、肯定的な評価がなされていると思われる。

Ⅲ1「この授業から得ることができたもの（複数選択可）」としては、②「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」を選択した者が昨年度同様、64.9%と最も多く、次いで①「自分にとって新しい考え方・発想」（42.9%）、④「学問的興味」（38.5%）が多かった。今年度の講義も、学生の自主的な学習を促すという長年の課題に応えていると評価できる。それと併せて、①「自分にとって新しい考え方・発想」の値（昨年度 53.7%）が昨年度より下が

ったもののやはり高く、直ちに有意な変化であるとはいえないが、学生が授業に何を期待しているかにつき、学生の授業に対する取組みや姿勢などとともに、注視する必要がある。

Ⅲ3「この授業を受けて満足した」については4.27であり、昨年度と同水準とみてよいであろう。ただし、Ⅰ2「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」という設問への回答は平均1.01時間（回答者314名）と昨年度（平均1.15時間（回答者228名））とほぼ横ばいである。Ⅰ1「この授業に積極的に参加した」は4.19（昨年度4.29）と比較的数値が高いにもかかわらず、授業外の学習時間が短い点は、学生の受講態度について懸念を感じさせるものである。授業規模別平均値についても、対象科目数が限られていることから、全体として授業規模と各項目の回答傾向に顕著な関連があるかは不明である（Ⅰ2「授業以外に学習した時間」が、50名以下のクラスでは1.46であるところ、51～100名では0.89、151名以上は0.99であるが、51～100名科目も151名以上科目も3科目以下であるため、該当科目の特性が強く出ている可能性がある）。学年別平均値については、2024年度は、Ⅰ2「授業以外に学習した時間」については、1年が最も少なく、3年がやや多いという結果が出ている。1年については、授業への積極さの程度（Ⅰ1）と満足度（Ⅲ3）がやや高めであるにもかかわらず、学習時間が少ない点については、初年次教育への配慮について注視する必要があるだろう。他方で、法学部では主として期末試験での成績評価を行なっていることから、試験を契機として、学期における学びを改めて総復習するという形で学習時間を配分している学生も少なくないし、その学修方法には一定の合理性であろう。本アンケートに現れる学習時間は試験勉強を始める前という時点での学習時間の回答であることにも留意すべきである。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

担当教員の所見では、各教員が、学生の率直な評価を真摯に受け止め、相対的に評価の低い項目については、学生が主体的に学ぶことができるよう、刺激のある授業を展開したいといった形で、次年度以降に改善を試みる姿勢を明らかにしている。講義資料の在り方等については、大人数のクラスにおいて、教師と学生との間のコミュニケーションの取り方の問題ともいえるが、改善すべき点は改善するとして、きめ細かく自身の授業方法の見直しに役立てようとする姿勢がみられた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

パワーポ、レジュメ、さらに板書という授業の補助手段が複数ある場合、それを効果的に用いることの難しさをうかがわせるコメントが複数見られた。講義担当者はいずれも、学生の意見を真摯に受け止め、資料の配布方法、マイク音量、スクリーン投影など技術的な次元における改善を約束している。また、それら補助手段に盛り込む情報量についての調整を行う方針を示すものや、補助手段の意義について周知することを約束するものもあった。

4. 今後の改善に向けて

2023年度の授業評価アンケートについては、2024年第6回教授会議事録において教授会メンバーに共有された。学生の授業以外での学習時間が十分ではないこと、Canvas LMS

については教員の習熟や学生への周知が引き続き課題であること、学部専門科目における成績評価方法の多様化にあわせて、授業内外での学習のあり方も含め、学生の履修行動、学習状況について注視する必要があることなどについて触れた。

2024年度の授業評価アンケートの結果においては、「教員の授業改善に向けて」(Ⅱ)に関する項目や、「学生が授業に期待するもの」(Ⅲ)について、学生が全体的に高く評価しており、この傾向は、コロナ禍以前以後を通じて、変わりはなく、教員の真摯な取り組みが効果を上げているといえよう。また、少なくとも、Canvas LMSの運用については、初年次導入教育やFD活動を通じて、情報共有のレベルでは効果的に活用されていることがアンケート結果からうかがわれる(Ⅱ3「この授業でよいと思った点(複数選択可)」として①「配付資料(授業のレジュメなど)」を挙げる者が過半数を超える)。

他方で、学生の授業以外での学習時間が十分ではなく、低下傾向にあるようにみえる。「2. 集計データにみられる結果のまとめ」で触れたように、法学部の学びの特性及びアンケート調査のタイミングも加味しなければならないが、日常的な授業外での積極的かつ能動的な学修を促す必要性には変わらない。その観点から、多様な成績評価を新たに導入したことが授業外での学習につながることを期待するところであり、来年度への継続的な課題とした。

4-6 経営学部

1. 科目選定方針とねらい

「立教時間」を用いた Web 方式による「学生による授業評価アンケート」において、経営学部はこれまで通り 2～4 年次演習および BLP・BBL 関連科目を除いて、原則として全科目を対象に、春学期 48 科目、秋学期 43 科目で実施した。全科目を指定している理由は、「学生による授業評価アンケート」の結果は、授業を担当する教員に対して重要なフィードバック効果をもたらし、授業の質を高めるのに寄与するものと考えているからである。なお、BLP および BBL 関連科目について実施しない理由は、これらの科目が独自性の強い演習系の科目であることから、学部で独自に詳細なアンケートを実施しているためである。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

まず、回答者数について、履修者数 12,997 名に対し回答者数 1,798 名で、回答率（回答者数/履修者数）は 13.8%だった。2023 年度の回答率は 16.9%であり、回答率が悪化し、他学部と比較して回答率が最も低いことから、2024 年度においても Web 方式による実施の周知や実施の徹底が十分ではなかったと推測する。

次に、学生側の授業に対する取り組みについて、2023 年度と比較して、「この授業に積極的に参加した（I 1）」は 4.36（2023 年度は 4.28）で、積極的に授業に取り組んでいたことがうかがえる。ただし、アンケート実施科目の回答率が前述の通り 13.8%ととても低いことを考慮すれば、アンケートに回答するような積極的に参加する学生と、そうでない学生の取り組み方に差が生じている可能性が懸念される。

それ以外の授業に対する取り組みとして、「授業以外に学習した時間（I 2）」について、平均値は 1.35 時間（2023 年は 1.54 時間）で、平均では、回答者は昨年度と比べて少ない学習時間を取ったことになる。具体的には、約 17.5%の学生が 0 時間、約 59.0%の学生が 1 時間、約 14.6%の学生が 2 時間、約 8.9%の学生が 3 時間以上と回答している。また、授業規模別（回答者数別）にみると、50 名以下が 1.51 時間、51 名～100 名が 1.20 時間となっている。なお、101 名～150 名は該当科目がないため、151 名以上は該当科目が 1 科目のため結果は表示されていない。2024 年度は、50 名以下の授業で授業以外の学習時間が減少し、51 名～100 名の授業では授業以外の学習時間がわずかに減少した。学年別にみると、1 年 1.40 時間、2 年 1.27 時間、3 年 1.25 時間、4 年 1.41 時間となっており、3 年を除いて授業以外の学習時間が減少した。2024 年度においては、適切な量の予習・復習につながる課題の提示がなされなかったことが考えられる他、予習・復習に際して学生が生成 AI を活用することによって授業以外に学習した時間が減少したと考えられる。3 年生ではゼミ活動が通常通り行えるようになったことが授業以外の学習時間の増加に影響していると考えられる。

授業の進め方について、「各回の授業内容は明確だった（II 1）」に関しては、2023 年度は 4.36 に対して、2024 年度は 4.39 であった。授業規模別（回答者数別）には、50 名以下では 4.38（2023 年度 4.29）、51 名～100 名が 4.41（2023 年度 4.43）となっており、50 名以下で改善した一方で 51 名～100 名でわずかに悪化した。なお、101 名～150 名は該当科目がないため、151 名以上は該当科目が 1 科目のため結果は表示されていない。「教員の伝え方はわかりやすかった（II 2）」に関しては全体の平均が 4.21（2023 年度 4.26）、授業規模

別（回答者数別）には、50 名以下では 4.22（2023 年度 4.18）、51 名～100 名が 4.20（2023 年度 4.37）となっており、50 名以下の授業がやや改善し、51 名～100 名は悪化した。なお、101 名～150 名は該当科目がないため、151 名以上は該当科目が 1 科目のため結果は表示されていない。

教員の授業改善に向けて、「この授業でよいと思った点がありますか（Ⅱ3）」において①配付資料は 55.6%、③パワーポイントは 44.3%が評価しており、授業の中で教員が工夫したことが推測される。また、「この授業で改善すべきだと思った点がありますか（Ⅱ5）」において 51.6%が⑥上記にあてはまるものがないと回答しており、半数以上が評価していると推測できる。

学生が授業に期待するものに関して、「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1）」に関して、評価の多い順に②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識（68.8%）、①自分にとって新しい考え方・発想（48.7%）、④学問的興味（31.9%）、③自分で調べ考える姿勢（22.5%）となっており、いずれの授業規模でも同様の傾向がみられた。学年別では、2 年～4 年は同様の傾向だったが、1 年では評価の多い順に②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識（73.5%）、①自分にとって新しい考え方・発想（34.9%）、④学問的興味（25.6%）、③自分で調べ考える姿勢（12.8%）だった。「③自分で調べ考える姿勢」を選択する学生が比較的少ない状況が続いていることから、次年度以降も改善の必要があると考える。

「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」は 2023 年度の 4.34 から 4.32 となったが、対面形態が定着した中で学生から高い評価を得られたといえる。授業規模別には、50 名以下では 4.30、51 名～100 名が 4.34 となっており、それぞれの差が縮小した。一方、学年別にみると、1 年 4.17、2 年 4.34、3 年 4.49、4 年 4.54 となっている。昨年度に引き続き、2024 年度は 1 年生の満足度が他の学年と開きが大きくなった。この傾向を改善するため、1 年生の学生を対象とした授業や 50 名以下の少人数の授業に対する何らかの対応を引き続き検討していく必要があると思われる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「授業評価に対する担当教員の所見」では、対面が定着する中で、評価項目への教員自身の分析が多くみられた。

肯定的な評価・意見としては、講義内容・レジュメの量の調整、小テストなどを活用した学生の学びの確認、学生とのインタラクションの確保、学問的視点の追究、ゲストスピーカーの招請や講師自身の経験の共有などに関して、取り組みの効果への言及がみられた。

否定的な評価・意見としては、使用する教材や配付資料の改善、オンライン授業で効果的にグループディスカッションや課題・テストを行う方法、動画などの効果的な活用による効率的な授業運営、リアルタイムでの学生とのインタラクションの確保などの改善、履修者数に応じた教室の配当と状況に応じた配当後の教室変更などへの言及がみられた。

なお、科目によって所見における記述の有無や詳細度にも差がみられたため、今後の検討課題としたい。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

「改善に向けた今後の方針」においては、対面形態が定着する中で、講義資料・課題の改善や講義内容の説明の工夫、課題提出時間の調整、評価の公平性の確保が挙げられた。

オンライン形態の科目についてはオンラインの利点をより活用する工夫（チャットやブレイクアウトルームの活用）などについて言及がみられた。また、課題を適切な量やレベルにすること、学生の理解を確認する方法の工夫、講義資料の改善など、学生の学びの質を確保するための教員側の前向きな姿勢が示されている。今後の FD 活動でもフォローしていきたいと考える。

4. 今後の改善に向けて

2023 年度の評価結果に関して、対面形態への再適応とオンライン形態の活用を改善点として挙げた。FD・委員会／点検・評価委員会にて総評を教員に共有し、意見交換をしたうえで、各教員（複数担当科目については教員間）で改善を図ってきた。2024 年度の評価結果と学生の回答率、教員の所見執筆の状況については、2025 年 7 月 8 日に開催される FD・委員会／点検・評価委員会で共有する予定である。

今後の改善点は以下の通りである。まず、回答率が低い状況を改善する必要がある。教員に対して、学生への周知を徹底してもらうことに加え、経営学部が「学生による授業評価アンケート」に回答してもらえるような施策を検討していく。また、所見を記載しない教員が多く見受けられる状況であるため、所見執筆に関しても教授会などで案内をしていく。特に特別専任教員、客員教員や兼任講師に対する案内方法について検討していく。

対面形態が定着した場合においても、授業の質の改善が着実に進んでいることがうかがえるものの、特に大人数の講義科目について、各教員の創意工夫や情報・知識を共有してベスト・プラクティスを学び合うなどの対応が有効であろう。加えて、大人数の講義科目については、対面よりもオンラインの方が教育効果が高いということも場合によっては考えられることから、オンラインへ切り替えをした科目の担当者の意見を収集し、共有していく。また、大人数の科目に対してオンラインやオンデマンドへの切り替えの要望が継続して見受けられることから、大人数の講義科目にオンデマンドを導入していくことを検討していく。

オンライン形態に関しては、オンラインならではの講義運営や講義資料の一層の工夫が求められる。2025 年度も引き続き 1 年次の必修科目系、履修者数が多い大規模な科目、パソコンを使う演習が多い科目などにのみ認めることとした。オンライン講義に関しては講義へのエンゲージメントを高める工夫に加え、対面形態と遜色ない満足度や理解度を得るための工夫について、各教員で継続して検討・改善していくことが有効であるといえる。

また、学生自身から寄せられたコメント（記述による評価部分）にもしっかりと耳を傾け、講義を継続的に改善していく必要がある。学生による評価は、教員に講義の問題点を気付かせ、改善・発展を促すきっかけとなる。学生の評価は高いので、次年度もその傾向が途切れず続くことを期待したい。

4-7 異文化コミュニケーション学部

1. 科目選定方針とねらい

異文化コミュニケーション学部では、2004年～2006年度は「講義科目を対象に1教員1科目」、2007年～2009年度は「実施科目の対象と選定に柔軟性を持たせ、学部などの必要性に応じて選定」、2010年度以降はほぼ隔年で上記2つの選定方針で科目選定を行っている。2010・2013・2016・2019・2022年度は、「講義科目を対象に1教員1科目」、2011・2012・2014・2015・2017・2018・2020・2021・2023年度は、「学部等の必要性に応じて」科目が選定された。2024年度は、「学部等の必要性に応じて」科目を選定した。具体的には、2024年度からの新カリキュラム・定員増を受けてアンケート結果に目立った変化が生じるかを検証するため、以下の科目を対象とした。

- (1) 1年次必修科目
- (2) 1年次自動登録科目
- (3) 基礎科目
- (4) 新規開講された基盤科目

2. 集計データに見られる結果のまとめ

2024年度対象となった79科目（春学期41、秋学期38）のうち、実施科目（回答者5名以上の科目）は65科目（春学期33、秋学期32）であった。履修者数は3,244名でそのうち回答者数は1,508名、回答率は46.5%で、前年（59.3%）より約13%低かったものの、全学部の平均回答率（40.2%）を約6%上回った。

回答者の内訳は、1年生が1,229名、2年生が111名、3年生が95名、4年生が40名、その他が33名で、1年生が圧倒的に多いが、これは1.で述べた今年度の科目選定方針の当然の帰結である。

異文化コミュニケーション学部のアンケートの設問項目は以下の通りである：

I 学生の学習姿勢

- I1 この授業に積極的に参加した
- I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）

II 教員の授業改善に向けて

- II1 各回の授業内容は明確だった
- II2 教員の伝え方はわかりやすかった
- II3* この授業でよいと思った点がありますか（複数選択可）
- II4* II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください（自由記述）
- II5* この授業で改善すべき点と思った点がありますか（複数選択可）
- II6* II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入して下さい（自由記述）

III 学生が授業に期待するもの

- III1* この授業から得ることができたものがありますか（複数選択可）
- III2* III1以外でこの授業で得ることができたものがあれば記入してください（自由記述）
- III3 この授業を受けて満足した

回答者は、アステリスク（*）のついていない設問については5：大いにそう思う、4：そう思う、3：どちらともいえない、2：あまりそう思わない、1：そう思わない、という5つの選択肢から1つを選んで回答する（I2は授業以外の学習時間／週）。これらの設問への回答結果を見ると、I1の平均値が4.47、II1が4.45、II2が4.31、III3が4.41となり、I2については1.58（時間／週）となっている。

アステリスク（*）のついた設問については、それぞれ①～⑥（III1は①～⑤）の選択肢から選択し（複数選択可）、その理由やその他の良い点・改善点についてのコメントが求められている。II3（よかった点）への回答（回答者1,476名）では、選択肢「①配付資料」・「③パワーポイント」を選択した学生が多く、それぞれ698名（46.3%）・667名（44.2%）であった。II5（改善点）への回答（回答者1,291名）では、選択肢「⑥上記にあてはまるものがない」を選択した学生が最も多く（回答者1,291名中897名（59.5%））、それ以外では「①配付資料」を選択した学生が185名（12.3%）と多かった。III1（得ることができたもの）への回答（回答者1,504名）では、「①自分にとって新しい考え方・発想」を選択した学生が1,005名（66.6%）と最も多く、「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」・「④学問的興味」を選択した学生がそれに続き、それぞれ833名（55.2%）、709名（47.0%）であった。混沌とした世の中を生きていく上で重要と思われる選択肢「③自分で調べ考える姿勢」を選択した学生は570名で、III1の全回答者の37.8%にとどまった。2022年度（27.3%）および2023年度（33.2%）と比べると、若干増えたが、それでも十分に高いとは言えない（ただし、今回選定された授業の多くが入門的・基礎的な科目であるために、「自分で調べ考える姿勢」を養うことよりも、基礎的な知識を学ぶことを重視しているためとも言えるが、自ら調査して考える自習を誘導することが必要だと思われる）。

履修者数（回答者数）との関係を見ると、すべての設問について、履修者が少ないクラスの方が、大きな差ではないにせよ、平均値が高い傾向が読み取れる。アステリスク以外の設問で差が最も顕著なのがII2「教員の伝え方は分かりやすかった」で、50名以下のクラスでは4.41、51～100名のクラスでは4.30、101～150名のクラスでは3.97という平均値になっている。

学年別の回答割合においては、選ばれた選択肢の順位に学年によって多少の差はあるが、II3（よかった点）において「①配付資料」・「③パワーポイント」、II5（改善点）において「⑥上記にあてはまるものがない」・「①配付資料」、III1（得ることができたもの）において「①自分にとって新しい考え方・発想」・「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」の回答率が高い点は共通している。

履修者（回答者）数・学年に関係なく、II5（改善点）では「⑥上記にあてはまるものがない」の回答率が非常に高く（約50.5%～75.0%）、授業における配付資料・パワーポイント・映像視覚教材・板書・シラバス以外の要素で改善を望む学生が多いことを示している。II6の自由記述には以下のようなものが含まれていた：

- 最初に授業の全体像が分からなかった
- 必ず自宅学習を徹底させるようにしてほしい
- 事前に資料を配ってほしい
- 動画とかがたまにあるとやる気が出る

- スライドを配布して欲しい
- 授業内容を明確に説明する、課題を明確にしてほしい
- 一方向的な授業だとどうしても眠くなってしまうので、質問する時間を設けてほしい
- 一つの授業で様々な情報が入って来て頭の中でこんがらがってしまった
- 授業の進み具合がシラバス通りではない
- 教員によってフィールドワークや授業の内容が違う
- 課題文献の多くが古い研究に基づいている

3. 担当教員の所見に対するまとめ

今回アンケートが実施された 65 科目中、約 8 割の担当教員がアンケート結果に対して所見と、改善に向けた今後の方針を記入している（65 科目中、15 科目・23%が未記入）。

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

全体的に見ると、授業に対する肯定的・好意的な評価が多く、担当教員は授業内容が明確に伝達、理解され、授業目標を達成できたことを確認している。また、少数ではあるが改善を求める学生たちの自由な記述について、担当教員らは提起された事項に対する具体的な改善案を提示している。そのため、授業以外の学習時間が 2 時間未満というアンケート結果にも、懸念は表している。また、アンケートの自由記述のうち、輪講科目のように毎週担当教員が変わる科目や、「基礎演習」のように同じ名称の科目を同一シラバスに従って複数教員が担当するケースなどについての改善方針は、個人の担当教員だけでなく、学部全体での積極的な検討を並行して行う必要がある。教員によって授業内容と質が異なることを不満に思う学生たちの評価に担当教員が積極的に改善策を講じる必要があるだろう。ただし、専門分野が異なる教員が、同じ内容の統一的なアプローチが要求される授業を担当し、学生の授業評価に対応することは困難があるように見える。

結論として、ほとんどの学生の授業評価は好意的で肯定的であり、その具体的な理由は明確ではないものの、全体的に見れば、そのような評価は教員の自信と励ましになると考える。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

アンケート実施科目の約 8 割の担当教員が学生の評価や声に対応し、「改善に向けた今後の方針」欄に対応策を記載している。授業内容と課題をより体系的に連携させ、授業外の学習時間を増やすことができるかどうかについて、検討が進められている。また、「PowerPoint や課題、授業内容の伝達および理解が不十分であった」というアンケート結果にも、担当教員は積極的に対応しようとしている。

さらに、板書をより丁寧に活用したり、約 200 人の履修者がいる中でどのように静かな授業環境を維持するかについても、今後の研究課題としている。また、学生による授業評価を参考に、PowerPoint 資料の印刷・配付を行うか、あるいは、学生が配付資料に依存しないような工夫を加えたかたちでの資料の作成や PowerPoint メモ欄を活用するなど、様々な方針が検討されている。

4. 今後の改善に向けて

2023 年度に引き続き、2024 年度もアンケート対象科目は、1 年次必修科目、1 年次自動登録科目、基礎科目および、新規開講された基盤科目とした。そして、授業評価結果、およびそれに対する教員の所見と今後の改善方針に関する回答は、全体として肯定的に評価されている。大多数の学生による肯定的な評価が見られる一方で、少数学生の意見に対しても積極的に改善方針を模索しようとする教員の姿勢は、高く評価できる。ただし、こうした前向きな改善方針の検討は、過去の授業評価報告書においても一貫して見られた傾向であるものの、2023 年と 2024 年の授業評価結果を比較した際、年間の変化や大きな進展は見受けられなかった。したがって、2024 年の評価結果——すなわち学生の授業評価、教員の所見、そして今後の改善方針——が、2025 年以降の授業実施に反映され、実際に改善が達成されるかについて、今後の検討が必要である。

異文化コミュニケーション学部の特徴である、「学際的な課題への取り組み」、「学問的興味の喚起」、「学生自身の調査・思考による主体的な学び」が、2024 年のアンケートによる授業評価結果に反映され、大多数の学生が自らの学問的関心をもとに授業に積極的に参加していることが示されている。自由記述欄に関する論述で上に指摘したように、学生たちに授業資料やスライドを事前に印刷・配付することもその効果が十分に期待される。同時に、その変化が多く学生の自主的なノート取りの習慣や授業外学習の時間を減少させ、「自ら調査し、考える姿勢」に基づく学習を妨げる可能性がある点にも留意する必要がある。

最後に、授業評価には、「学問的興味」や「自ら調査・思考する姿勢」が高まったと回答した学生が多数いた一方で、それがどのように実現されたのかが具体的に記された自由記述は少なく、評価の根拠を確認することが難しい側面もあった。しかしながら、多くの学生が「これまで触れることのなかったさまざまなテーマや社会現象に出会い、新たな視点を獲得し、関心を持つようになった」と答えている点から、アンケート対象となった入門科目・基礎科目の授業目標および内容が、一定程度達成されていると評価することができる。

4-8 グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター

1. 科目選定方針とねらい

グローバル・リベラルアーツ・プログラム（以下、GLAP）では、演習系科目・夏季集中科目を除く GLAP の科目のほとんどについて授業評価アンケートの対象としている。今年度は 40 科目が対象であったが、GLAP はその規模の小ささから回答者数が 4 名以下の科目が多く、データ集計の対象となったのは 22 科目、延べ回答者数は 282 名となった。2023 年度の 17 科目、214 名に比べると科目数、回答者数ともに増加しているが、これは 2024 年度にデータ集計の対象となる科目が 5 科目増加したためと考えられる。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

設問項目別の平均値では、各項目で学年によらず 4.4 前後という高い水準を前年までに引き続き維持していることから、学生の授業満足度が高く、授業の狙いを概ね実現できていることを示している。授業以外に学習した時間は平均 2.45 時間と高い値を保っているが、1・2・3 年次の 2.5～3.0 時間と比較して 4 年次が 1.69 時間と低くなっている点が気がりである。4 年次は就職活動や卒業論文と並行して対象科目を履修するため、問題なく授業履修ができているか、今後も注意していきたい。設問項目別回答割合をみると、全体としては教員の授業運営、特に教員と学生間のコミュニケーションは肯定的に受け止められており、授業に対する満足度も高いと考えられる。パワーポイントや動画等の映像視覚教材に関する評価が特に高い。

3. 担当教員の所見に対するまとめ（学生の意見に関する内容を含む）

2023 年度は 17 科目のうち 10 科目で担当教員の所見を記入いただいたが、2024 年度は 22 科目のうち 14 科目で所見を記入いただいた。記入いただけなかった科目は回答者数が少なく所見を付けることが困難であったものや、特に問題点等を見いだせなかったものと思われる。

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

提出いただいた所見では、多くの学生から寄せられた肯定的な意見や積極的な授業参加に感謝するコメントが多かった。また、学生からの批判的なフィードバックを受けて授業の運用や組み立て、情報の伝達方法に反映したとのコメントもあった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

今後の授業の改善にむけた方針としては、紙でなくパワーポイントの授業資料を活用することや、授業の目的や内容を明確に学生に伝えること、グループ・ディスカッションやグループ・アクティビティの活用等が複数の教員から挙げられた。

4. 今後の改善に向けて

2023 年度に引き続き、回答者数が 4 名以下となった科目が依然として多いことは残念である。履修者数が少ない科目についてはやむを得ないが、平均回答率が 59.6%と高めであ

ることを考慮すれば、履修人数が 10 名を超える科目では十分な回答人数を得るため、授業時間内での実施を促すよう担当教員にリマインドを行う等の工夫を引き続き行いたい。Humanities、Citizenship、Business の 3 つの専門分野ごとに科目履修のあり方に違いがみられるかという点についても検討対象に上がっているが、分野別の科目は実施 23 科目中集計対象となったのが 9 科目と半数以下であり、分析にはいたらなかった。

GLAP の授業は全体として少人数授業であることから、まずはより多くの授業で学生から回答を得ることを目標としたい。2024 年度はアンケート対象科目の担当教員にメールでリマインドを行った結果、データ集計の対象となる科目および回答者数を増やすことができた。しかし、分野別の科目の分析を行うに十分な回答数が得られなかったため、2025 年度も引き続きアンケート対象科目の担当教員や学生への周知を通じて十分な回答数を得られるよう努力したい。また、GLAP では学期ごとにアカデミックアドバイザーと学生との面談を実施していることから、面談で得た学生からのフィードバックと授業評価アンケートの結果を合わせ、総合的に今後の課題の確認や改善にむけた対策をとっていきたい。

学生の回答率や教員の所見執筆等の状況については、2023 年度分は 2024 年 6 月の GLAP の実務委員会において共有の上で改善方法について議論し、2024 年度は 6 月の GLAP 執行部会議と GLAP 実務委員会で共有し、検討した。

4-9 観光学部

1. 科目選定方針とねらい

観光学部授業評価アンケート科目選定ルールと実際の選定手順を 2024 年 4 月 23 日開催の観光学部教授会において協議の上決定し、授業評価アンケート科目選定作業を実施した。
(選定ルール)

- (1) 原則として学部方針によって選定する 2 年間のうちに全教員 1 回 1 科目で実施する
- (2) 演習科目は対象としない
- (3) 複数教員担当科目は対象としない
- (4) 集中講義は対象としない

(選定手順)

- ①2022 年度は 3 年に 1 度の 1 教員 1 科目実施年だったため、2023 年度にアンケートを実施していない 1 科目を選定する。
- ②複数科目を担当している教員は、原則として過去 2 年間に実施していない科目を対象とする。(ただし教員の希望により変更可とする)
- ③選定ルール上、演習系、実習系、集中科目、複数担当科目は実施対象外だが、希望があれば実施は可能である。

結果として、59 科目(春学期 30、秋学期 29)を選定し授業評価アンケートを実施した。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

授業評価アンケートの回答率が観光学部は 30.5%と全学平均(40.2%)に比べて低いものの、昨年度の 29.9%よりわずかではあるが上昇した。全学(65.8%)と比べて、1 年生の回答者割合(回答者総数の 39.9%)が低いのは、1 年生向けの学部科目が少ないこと、調査対象科目が 2 年生以上を対象とした科目を中心に選定されたことによるものであり、授業評価アンケートに対する 1 年生学生の関心の低さを示すものではないと考えられる。なお、4 年生回答者の割合が 9.3%で全学の 4.8%より高く、4 年生も積極的に授業に参加していることが分かった。

設問項目別平均値において、「Ⅰ 学生の学習姿勢」と「Ⅱ 教員の授業改善に向けて」、「Ⅲ 学生が授業に期待するもの」の平均値はいずれも 4.22 を上回り、学生が自ら学ぶ姿勢があること、かつ授業内容が明確で分かりやすく、授業への満足度が高いことを示している。ただし、授業以外に学習した時間は平均値で 1.11 時間程度と短かった。

「配付資料」や「パワーポイント」など授業を理解し復習するための教材に対する評価が高かった一方で、「配付資料」に対する改善要望が他の項目に比べて依然 12.9%と高かったことから、「配付資料」に対する学生からの期待は一定程度あることが分かる。授業改善要望が最も高いのは「上記にあてはまるものがない」の 61.2%であるため、詳細が分かるようにアンケートの設問に工夫が求められている。授業から得られたものについて、「新しい考え方・発想」と「基本的な専門知識」がそれぞれ 59.8%と 54.3%と高く、学生のニーズが読み取れる。特に、観光学科は「基本的な専門知識」(66.0%)、交流文化学科は「新しい考え方・発想」(62.9%)が最高値であり、学科別に学生の意識が異なることも把握できた。

授業規模で見た場合、50 名以下の小規模授業と 51~100 名の間に、授業の分かりやすさや満足度には僅差が存在するものの、規模による大きな違いは確認できなかった。

学年別で見た場合、授業内容の明確さと満足度について、大学での学びに慣れていない1年生の平均値が最も低く、教員の努力が求められていることが理解できる。授業の評価ポイントについて、2・3・4年生は「配付資料」が最も高いが、1年生は「パワーポイント」が最高値であり、大学の学びに馴染み始める1年生には「映像視覚教材」が有効であることが分かった。なお、「授業で改善すべき点」については、4学年とも「配付資料」が最高値であり、授業のレジュメなどが学生にとって非常に重要であることが分かった。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生の肯定的な評価・意見に対する教員の所見としては、概ね教員が意図した授業展開ができたことで、学生の満足度を高められたというコメントが多かった。また、教員が意図していなかった科目で、授業を通じて発表などのスキルを学ぶことと知的好奇心の喚起ができたという感想があった。さらに、グループディスカッションやリアクションペーパー講評を通じた双方向コミュニケーション、ゲストスピーカーや時事トピックによるビジネスの臨場感、動画や配付資料の事前掲載による情報伝達などの手段を活用して、大人数科目の対策効果も確認できた。一方、学生の否定的な評価・意見に対して、卓上機械の操作、授業内容の明確さと有効性、パワーポイントと板書の活用、穴埋め形式と映像資料の活用、大人数授業のきめ細かな対応などの点に気づくことができたというコメントが多く、今後の改善策に役立つと期待できる。また、科目履修者の授業評価アンケートへの積極的な参加など、学生に期待する声もあった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

配付資料に関する意見が多かったことについて、内容とボリューム、配付タイミング、配付媒体について検討するというコメントが複数あった。関連分野の研究の最新動向や海外事例の紹介を通して、授業内容と資料を改善するというコメントもいくつかあった。また、シラバスは学生の履修選択に影響を与え授業評価にも関わるため、より正確に書くことが意識されている。

履修者数の多い授業では、学生間の交流を促す授業を展開することが課題となる。授業中のパワーポイントのスライドやマイクの音量、板書など教室の授業環境も学生の履修効果に関係するため、意識して改善するというコメントがあった。

履修者の基礎知識が均一ではないため学生全員のニーズに対応することは難しいが、一定の基準に基づいてより分かりやすく示すこと、学生の知的好奇心を喚起すること、について心がけるというコメントもあった。具体的な事例と最新情報、ゲストスピーカー制度の活用、授業内課題の提出やフィードバックの方法、出席確認、初回授業のオリエンテーション効果、授業形式、映像など視聴覚資料の活用について改善点が指摘され、今後可能な範囲で学生の要望に応えていきたいという意見があった。

履修者に求めている授業時間外の予習・復習に関するコメントもいくつかあり、授業への参加意欲を上げるために、講義内容を補足する参考文献の講読をより充実させる等のアイデアも記載されていた。専門分野に慣れていない履修者が多い科目は、適宜ゲストスピーカーを招いて実務とリンクさせながら、講義を進めるという提案もあった。

4. 今後の改善に向けて

2023 年度の授業評価アンケートでは履修者のレベルとニーズに合わせて内容の調整が求められていることが授業評価アンケートより明らかになったため、2024 年度では一部の授業でアクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ケーススタディ、クイズ形式など）を取り入れる等、学生が自分のペースで学べるよう工夫をした。また、配付資料については、印刷物とオンラインツールの使い分けが必要とされていることも分かった。そのため、2024 年度では講義の内容を詳細にまとめたスライドや PDF はオンラインで提供し、要点を簡潔にまとめたプリントは授業内で配付するといった方法を一部の授業で取り入れた。

2024 年度の授業評価アンケートではパワーポイントの改善を求める声も一定数存在した。配付資料の使い分けを続けるとともに、履修者に要点を分かりやすく伝えるパワーポイントの準備が必要になる。また、授業改善要望では「上記にあてはまるものがない」を選択した学生が多いため、アンケート票作成にも工夫が求められていると考える。

4-10 コミュニティ福祉学部

1. 科目選定方針とねらい

2024 年度における科目選定方針は、以下の通りである。

- (1) 学部専任教員（助教含む）1 科目以下の実施を原則とする
- (2) 資格科目を優先する
- (3) 演習科目は対象外とする
- (4) 昨年度実施科目を優先する

以上の結果、専任教員分 31 科目が授業評価アンケートの対象科目となり、最少回答人数（5 人以上）を満たした 31 科目（春学期 21 科目、秋学期 10 科目）で実施された。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2-1 全体を通じて

2024 年度のコミュニティ福祉学部の回答率は 48.6%であった。COVID-19 の影響によりオンライン授業あるいはオンデマンド授業が取り入れられた 2020 年度より年々回答率が低下していた。2022 年度に授業のほとんどが対面授業に戻ったにもかかわらず回答率は全学平均も下回る 29.3%まで低下した。この事態に対して危機感を感じ、2023 年度には授業評価アンケート結果を FD の中で共有するとともに、回答率が高くなるアンケート方法、実施時間等について案内した。さらに、授業評価アンケートが実施される 1 週間前にそうした取り組みを促すメールを配信し、教員側の努力を促した。その結果 2023 年度には 48.3%と回答率が大幅に上昇した。そして、2024 年度は 48.6%と、2023 年度から僅かではあるものの、さらに回答率が上昇した。

表 1 年度別回答率

	2020	2021	2022	2023	2024
コミュニティ福祉学部	53.5%	46.1%	29.3%	48.3%	48.6%
全学平均	45.8%	37.9%	34.2%	40.0%	40.2%

さらに、履修者数と回答率についてまとめたところ、以下のようであった。

表 2 履修者数別回答率

履修者数	回答率（※）	科目数
1～59 人	64.7%	3
60～99 人	60.6%	6
100～139 人	46.0%	11
140 人～	47.0%	11

※履修者数の規模別に回答率を算出した（回答者数の合計／履修者数の合計）。

履修者数の規模により、やや回答率の差が見られ、小から中規模の科目では高い回答率となっているものの、100 人を超える科目では比較的低い回答率となっていた。

2-2 項目別

I 学生の学習姿勢 II 教員の授業改善に向けて III 学生が授業に期待するものについては、学部全体として以下のことがいえる。

A. (I1)「I 学生の学習姿勢」のうち「この授業に積極的に参加した」は、4.44（前年 4.36）であり高い。

B. (I2)「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）」は 1.29 時間であった。長くこの項目では 1 時間を切る状況が続き、他学部と比較しても低位であったが、2020 年度以降オンライン授業になってから、教員の多くが授業外での課題を課したりしたこと、自宅等での学習時間が大幅に増加していたと考えられる。2023 年度には授業外学習時間の大幅な伸びが見られたが、2024 年度はやや減少している。

表3 年度別・授業外学習時間

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
時間数	0.86	0.83	0.89	1.41	1.20	1.12	1.56	1.29

C. 「II 教員の授業改善に向けて」 () 内は前年度数値

(II2)「教員の伝え方はわかりやすかった」【4.35 (4.26)】

「III 学生が授業に期待するもの」(III3)「この授業を受けて満足した」【4.42 (4.34)】

については、前年度より微増ではあるが、高い数値を示し、好評価を得ていた。

2-3 設問項目別回答割合 II 教員の授業改善に向けて

授業改善に向けての意見は、学科により差が出るものが多かった。

表4 II3 この授業でよいと思った点がありますか

	配付資料	板書	パワーポイント	視覚教材	シラバス
福祉	56.9	14.4	49.5	24.9	4.5
政策	57.8	15.0	39.4	33.9	6.0

表5 II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか

	配付資料	板書	パワーポイント	視覚教材	シラバス
福祉	12.2	4.5	7.3	3.4	1.1
政策	15.2	6.1	8.3	1.8	1.8

改善すべき点があると学生が考える点については、学科別にみても大きな差はなく、また低位であった。

表6 III1 この授業から得ることができたものはありますか

	新しい考え	基本的専門 知識	自分で調べ 考える姿勢	学問的興味
福祉	57.2	70.3	14.2	36.5
政策	70.2	58.2	21.1	37.6

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

まず、担当教員の所見を書かない専任教員が31人中3人居たことは大変残念である。それを踏まえたうえで、次に、担当教員の所見をみると、多くの教員は学生の評価が高く、しっかりと授業を受講してくれたことに対して、また、授業評価アンケートに対して高い評価をしてくれたことに対する感謝が多く指摘されていた。

他方、学生が改善すべきと指摘したことに対する教員の立場からのいくつか説明がなされていた。例えば、①資料について「先に配布してしまうと、新しい考えとの出会いへの感情が薄れるため、授業間際に提供してきました。後で読み返すことは出来るのでこの点は理解して欲しい」、②「授業で詳細まで説明できない点を復習の際に補って頂けるように、関連する内容の記事を配付しています」、また、「テキストは毎回、取り上げることはしませんが、折々に該当する章と節を示しています。限られたテキストの紙面では把握できないことをできるだけ話すように努めています。」などの指摘があった。こうした学生との捉え方について齟齬が生じる可能性がある場合、授業時に説明しておくことが望ましい。こうした事例を踏まえて、他の授業でも授業の仕方について学生への説明を丁寧にしていくようにしたい。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

授業評価を受けて、改善に向けた今後の方針については、配付資料や話す速さなどが挙げられた。主な具体例としては以下のような内容であった。

第一に、配付資料について、多くの情報提供をしたいために資料が多すぎたり、文字が多すぎたりすること、カラーを白黒印刷することにより見えにくいこと、用紙の大きさの違い（A3とB4の不揃い）などの指摘があり、これらについて改善していくことが挙げられた。

第二に、授業での話し方について、伝えたいことが多いためにわかりにくくなっていたが、要点やポイントをまとめて話すこと、メモを取る時間を確保すること、なるべくゆっくり話すように心がけること、リアクションペーパーで話すスピードについて聞く欄を設けて確認することなどが挙げられた。

その他、①「板書の見えにくさについては板書の読み上げをする」こと、②「Webサイトアンケート機能なども活用して、授業時間内に学生同士の意見交換、相互交流ができる時間を設け、双方向型の授業の実現に務める」こと、③「学生に積極的な参加をしてもらうための工夫について、学生さんたちから意見を聞きたい」こと、④「「プロジェクターの音がうるさくて講義が聞こえにくい」という指摘があり、大学に改善を求める」ことなどが指摘されていた。

他方、「相反する意見があるので、改善を求められてもどうして良いのかわからない。」

という意見もあった。

こうした学生から指摘された課題の改善の仕方、その他、個々人の教員で対応について悩んでいることに対して、今後の学部の FD などでも検討していく必要があると考えられる。

4. 今後の改善に向けて

昨年度総評において、『授業評価アンケート』の時期に、本総評の内容を改めて教授会等で確認する事により、各教員が学生の声を聴きたいという姿勢を学生に見せることによって回答率の上昇を目指したい。」とし、春学期および秋学期に実施される授業評価アンケート直前に、アンケート実施時間を授業内で設けて頂きたいなど具体的な依頼をした。その結果、回答率は上昇し、多くの科目で 60% 近くの学生がアンケートに回答してくれた。

上記のような取り組みを通して、学生のアンケートの回答率が若干上昇し、また、教員も授業評価アンケート不成立が 0% と、予定していた授業すべてで授業評価アンケートができたことは前年度からの改善の兆しをみることができたといえる。

しかし、平均回答率は他学部と比べると高い方ではあるが、48.6% と過半数を下回っている。一概に回答率が高いことのみを評価するわけではないが、提供する授業に対して率直な意見を聴く貴重な機会であることを鑑みて、今後も回答率を高めるよう学部として努力することは重要であろう。他学部と比較すると、最も回答率が高い学部ではスポーツウエルネス学部で 56% となっており、回答率を上げる努力が求められよう。そのために、実施時に授業評価アンケートの意義がよく分かるように説明すること、また、そのための時間をしっかりと確保するようにして取り組みたい。

また、先にも記載したように、所見を書くことができなかった教員が 3 名いたが、これは全教員が執筆できるように教員へのアナウンス等にも積極的に取り組むことにしたい。

4-1-1 現代心理学部

1. 科目選定方針とねらい

現代心理学部では、従来通り（1）学部の専任教員が担当する「初年次教育科目」、（2）学部の専任教員が担当する「講義科目」及び「共通シラバスにより展開される一部の科目」を選定方針とし、原則として「演習科目」「実験科目」及び「複数教員担当科目」は実施対象外とした結果、17科目を対象科目とした（春学期6科目、秋学期11科目）。さらに対象科目のうち、回答者が5名以上とならなかった科目は2科目あったため、15科目で調査を行った。これにより、学部教育の根幹となる基礎から応用科目について学生の授業評価の動向を捉え、専任教員が今後の学部教育においてさらなる研鑽・授業改善の意識を認識するねらいがある。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

回答率

本学部の2024年度の回答率は32.8%であり、前年度の32.5%からほぼ変化がなかった。2024年度の全学の平均回答率が40.2%であったことを鑑みると、本学部の回答率は依然低い水準である。各授業の担当教員から履修者へ向けて、アンケートへの回答を積極的に呼びかける、授業時間内でのアンケート回答を促すリマインドを行うなど、回答率の改善に向けたさらなる工夫と取り組みが必要である。

I：学生の学習姿勢

「I1：この授業に積極的に参加した」の平均値は4.21、標準偏差が0.76であり、回答者の履修に対する積極的な学習姿勢がうかがえる。しかし「I2：この授業に関連して、授業以外に学習した時間」は平均で1.00時間となっており、前年度の1.12時間より減ってしまった。授業以外の学習時間が0という回答が2023年度と同様、全体の約三分の一を占めており、授業への積極的な参加が必ずしも授業以外の学習時間に結びついていないことがわかる。授業時間外の学習についてより明確に目安を伝えるなど工夫が必要である。

II：教員の授業改善に向けて

「II1：各回の授業内容は明確だった」の回答の平均値が4.45（2023年度は4.22）、「II2：教員の伝え方はわかりやすかった」の平均値が4.34（2023年度は3.98）と、2023年度の結果よりも大幅に評価を上げたと言える。学部教育の根幹科目を担う専任教員が、各回の授業内容を明確にして学生の学習意欲を高めることや、授業内容を明確に伝える工夫をして授業を提供していることが、I1にあるような学生の積極的な学習姿勢に繋がっていると思われる。

III：学生が授業に期待するもの

「III3：この授業を受けて満足した」の回答平均値は4.36（2023年度は4.12）であり、前年度から引き続き、高い評価となった。回答者が比較的授業に積極的に臨んでいる傾向にあることを鑑みても、例年よりも大幅に評価を上げて現代心理学部の開講科目が学生から比較的高い評価を得ていることがわかる。概ね、学生たちは当該授業の目標や目指すところ

を理解し、授業内容や学生の期待に見合う質の高い教育を提供できていると言える。

IV：学部等による設問

2024 年度も、例年通り「IV1：この授業の受講者数は適切だった」と「IV2：この授業の設備・環境に満足している」の 2 つの間を設けた。それぞれ 4.40 と 4.33 の平均値であったことから、授業における学習環境についても学生のニーズを充足していると言える。

学科別データ、学年別データ、授業規模別データ

学科別データでは、「Ⅲ1 この授業から得ることができたものはありますか」という設問に対して、心理学科では「授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が 81.5%で一位である一方、映像身体学科では「自分にとって新しい考え方・発想」が 67.4%で一位であり、各学科の科目の特色が出ていると言える。また、「学問的興味」が心理学科では二位、映像身体学科では三位となっていて、授業が学生に学術的刺激を与える存在になっていることが伺える。

学年別データでは、授業への積極的参加が高学年次になるほど顕著に回答評価が下がることには注意が必要と思われた。しかしながら、全体的に学年差はなく高評価となっている。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

学生からの評価は基本的に肯定的なものが多かったこともあり、担当教員も授業目標や学修の目的を達成していることを実感している様子がうかがわれた。さらに、学生からの配布資料やシラバスなどに対する改善の要望を真摯に受け止め、具体的に今後どのように改善するか意思の表明も見られた。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

学生からは、授業運営上の取り組みにおける具体的な改善案の提示がなされるケースが見られた。例えば、パワーポイントのスライドの見やすさや、配付資料の形式（紙媒体か電子媒体か、電子媒体ならばいつ頃アップロードされるかなど）、授業進行スピード、授業内のインタラクションなどについてである。学生の声を受け、各教員からは具体的な改善案が検討されている様子がうかがえた。多くの専任教員が自身の提供する教育、学問についてさらに質の高さを追い求め、創意工夫の姿勢を見せていた。

4. 今後の改善に向けて

昨年度から、しょうがい学生支援の充実という意味でも多様な学生への参加を促す授業形態の採用が喫緊の課題とされていた。2024 年 4 月 1 日より障害者差別解消法の改正を受け、本学部でも各教員がしょうがい学生と対話の上、遠隔授業の提供が行われるケースも増えていると思われる。アンケート結果に反映されにくい点ではあるが、授業形態が授業の目標や学修成果の達成について与える影響という視点での検討も必要である。

また、授業評価アンケートの回答率を上げるために、他学部の取り組みを参考にし、学生たちの率直な声を集めることが重要である。なお、「学生による授業評価アンケート」の実

施状況および回答率等の結果は、2025 年 5 月 20 日の教務委員会にて共有され、学生の回答率や教員の所見執筆等の状況については各学科会議にて共有、紙媒体が届き次第閲覧可能である旨のアナウンスを学部事務室より行うというフローにて情報共有を行い、引き続き各教員が授業評価アンケートへの関心を高く持ち続けるよう取り組んでいる。

4-12 スポーツウエルネス学部

1. 科目選定方針とねらい

2023 年度にスポーツウエルネス学部が開設され、2024 年度は、開設後 2 年目であり専門展開科目が開講されていない。そのため限られた開講科目から以下の科目選定方針で科目を設定した。

- 学部専任教員（助教含む）1 科目以下の実施を原則とする。
- 資格科目を優先する。
- 演習科目は対象外とする。
- 昨年度実施科目を優先する。

2023 年度と同様に学部による特別な設問は設けず、専任教員の意向を最大限に受け入れ選定を行った。ねらいとしては、それぞれの教員が学生評価を受けたい授業を、今後の授業にフィードバックすることである。資格科目は、受講人数が多い傾向にあることや、資格認可団体（国や公益財団法人など）が、詳細にシラバス内容に言及していることから、授業内容を作成する自由度が少ないため、授業評価による教員へのフィードバックが重要と考えた。演習科目は少人数であり、学生の顔が見えるため、選定する優先順位を低くしている。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2-1 アンケート実施科目数と回答率

本学部は、まだ設立 2 年目であるため 3 年生からの専門展開科目が開講されていない。その中で、春学期 9 科目と秋学期 11 科目をアンケート実施科目として設定した。最少回答人数（5 名以上）に満たない科目があり、春学期 8 科目と秋学期 8 科目の計 16 科目が 2024 年度のアンケート実施科目数となった。この中に英語科目を 3 科目入れており、英語科目の評価を行った。アンケート回答率は 56.2%であり、大学全体の回答率である平均 40.2%より高値であり、11 学部の中ではもっとも高い回答率であった。しかし、この値は新学部により、3 年生および 4 年生が不在の影響が関与している可能性があるため、今後動向を見ていく必要がある。

2-2 設問からの結果とまとめ

アンケート項目のⅠ1) 学生の学習姿勢（積極的に参加した）、Ⅱ1・Ⅱ2) 教員の授業改善に向けて（授業内容の明確および伝え方の分かりやすさ）、Ⅲ3) 学生が授業に期待するもの（満足度）の平均値をみると、いずれも 5 段階評価のうち半分が 4.5 を超えており、とても高く評価されていた。しかし、例年通り授業以外に学習した時間は約 1 時間／週と少なく、授業時間外にも学習意欲を持たせるような課題設定が、今後の検討となる。Ⅲ3「授業の満足度」において 4.56（5 段階評価）と高い評価を得ている。この授業の満足度と各質問との比較を次の項目で行った。

2-3 授業の満足度と各種評価の関係性について

1) 回答率と授業満足度（設問Ⅲ3）との関係

本学部は全体的に高い回答率を得ているが、その中で回答率と授業満足度の関係を調べたところ、明らかな相関を認められなかった。回答率の高さと授業評価の高さが関連し

ているわけではなく、学生は付度せずに授業評価で教員へフィードバックしていると推測する。

2) 授業の満足度と正の相関を示す項目はどれか？

授業満足度と正の相関を示す項目は以下である

- ① 新しい考え方・発想を得た（設問Ⅲ1①）。
- ② 授業内容が興味深く、得るものがあつた（設問Ⅲ1①～④）
- ③ 板書・パワポが良かった（設問Ⅱ3②・③）。
- ④ 専門的知識を得た（設問Ⅲ1②）。
- ⑤ 教材・資料の充実度が高かった（設問Ⅱ3①～④）。

シラバスや補助資料は、満足度とは強い関係がなく、板書、スライドやパワーポイントの使い方が重要であり、新しい考えを理解しやすい内容で伝えることが重要であることを示している。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

- 1) 授業参加度と小テストおよび課題：小テストや課題を導入することで、参加意欲が向上し、学習意欲が高まったことで、授業参加率が高まったと推測できる。
- 2) 教材の工夫：パワーポイント、動画、人体解剖アプリ、穴埋めプリントなどでわかりやすさや、視覚的に理解しやすいことが評価されている。
- 3) 話し方への反省：自慢話が多い、話し方が怖いなどの指摘があり、学生の立場を考え、話し方への配慮を十分に行うことが必要と内省する。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

資料が多すぎて復習が大変であり、資料配布の方法や構成を検討する余地がある。また、グループワークの強化、ディスカッションの導入など双方向の授業を検討する必要がある。英語に不安がある学生や、理系以外の学生に対しての配慮を検討する必要がある。

4. 今後の改善に向けて

2023年度にコメントがあつた回答率の高さは、2024年度も維持され、とても良い方向性を示している。2023年度での課題としてはFDにおける対応の充実が述べられている。2024年度FDにおいて、学生の発表における指導方法について話し合われ、個々の教員のブラッシュアップを行った。今回の授業評価における満足度は「学びや発想の新しさ・何か得るものがある・資料の質・説明のわかりやすさ、高い専門性」に相関し、重要であることが明らかとなった。また、さらに満足度を上げるにはパワーポイントや板書など情報伝達方法を向上させることがポイントである。したがって、資料作成におけるスキルアップは取り組むべき課題である。また、学生の学習興味を深めさせることが重要で、小テストや課題を行うことは、深い理解を生み、興味を促進させるため、積極的に教育ツールの使用を促していくことに繋がる。伝達方法のスキルアップや双方向性の学習は重要な課題であり、今後のカリキュラム改編に関しても、積極的に導入を検討していくテーマである。2025年度も、回答率を維持し、分かりやすい資料と双方向の授業への検討は行っていきたい。

4-13 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目

1. 科目選定方針とねらい

2024 年度の「全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目」では、

(1) 総合系科目「学びの精神」(FH)

(2) 総合系科目「多彩な学び」の以下 6 カテゴリ

(①人間の探究 (FA)、②社会への視点 (FB)、③芸術・文化への招待 (FC)、

④心身への着目 (FD)、⑤自然の理解 (FE)、⑥知識の現場 (FV))

を対象に 1 教員 1 科目の実施とする。

また、これらに追加して

(3) 「立教ゼミナール発展編」の全科目

(4) F 科目 (導入) の全科目

(5) 総合系科目「多彩な学び：⑥知識の現場 (FV)」におけるグローバル教育センターが提供する全科目

を対象に、授業評価アンケートを実施した。実施合計は 373 科目であった。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

全学共通科目・総合系科目の 2022 年度⇒2023 年度⇒2024 年度のアンケート実施科目の延べ履修者数の推移は、41,044 名⇒42,223 名⇒43,178 名であり、回答者数の推移は、12,307 名⇒12,606 名⇒13,034 名 (2024 年度内訳：1 年次：6,612 名、2 年次：3,408 名、3 年次：1,733 名、4 年次：913 名、その他：368 名) であり、回答率の推移は、30.0%⇒29.9%⇒30.2%となっている。回答率自体は依然として 2019 年度の 65.55%のような回答率には至っていない。2022 年度の報告にも記されているとおり、2020 年度以降の対面マークシート方式から Web 方式へのアンケート実施方法の変更が回答率に与えた影響も少なくないと推測される。こうした状況を打開するためには、教員が授業中にアンケートの意義を丁寧に説明し、学生に協力を促すことが極めて重要である。教員の関与があるか否かは、学生の回答行動やアンケートの信頼性に大きく関わっており、制度全体の改善には教員側の積極的な姿勢が欠かせない。

設問Ⅰ「学生の学習姿勢」に関しては、「この授業に積極的に参加した (Ⅰ1)」の平均値は 4.34 と、前年から微増し安定した高評価を維持している。一方、「授業外の学習時間 (Ⅰ2)」の平均は 1.17 時間と過去 2 年 (1.14 時間、1.20 時間) と同程度であり、十分な学習時間が確保されているとはいいがたい。学年別では 1 年次生が 1.25 時間と最も長く、2 年次以降は 1 時間強の水準に収まっている。また、カテゴリ別では「多彩な学び 6 (FV)」が 3.74 時間と突出しており、授業の構成が学習意欲や時間に大きく関係していることを示唆している。

設問Ⅱ「教員の授業改善に向けて」では、「授業内容の明確さ (Ⅱ1)」の平均値が 4.44、「伝え方のわかりやすさ (Ⅱ2)」が 4.35 と、いずれも前年を上回り、安定して高評価を維持している。「この授業でよいと思った点 (Ⅱ3)」では、配付資料 (53.7%)、パワーポイント (44.3%)、動画教材 (34.6%) が上位であり、特に視覚教材の活用が授業理解を支えている様子がうかがえる。他方、「改善すべき点 (Ⅱ5)」では配付資料 (13.6%)、パワーポイント (5.9%)、板書 (5.6%) の順となっており、評価と課題の両面で資料に対する言及が目

立った。

設問Ⅲ「学生が授業に期待するもの」では、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」の平均値が 4.37 と前年と同水準であり、一定の満足度が維持されている。「得られたもの（Ⅲ1）」としては、新しい考え方・発想（64.7%）、専門知識（53.8%）、学問的興味（44.4%）が上位に挙げられ、授業を通じて知的刺激や関心の拡大が見られた。ただし、自分で調べ考える姿勢は 21.4%と低水準にとどまり、今後は学生の探究的な学習を促すような仕掛けが必要である。

設問Ⅳ「学習環境」に関しては、「教室の大きさ（Ⅳ1）」が 4.23、「受講者数の適正さ（Ⅳ2）」が 4.25、「環境・設備（Ⅳ3）」が 4.34 と、いずれも前年より微増しており、学習環境の整備が進んでいることが伺える。特に「学びの精神」科目では、「高校と大学の学びの違い（Ⅳ4）」が 4.39、「大学の授業への心構え（Ⅳ5）」が 4.22 と、前年を上回る評価となっており、導入教育の効果が着実に現れている。

F 科目（導入）における設問Ⅳ6 は、2023 年度には「英語に対する抵抗感が和らいだ」とされ、平均値は 4.02 であった。2024 年度には「英語で学ぶことに対する意欲が向上した」という表現に変更され、平均値は 4.06 となっており、設問文の変化を踏まえても、学生の英語学習に対する前向きな姿勢がわずかに強まったことがうかがえる。カテゴリ別では「多彩な学び 5（FE）」が 4.63 と高評価を得ており、英語による授業が一定の教育的成果を上げていることが分かる。F 科目は、初年次の段階で英語による授業に慣れる機会を提供することを意図したものであり、言語不安の軽減にも一定の効果を果たしていると考えられる。2023 年度の総評でも、F 科目が中上級英語科目への履修に必ずしもつながっていないという課題も指摘されており、英語学習を継続する動機づけの強化が今後の改善の焦点となる。

総じて、教員の授業設計や教材の工夫に対して学生の評価はおおむね好意的であり、授業満足度も安定して高い水準を維持している。ただし、Web 方式の限界による回答率の停滞や、主体的学習の促進、英語学習の継続的支援といった課題も依然として残っており、アンケート制度の意義を教員・学生の双方が理解し、教育改善につなげていく姿勢が求められる。

3. 各カテゴリの総評

3-1 学びの精神（FH）

9 年目を迎えた 1 年次生対象の「学びの精神（FH）」は、大学での学びのスキルを身に付け、主体的に学ぶ姿勢を養い、立教生として居場所感を醸成することを目的としている。2024 年度は 2023 年度と同じ 99 科目で実施することができた。ただし、昨年度と同様に、回答率が高いとは思われず、全学生の意向を反映できているかどうかはわからない。教員側にも学生側にも回答率を高めたくなる動機付けがあまりないということなのであろうか。

「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2）」は、初年度の 2016 年度は 0.68 時間と少なく、学びの精神の趣旨が徹底されていないのではないかと懸念されたが、2017 年度の 0.75 時間、2018 年度の 0.78 時間、2019 年度の 0.84 時間、2020 年度の 1.32 時間と増加。その後 2021 年度は 1.29 時間、2022 年度は 1.11 時間と微減を続け、2023 年度は 1.19 時間と前年度より増加したものの、2024 年度は 1.11 時間と再び減少した。大学での学びにおいて、授業外での学習を主体的に進める力を身に付けるこ

とは重要であり、こうした力を初年次教育で養うことは「学びの精神」に期待されていることの一つであろう。この点については、あらためて「学びの精神」担当教員間で認識を共有する必要があるのかもしれない（ただし、所見票を拝読していると、授業規模が大きすぎることに戸惑いをみせる担当教員もおられるので、この点もあわせて考えていく必要があると思われる）。

「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」のうち、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」が 4.37、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」が 4.26 となっている。所見票からは、授業で取り上げる内容の精選やゲストスピーカーの活用、パワーポイントなどの教材の視認性や利便性の向上、分かりやすい説明など、多くの先生方が授業改善に向けて様々な工夫をされていることが分かる。この場を借りて先生方に感謝申し上げる。

「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」については、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」が 4.29 となっており、2021 年度の 4.11、2022 年度の 4.15、2023 年度の 4.20 と比べると高い数値になっている。先生方の授業改善に向けた取り組みの成果ではないだろうか。また「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1）」では、「①自分にとって新しい考え方・発想」が 65.5%であり、この点については「学びの精神」の役割を一定程度果たしているように思われる。他方で、「③自分で調べ考える姿勢」が 19.1%となっており、この点については「学びの精神」の役割を十分に果たすことができていないのではないかと考えられる。授業外の学習時間とあわせて検討すべき課題ではないだろうか。

「この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた（Ⅳ4）」については 4.39 と、2023 年度の 4.38 と同等の評価を受けており、「この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた（Ⅳ5）」については 4.22 と、2023 年度の 4.15 よりも高くなっている。これらの数字はそれなりに高いものになっているといえなくもないが、上述したとおり、授業外で学習を進める姿勢や自分で調べ考える姿勢が身につけているとは言い難いことから、本当にこちらが想定するような内容で高校・大学の学びの「違い」を理解したのか、大学の授業を受ける「心構え」ができたのかについては、疑問も残る（質問内容を再考する必要があるかもしれない）。

F 科目（導入）を対象とした「この授業を通して英語で学ぶことに対する意欲が向上した（Ⅳ6）」については 3.99 となっている。F 科目（導入）は入門科目としての機能を果たしていると考えられるが、英語のみで行われる授業（F 科目中級・上級）へのさらなる履修に順調につながっていくことを期待したい。

3-2 多彩な学び

1) 人間の探究 (FA)

「人間の探究 (FA)」では 58 科目でアンケートが実施され、1,406 名の回答があった。学生の学習姿勢として、「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」との設問には、「そう思う」と「大いにそう思う」の間に該当する 4.33 という数値が出ており、概ね意欲的であったと判断できる。この項目に関しては「学びの精神」から「多彩な学び 1~6」において似たような数値が検出されており、全体的に学生の意欲は高めであり、FA においても同様の傾向が見られる。「授業以外に学習した時間（Ⅰ2）」は 1 週間で平均 0.98 時間と 1 時間に達していないが、他の科目コード分類でも「多彩な学び 6」(FV)が 3.74 と突出しているのを除

けばいずれも 1.00 の前半にとどまっております、FA だけがとりわけ低いわけではなく、平均的な数値であると判断できる。以上から、FA における学生の学習姿勢は概ね高めであり、それは全体の傾向に沿ったものであるといえる。次にⅡ「教員の授業改善に向けて」の項目であるが、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」、「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」の両項目はいずれも 5 段階評価で 4 と 5 の中間域にあり、他の科目コード分類でもほぼ同様の数値を示している。このことから、学生側から改善すべき大きな問題は特に認識されていないと判断できる。「授業でよいと思った点（Ⅱ3）」では①配付資料と③パワーポイント、④動画に評価が集まっており（20～40%台）、②板書と⑤シラバスは評価が低い（10%台以下）。いずれも視覚効果と関係があることが予想されるが、同様の傾向は FA のみならず全体でも見られる。板書の代替手段として③パワーポイントが評価され、相対的に②板書の評価が低くなったとみられるが、「改善すべきと思った点（Ⅱ5）」で②板書の評価が低いわけではなく、単に③パワーポイントのほうが授業に効果的と認識されている結果であると思われる。一方で①配付資料は「授業でよいと思った点（Ⅱ3）」でほぼ 50%と他の項目よりも高い評価を受けているにもかかわらず、「改善すべきと思った点（Ⅱ5）」では 13%前後と他項目よりも数値が高い。ここから、学生は配付資料を授業内容を評価する要素として重視していることがわかる。ただし、配付資料の完成度や効果は授業ごとに異なり一律ではないと見られることから、各授業における配付資料の有効性の差異がこの結果に反映した可能性も否定できない。この設問への回答で最も数値が高いのが「⑥あてはまるものがない」であることから、授業の補助資料や視覚効果に関しては学生からの不満はさほど大きくないと判断できる。Ⅲ「学生が授業に期待するもの」の項目の「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」では、5 段階評価で 4 から 5 にかけての中間域にあり、他の科目コード分類でもほぼ同様の数値を示している。よって、学生はほぼ満足していると判断でき、それは全体的にも同様の傾向を示している。「この授業から得ることができたもの（Ⅲ1）」の設問では、①新しい考え方・発想が 70%台、②基本的な専門知識がほぼ 50%、④学問的興味もほぼ 50%であり、これも「多彩な学び 6」（FV）を除く他の科目コード分類の傾向とほぼ一致している。Ⅳ「学部等による設問」では、「教室の大きさ（Ⅳ1）」、「受講者数（Ⅳ2）」、「教室環境や設備（Ⅳ3）」など授業の環境に関する設問がなされているが、5 段階評価で 4 から 5 にかけての中間域に平均値があり、学生側からは授業環境に関しても特に大きな問題は認識されていないと判断できる。

2) 社会への視点 (FB)

「社会への視点(FB)」では、計 82 科目に対してアンケートが行われ、回答者数は 2,222 人であった。点数評価の結果を見ると、多くの項目が総合系科目の平均値と同等の傾向にあり、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」といった項目は、いずれも点数が高かった。また、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）（Ⅰ2）」も、平均時間より若干多かった。関連項目の「この授業でよいと思った点はありますか（Ⅱ3）」においては、「①配付資料（授業のレジュメなど）」や「③パワーポイント」を挙げる学生が目立つ。所見票の科目担当者の記述からも、対面・オンラインの授業形態や履修者数の多寡に応じて、適切な授業運営を試みていたことが確認される。ただし、「この授業で改善すべきだと思っ

た点がありますか(Ⅱ5)」においても、「④動画等の映像視覚教材」のほか、「①配付資料(授業のレジュメなど)」や「③パワーポイント」が多数指摘されている。パワーポイントや動画などの授業資料に対する学生の関心の大きさが確認できる。関連項目の「この授業から得ることができたものがありますか(Ⅲ1)」という項目では、「①自分にとって新しい考え方・発想」と「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」を挙げる学生が多く、「③自分で調べ考える姿勢」と「④学問的興味」を挙げる学生は少数派である。ただし、例外的に「③自分で調べ考える姿勢」と「④学問的興味」を挙げる学生が多数派の科目もあり、こうした事例を参考にしながら、「社会への視点(FB)」というカテゴリの科目として、継続して改善を図っていく必要がある。

3) 芸術・文化への招待(FC)

「芸術・文化への招待(FC)」では39科目でアンケートが実施され、1,460名の回答があった。学生の学習姿勢として、「この授業に積極的に参加した(Ⅰ1)」との設問には、「そう思う」と「大いにそう思う」の間に該当する4.41という数値が出ており、概ね意欲的であったと判断できる。この項目に関しては「学びの精神」から「多彩な学び1~6」においてほぼ同様の数値が検出されており、全体的に学生の意欲は高めであり、FCにおいても同様の傾向が見られる。「授業以外に学習した時間(Ⅰ2)」は1週間で平均1.09時間であり、他の科目コード分類でも「多彩な学び6」(FV)が3.74と突出しているのを除けばいずれも1.00の前半にとどまっていることから、FCだけがとりわけ低いわけではなく、平均的な数値であると判断できる。以上から、FCにおける学生の学習姿勢は概ね高めであり、それは全体の傾向に沿ったものであるといえる。次にⅡ「教員の授業改善に向けて」の項目であるが、「各回の授業内容は明確だった(Ⅱ1)」、「教員の伝え方はわかりやすかった(Ⅱ2)」の両項目はいずれも5段階評価で4と5の中間域にあり、他の科目コード分類でもほぼ同様の数値を示している。このことから、学生側から改善すべき大きな問題は特に認識されていないと判断できる。Ⅱ3「授業でよいと思った点」では①配付資料と③パワーポイント、④動画に評価が集まっており(30~60%台)、②板書と⑤シラバスは評価が低い(10%台以下)。いずれも視覚効果と関係があることが予想されるが、同様の傾向はFCのみならず全体でも見受けられる。板書の代替手段として③パワーポイントが評価され、相対的に②板書の評価が低くなったとみられるが、「改善すべきと思った点(Ⅱ5)」で②板書の評価が低いわけではなく、単に③パワーポイントのほうが授業に効果的と認識されている結果であると思われる。一方で①配付資料は「授業でよいと思った点(Ⅱ3)」で60%台と他の項目よりも高い評価を受けているにもかかわらず、「改善すべきと思った点(Ⅱ5)」では13%前後と他項目よりも数値が高い。ここから、学生は配付資料を授業内容を評価する要素として重視していることがわかる。ただし、配付資料の完成度や効果は授業ごとに異なり一律ではないと見られることから、各授業における配付資料の有効性の差異がこの結果に反映した可能性も否定できない。この設問への回答で最も数値が高いのが「⑥あてはまるものがない」であることから、授業の補助資料や視覚効果に関しては学生からの不満はさほど大きくないと判断できる。Ⅲ「学生が授業に期待するもの」の項目の「この授業を受けて満足した(Ⅲ3)」では、5段階評価で4から5にかけての中間域にあり、他の科目コード分類でもほぼ同様の数値を示している。よって、学生はほぼ満足していると判断でき、それは全体的にも同

様の傾向を示している。「この授業から得ることができたもの（Ⅲ1）」の設問では、①新しい考え方・発想が 60%台、②基本的な専門知識が 50%台、④学問的興味も 50%台であり、これも「多彩な学び 6」（FV）を除く他の科目コード分類の傾向とほぼ一致している。Ⅳ「学部等による設問」では、「教室の大きさ（Ⅳ1）」、「受講者数（Ⅳ2）」、「教室環境や設備（Ⅳ3）」など授業の環境に関する設問がなされているが、5 段階評価で 4 から 5 にかけての中間域に平均値があり、学生側からは授業環境に関しても特に大きな問題は認識されていないと判断できる。

4）心身への着目（FD）

「心身への着目（FD）」は 30 科目でアンケートが実施され、回答者数は 1,360 名（履修者 4,680 名）であった。2023 年度のアンケート実施科目数は 29 科目で回答者数は 1,162 名（履修者 4,049 名）であったので、アンケート回答率はほぼ横ばいであった。

「学生の学習姿勢（Ⅰ）」の「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」に関しては、5 点と 4 点の合計が 80%以上となっている科目が 90%以上を占めており、平均値は 4.35 と総合系の全カテゴリの中で 3 番目の高さで、このカテゴリでは学生が積極的な姿勢で授業に取り組んでくれたことが分かる。また、「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」について、「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」や「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」は、5 点と 4 点の合計が 80%以上となっている科目が 90%以上を占めており、教員の工夫や前年度からの改善などが反映されていると思われる（両方の項目とも総合系の全カテゴリの中で 3 番目の高さであった）。

「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」における学生の満足度も 4.49 と高いポイントをマークし（全カテゴリ中 3 番目）、「学部等による設問（Ⅳ）」に関しても各項目とも全体で 2～3 番目の評価を得ることができた。昨年度、「この授業で改善すべきだと思った点はありませんか（Ⅱ5）」で、他のカテゴリより割合の高かった「④動画等の映像視覚教材」については、昨年度の 4.0%から 3.0%に下げることができた点はきちんと改善の意識が働いていることの表れであると評価できる。ただし、他のカテゴリに比べてまだやや高いので、今後も継続して注視していきたい。また、自由記述欄に関しては、パワーポイントのスライドの情報量の適切さや見やすさや、動画や教員の経験談などによる具体的な理解を促進するアプローチや、提出されたリアクションペーパーに対して教員が応答するなどの「双方向性」志向を高く評価する意見が数多く見受けられた。一方、改善点としては、成績の評価基準への疑義や、パワーポイントの資料の見やすさや授業内に見せる時間の確保を求める声が目についた（ただし、前者はシラバスでの明記や初回授業時の説明があれば、学生との齟齬は回避できるとと思われる）。

評価に対する担当教員の所見票からは、配付資料の内容や見やすさ（文字の大きさなども含め）、授業の明確さや進め方、などに関する具体的な改善のコメントが多く見受けられ、履修者に対して真摯に向き合う姿勢が数多く見受けられた。

5）自然への理解（FE）

「自然への理解（FE）」では昨年度と同じ 32 科目でアンケートが実施され、1,576 名の回答があった。

平均的な評価としては、「学生の学習姿勢（Ⅰ）」の「この授業に積極的に参加した（Ⅰ1）」の項目と「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）（Ⅰ2）」の項目は、それぞれ4.27、0.89時間であり、昨年度の4.25、0.83時間、一昨年度の4.22、0.74時間と比較するといずれも微増傾向である。しかし、両者とも「多彩な学び」の他のカテゴリと比較して少ない状況は昨年度から変わりはない。加えて「教員の授業改善に向けて（Ⅱ）」の「各回の授業内容は明確だった（Ⅱ1）」と「教員の伝え方はわかりやすかった（Ⅱ2）」および「学生が授業に期待するもの（Ⅲ）」の「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」はそれぞれ4.44、4.34、4.36といずれも昨年度と比較して増加しており、他のカテゴリと同水準に改善した。「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1）」の項目中「①自分にとって新しい考え方・発想」は53.6%であり、引き続き「多彩な学び」のカテゴリ中で最も低い値である。「この授業でよいと思った点はありますか（Ⅱ3）」の項目は平均値程度であり、その中で「③パワーポイント」が高く、また「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1）」項目の「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」が「多彩な学び」のカテゴリの中で2番目に高い。

所見票を個別に見ると、アンケート項目Ⅱ1とⅡ2でともに「大いにそう思う」を選択した回答者が70%を超える講義がある一方で、ともに25%以下の講義もある。前者の講義の所見では多様な学部の履修者が最低限の基礎知識で科学的な講義内容に興味を持つことができるように、担当教員が様々な工夫をしていることが読み取れる。アンケート結果を分析して丁寧に所見を書いている教員がいる一方で、担当教員の所見が空欄の科目やアンケートの回答率が10%に満たない科目もある。教員が講義を改善していくためのヒントとして、授業評価アンケートを活用する意識を高めていく必要がある。

6) 知識の現場 (FV)

非常に特徴的な結果が出ているのが本カテゴリ（知識の現場（FV））である。他の総合系科目と比較すると、大多数の設問項目で本カテゴリがもっとも良い数値を示している。

例えば、「この授業を受けて満足した（Ⅲ3）」は4.65（他の総合系科目は4.29～4.50）、「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）（Ⅰ2）」は3.74時間（他の総合系科目は0.89時間～1.22時間）、「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1）」のうち「①自分にとって新しい考え方・発想」は92.0%（他の総合系科目は53.6～70.3%）、「③自分で調べ考える姿勢」は68.5%（他の総合系科目は14.0～24.9%）といった具合である。本カテゴリの特徴である現場経験を含めた学びやプロジェクトベースの学びを少人数で実施していることなどが、これらの設問への回答にプラスの効果をもたらしていると思われる。

他方で、「この授業から得ることができたものはありますか（Ⅲ1）」のうち「②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識」は44.3%（他の総合系科目は49.1～61.7%）、「④学問的興味」は31.3%（他の総合系科目は40.2～54.1%）となっているが、これは本カテゴリの中だけで対応すべきものというよりも、他の総合系科目や学部専門科目などとの連携の中で対応していくべきものであるようにも思われる。

今後も本カテゴリの特徴を最大限に活かしつつ、受講生の知的好奇心を満たす他科目にうまく接合し、様々な専門知を学んだ学生が再び本カテゴリで協働しながらその知を実践するという好循環が生まれることを期待したい。

4. 今後の改善に向けて

授業評価アンケートの分析を通じて挙げられることが多い課題は、授業評価アンケート回答率の向上や、授業以外の学習時間の確保などではないか。総合系科目でもこの点は変わらないように思われる。

前者の回答率の向上については、「2. 集計データにみられる結果のまとめ」にあるように、「教員が授業中にアンケートの意義を丁寧に説明し、学生に協力を促すことが極めて重要である。教員の関与があるか否かは、学生の回答行動やアンケートの信頼性に大きく関わっており、制度全体の改善には教員側の積極的な姿勢が欠かせない」ということなのであろう。もっとも、マンネリ化を感じてしまっている教員もいるのではないだろうか。授業評価アンケートにしっかりと取り組むことで、授業改善が促されるという実感が伴わなければ、教員にも学生にも積極的・協力的な姿勢は望めないように思う。

後者の授業以外の学習時間の確保については、総合系科目の授業評価アンケートから興味深い示唆が得られるのかもしれない。「3-2 多彩な学び」の「6) 知識の現場 (FV)」にあるように、「非常に特徴的な結果が出ているのが本カテゴリ (知識の現場 (FV)) である。他の総合系科目と比較すると、大多数の設問項目で本カテゴリがもっとも良い数値を示している。例えば…「この授業に関連して、授業以外に学習した時間 (平均して、1 週間に (I2)」は 3.74 時間 (他の総合系科目は 0.89 時間～1.22 時間) …といった具合である。本カテゴリの特徴である現場経験を含めた学びやプロジェクトベースの学びを少人数で実施していることなどが、これらの設問への回答にプラスの効果をもたらしていると思われる」という点である。「知識の現場」というカテゴリで、授業外学習時間が増えるのは、その授業スタイルからして当然の結果ともいえなくもないが、他のカテゴリにおいても、体系的な知を伝えることのみならず、学生が自分たちで考えて試行錯誤し表現する機会を混ぜ込んでいく試みの有効性が検証されてもよいのではないかとも思う (もちろんこうした試みが難しい科目もあるであろう)。

4-14 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目

1. 科目選定方針とねらい

全学共通科目・言語系科目については、原則として全科目で実施した。ただし、連続性のある科目（例：「～語 A・B」「上級英語 1・2」）を同一教員が春学期・秋学期担当する場合は、秋学期のみ実施とした。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2024 年度の全学共通科目・言語系科目のアンケート対象科目数は 2,152（春学期 874、秋学期 1,278）、そのうち回答者 5 名以上のアンケート実施科目数は 1,740（春学期 740、秋学期 1,000）であった。アンケート実施科目の延べ履修者は 36,656 人で、うち回答者数は 26,004 人、回答率は 70.9%であった。前年度と「回答率」に大きな変化はなかった。「設問項目別平均値」を見ると、全学共通科目・言語系科目の授業や教員の授業運営に対する評価の高さがよくわかる。学生の学習姿勢は、授業への参加度は高いものの授業外学習時間は、例年同様に低い。「この授業を通して向上した能力」について、言語 A（英語）では必修科目、自由科目ともに「話す力」が最も多かった。一方言語 B では「読む力」、「書く力」が多くなっている。言語 A・B ともに新カリキュラムおよび多くの言語で導入した新テキストの定着にむけ、さらなる改善が求められる。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

以下のとおり、研究室ごとに総評をまとめた。

<英語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

所見全体の傾向は春学期より秋学期の所見の方が詳細な傾向があり英語ディベート／ディスカッションでは「チームワーク」や「発言機会の確保」に関する所見が多い。e ラーニング科目は所見が比較的簡潔か、または未提出のケースが多めであった。上記に自由科目の CLIL 科目も含めた担当教員の所見の傾向は以下の 4 点に集約される。

1) 授業満足度と学生の積極性への言及

多くの教員が「学生が積極的に参加した」「発言・提出物の質が高かった」「良好な雰囲気だった」といったポジティブな評価を記載している。

例：「積極的に発言する学生が多く、活気のある授業となった」

「毎回の課題提出も非常に良好だった」

2) 英語運用能力の向上に関する評価

リーディング&ライティング系の授業では、「語彙力」「文法理解」「構合力」の向上に触れる所見が多く見られた。

例：「初回と最終回のライティングを比べると明らかな成長が見られた」

「英文構成に関する理解が深まっていた」

3) 課題提出率・授業参加率の重要視

教員の所見には課題提出状況や授業への出席・参加状況への言及が多く、「継続的な提出の習慣が重要である」という姿勢が共通している。

例：「ほとんどの学生が締切を守って提出していた」
「出席率の低い学生が数名いたのが残念だった」

4) 学生の積極性・努力に対する高評価

全ての教員が、授業内外での学生の努力や姿勢を高く評価している。

例：「学生たちは授業内外で非常によく取り組んでいた」
「ポスター分析やポッドキャスト制作など新しい経験を通じて成長が見られた」

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

改善に向けた所見の傾向は以下に概ね集約される。

一部の教員は「さらに積極的な参加を望む」「語彙や表現力の強化が課題」といった改善点を記述しており、建設的なフィードバックが多い。より具体的な改善法として以下を挙げているものが多い。

指導方法・支援体制の改善意識

多数の教員が「よりわかりやすい説明」「フィードバックの強化」「配布物の整理」など、継続的改善を目指す姿勢を見せている。

- 「配布資料に通し番号をつけ、事前の配布計画を工夫する」
- 「準備タスクの分量調整や scaffolding（足場かけ）の工夫をしたい」

また自由科目においては、履修の構造的な理由にもよるが、共通して以下のパターンが見られた。

語学レベルの多様性への配慮

CLIL クラスでは英語運用能力に幅があることが繰り返し言及されており、教員はこれを配慮すべき重要な点として認識している。

- 「英語レベルの差が大きく、評価は語学力ではなく学びの姿勢に基づくべき」
- 「異なるレベルの学生が互いに耳を傾け合いながら成長できるような雰囲気作りを心がけた」

<ドイツ語教育研究室>

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

担当教員から提出された所見および授業評価アンケートの結果を総合的に分析したところ、教員の授業運営に対する学生からの評価は概して高く、特に「説明のわかりやすさ」や「授業内容の明確さ」において、他言語科目と比較しても安定して高いスコアを示していた。加えて、宿題や課題へのフィードバック、質問対応などに関する項目でも好意的な評価が多数寄せられ、教員のきめ細やかな対応が、新しい言語を学ぶ学生にとって信頼や安心感をもたらしていることがうかがえる。

教員の所見からは、新カリキュラムの導入に伴い、ペアワーク・グループワークなどアクティブラーニング的要素を多く取り入れたことにより、学生の積極的な参加が促進されたことが報告されている。また、適宜、視聴覚資料やスライド、音声教材などの補助教材を効果的に活用し、ドイツ語圏の文化や社会に触れる機会を提供するなどの傾向も見られた。

学生からの肯定的な評価・意見としては、授業が楽しく、ドイツ語やその文化に対する興味が深まったこと、授業の雰囲気が良いこと、初学者でも達成感を得られたこと、ペアワークやグループ活動などの実践的な活動が有意義であったこと、スライドや音声教材などの補助資料が学習の助けとなったことが挙げられる。

一方、否定的な評価・意見として多かったのは、統一教科書に関する不満である。2冊購入するが2冊目を授業で使用する部分が少ないこと、授業の速度のために全てを扱わない点、もっと文法を学びたかったという声、発音やリスニングに関する困難さなどが挙げられている。

これらの結果から、ドイツ語では学生に対する丁寧な授業運営と、新カリキュラムの方向性にあるように科目担当者が工夫を重ね、誠意のある指導により、高い満足度と学習成果が得られている。一方で、授業の進度や教材選定においては、さらなる調整と配慮の余地があることが示唆される。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

アンケート結果から、ドイツ語科目の授業運営は概ね高評価を得ているものの、統一教科書に関する意見が多いことを真摯に受け止め、研究室で内容の見直しや進度案の改良を検討する。

2024年度は新カリキュラム1年目ということで、各科目担当者には研究室が作成した進度案に基づいた運営を依頼していたが、今後は履修グループの傾向、学生の習熟度に応じて、授業内容の難易度や進行速度を柔軟に調整する体制を整備することも重要であろう。授業内での理解度確認や個別フォローを強化する仕組みを検討していきたい。

次に、学生が主体的に学習に参加でき、外国語学習に興味を持って取り組める授業づくりを推進する。質問しやすい雰囲気作り、グループワーク・ペアワークなどの参加型学習をさらに充実させ、学生間のコミュニケーションを活発化することで、学習意欲や達成感の向上を図る。

さらに、発音やリスニングに苦手意識を持つ学生が一定数存在することから、授業外でもICTツールやオンライン教材を活用し、個別のペースで練習できる環境を整備したい。これにより、発音や聞き取りの技能向上を効果的に支援する。

授業内ではドイツ語圏の文化・歴史・社会に関する紹介を継続的に取り入れ、言語学習の背景知識や興味関心を深めることで、学習のモチベーションを高めることを目指す。特に文化的な内容に対する学生の反応が好意的であったことから、魅力的なコンテンツを充実させることが重要である。また、必修科目から自由科目への継続的な学習を促進するため、両科目の授業内容や指導方法の連携を強化し、学生がスムーズに学習を続けられる環境づくりを推進する。

今後も多様な学生のニーズに対応しながら、質の高いドイツ語教育を提供できるよう環境の整備を進め、学習効果および満足度のさらなる向上を目指す。

＜フランス語教育研究室＞

3－1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2024 年度は新カリキュラム導入の初年度であったが、アンケートを通して必修科目・自由科目のいずれにおいてもおおむね履修者から高い評価が得られ、学生が授業内容に満足していたことがわかった。このことから、新カリキュラムに対して一定の評価がなされていると受け止めている。「担当教員の所見」からは、新しい形態での授業を導入するにあたり、学生がどのような反応を示すのかについて不安を抱いていた教員が多かったことがうかがえるが、Ⅲ3 の質問項目において高評価が得られたことに対し、安堵の声も多く見られた。また、「フランス語 2」のスピーキングやライティング能力を養成するアウトプットクラス、「フランス語 B」のリスニングやリーディング力を高めるインプットクラスのいずれにおいても、各教員が授業の円滑な運営を図るために、教材やクイズを独自に作成するなどの工夫を重ねている様子も所見から読み取れた。

一方で、新カリキュラムの開始により、とりわけ自由科目の各授業で想定されているレベルに達していない学生が履修しているという指摘もあった。これは、カリキュラム改編にともない、従来の先修制を履修条件から外した結果、中級レベルの授業を初習者が履修していたことに起因している。この点については、2024 年度秋学期のシラバスにおいて該当クラスへの注意事項を加筆することで、一定の改善が見られた。

3－2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2023 年度のフランス語教育研究室によるアンケート総評において浮き彫りとなった課題として、難易度の高い文法事項を扱う課で、クラスによっては予定通り進行できなかったケースが挙げられる。これに対し、新カリキュラムでは必修授業における文法事項を「フランス語 A・B」で集中的に扱う構成としたことで、授業の進行が円滑になった。この改善には、2024 年度に向けて必修科目で使用される教科書の改訂も大きく寄与している。フランス語では「フランス語 1・2」と「フランス語 A・B」は同一教科書を使用しているが、教科書の改訂により内容が充実し、さらに各クラスで扱う箇所がより明確化したことにより 2024 年度は大幅な遅れを取る授業はほとんど見られなかった。

教材の開発という点では「フランス語 1・2」用にフランス語教育研究室で直接教授法を行うための教材も作成し、担当教員に配付した。また以前から必修クラスで使用していた副教材も修正し、担当教員に配付している。自由科目においても「フランス語総合 5」と「フランス語総合 6」で使用される教科書が新たに作成され、2025 年度の授業から使用されている。

他方で、2024 年度の「フランス語 B」においては大幅な遅れはなかったものの、授業の進度が速かったという学生の声の一部が見られた。2 年目となる 2025 年度には、担当教員もスケジュールの見通しが立てやすくなると予想され、この点は改善されると見込まれるが、フランス語教育研究室としても引き続き担当教員と密に連携を取りながら、スムーズな授業運営が図られるよう支援を行っていきたい。

＜スペイン語教育研究室＞

3－1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2022 年度から変更になった 1 年次必修科目のテキストも、2024 年度で使用 3 年目となり、教員は同テキストを用いて授業を展開することにだいぶ慣れてきたように見受けられる。ただし、このテキストは元々スペインで作成されたテキストを基に日本語版として準備されたものであるため、日本国内で作られたテキストとは毛色が異なることもあって、アンケートの自由記述などを見ると学生側からはやはり戸惑いが隠せないようである。そのせいか、設問Ⅱ6 でテキストが分かりづらいという意見が散見され、また、教員からもテキストに対する学生側からの改善要望があったという所見があった。リスニング問題の速度が速すぎるというのは、これまでも指摘があったが、今回もそのような意見が見られた。学生からだけではなく、教員からもテキストの「クセ」について指摘する意見があったが、これまでの経験上、教員は上記の点を理解しており、Canvas LMS を活用したり、プレゼンテーションソフトを用いてより分かりやすく説明したり、あるいは、独自のプリントを作成したりするなど、それぞれ工夫を凝らして授業を展開していた様子が所見からうかがえた。これにあわせて、さらなる配付資料や補助教材の充実を行いたいという意欲を示す教員もいた。また、これまでもスペイン語教育研究室では補助教材（Suplemento）を作成し、テキストのみでは不足しがちな練習問題を補足するようにして来たが、2024 年度はその内容を大幅に改訂・増補し、学生には Canvas LMS 上で PDF ファイルとして配付する試みを行った。それに対しては、「補助教材が役に立った」「文法を習うだけでなく補助教材の問題を実際に解く時間があったのが良かった」という学生側からの意見も複数あり、補助教材が十分活用されている様子が垣間見えた。この他、ペアワーク、グループワークに積極的に参加するように促す、また、音楽や歌、映像資料等を活用して、スペイン語圏の文化を紹介することで学生の興味を深める試みも多くの授業で行われていた。

自由科目では、各科目で目指す内容やレベルが異なるので、一概にまとめて言うことはできないが、傾向として、さらに高いレベルのクラスへの継続学習へ導こうとする意思は共有されていた。この点は学生の自由記述にも反映されているようで、テーマに基づいたマテリアルが用いられていて興味深い、検定試験対策として有用、話す機会が多く持ててよかった、文法の復習ができたなど、ポジティブな意見が多かった。

3－2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

担当教員によって問題意識が異なる点はあるものの、根底に流れるものとしていずれも学生の理解を深め、継続学習への意欲を刺激することを目指す意欲が示されていた。学生の自由記述には、教員の話すスピードが早すぎる、もう少しグループワークが良かった、Canvas LMS をさらに活用してほしいなどという改善の要望があったが、これらに対しては、何か不便が生じた場合は気軽に教員に相談するように案内する、使用する資料等にさらに改善を加え、学生の理解の手助けとなるように準備したい、課題へのフィードバックを増やすというような意見が教員側からあった。また、授業外で能動的に学ぶ機会を多く作ることが今後の課題という教員の指摘も見られた。この他、やや気になった点としてあげられるのは、学生間あるいはクラス間での取り組み具合や反応の差に関するコメントが複数見られたことである。例えば、補助教材の練習問題への取り組みについて、課題にきちんと取り

組む学生とそうでない学生との差が以前よりも出てきてしまっている、他のクラスでは改善の余地はないという結果が示された一方、別のクラスではそれと乖離した結果になっている、他のクラスと比較して、あるクラスだけ評価が大きく異なっていて困惑しているというようなコメントである。学生にもそれぞれ言語学習に対する到達目標や意欲の違いがあり、クラスにも個性があるので、同じ素材を用い、同じような進捗で進めても、反応に相違が生じるのは起こり得ることであるが、可能な限り学習態度を向上させ、学習意欲を刺激するとともに、自律学習を進める環境を提供できるようにすることが望まれる。

〈中国語教育研究室〉

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

2024年度は言語Bの新カリキュラム導入初年度にあたり、基礎科目、自由科目を問わず、テキスト、授業形態、成績評価方法等、これまでと大きく異同が見られた。そのため科目担当者、履修者いずれにとっても戸惑うことが多く、想定外の事態が多々発生した。

基礎科目では、20人定員でアウトプット中心の「中国語1・2」と、40人定員でインプット中心の「中国語A・B」に分けるという大変動があった。前者を中国語ネイティブ教員、後者を主に日本人教員がそれぞれ担当したが、「中国語1・2」の方は履修者の満足度はおおむね高く、自由記述においても好意的評価が多く、問題点の指摘はほとんど見られなかった。科目担当者の所見からも、アンケートの高評価に対する安堵や、授業運営における充実感などが垣間見られた。一方、「中国語A・B」においては特に授業の進め方において担当者間に差異が多く見られ、一部の履修者からは授業内容についての厳しい評価も散見された。基礎科目ではテキストも2024年度から新しくなったのであるが、それに対するコメントはほとんど見られなかった。統一テストも実施時期や内容等に変動があったがこれについてもコメントはなかった。

自由科目は新カリキュラムにおいて展開コマ数が減少したため、各科目において履修者数が増加し、アンケートの母数が多くなった。特に初習者レベルの自由科目において履修者間のレベルの差が見られたことがアンケートから窺える。授業への評価はおおむね高かった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

例年通り、授業で使用するスライドを共有してほしいという要望が多く見られた。これは著作権の問題もありすべての要望に応えることは難しいが、引き続き課題としたい。日本語訳をテキストにつけてほしいというコメントも多々見られた。これに関しては履修者が授業でメモすればよいこととも思う。

授業を通じ中国の社会や文化に興味を持てたというコメントも多く、多くの科目担当者の工夫が見られた。引き続き履修者の中国語学習への意欲が高まるような様々な工夫ができるよう、研究室として協力していきたい。

アンケートに関する科目担当者の所見がなかった科目が多く見られた。これは旧暦の正月が2025年は1月末にあったため、多くのネイティブ教員が1月末までに一時帰国し、中国からgmailが利用できず、所見を記入できなかったという事情がある。次年度はこのようなことはない予想されるが、担当者へのアナウンスをしっかりとしていきたい。

〈朝鮮語教育研究室〉

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

朝鮮語の場合、必修科目と自由科目で共通して言えるのは、各担当教員が親切で優しいので授業が楽しいという意見が多かった点である。また、先生方が予習・復習用に配付する資料や、アプリを利用したメリハリのある学習法についても高評価を得ている。

必修科目では新カリキュラムの導入により、「文法」についてはインプット中心の授業で集中して学べて、「会話」についてはアウトプット中心の授業で十分な会話の練習ができるという点で満足度が高いことがうかがえた。課題としては、担当教員によって教科書の進め方や試験内容・実施日などの情報についての周知方法にばらつきがある点である。この点については重く受け止め、徹底して改善に努める方針である。

自由科目では生きた表現、ネイティブがよく使う表現を学べるだけでなく、広い視野を持って様々な観点から言葉を学べるので楽しいという意見が多かった。課題としては、今のシラバスを見るだけでは授業の学習レベルや具体的な授業内容について学習者の立場からは判断が難しい、分かりにくいという点である。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

2023年度の課題としては、必修科目では①学習内容が多すぎる点、②授業では時間的に余裕がなく会話練習があまりできないという2点が挙げられたが、2024年度から導入された新カリキュラムにより大きな改善が見られた。

インプット中心の授業（朝鮮語A・B）とアウトプット中心（朝鮮語1・2）に分けられ、それぞれの目的に合う形で効率よく授業運営がなされた結果、学生からも高評価を得ている。また、①の改善と主体的な学びを促すことを目標に、授業時間外で学習できるYouTube動画の学習資料などを補助教材として配付している点も学習意欲の向上につながっていると考えられる。2024年度の課題としては、担当教員によって進度の進め方や課題・試験などの情報共有についてクラス間で差が生じないように、新カリキュラムが定着するまでは周知を徹底していく必要がある。

2023年度の課題としては、自由科目では、同じ授業を受けている①履修学生間の学習レベルの差と、②学生と教員間のミス・コミュニケーションによる信頼感や学習意欲の低下などが主な課題として挙げられた。①についてはより具体的に授業内容や履修レベルを明記、②についてはより学習者中心のコミュニケーションを意識した授業運営を心掛け、改善に努めてきた。2024年度のアンケート結果を見ると、②については改善がみられるが、①についてはまだ学生には十分に伝わっていないと判断される。今後は、朝鮮語教育研究室が中心となり、履修を考える学生が、シラバスを読むだけですぐにその授業の内容やレベルが正確にイメージできるようなシラバス作成を心がけたいと思っている。

〈ロシア語教育研究室〉

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

新カリキュラム初年度の授業でいろいろと試行錯誤も多かったが、伝え方や配布物が高評価で良かった。オンラインで実施した「入門ロシア語」は、こちらの説明がどれくらい伝わっているのか、あるいは説明過剰になりすぎていないかなど、不安な面もあったが、こち

らもわかりやすかったという評価をいただけて安心した。練習問題をあてて解答してもらう際の対応や、小テストの実施について、今後改善策を探っていく。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

必修の授業では、文法中心の授業で取り上げる例文などをもっと表現の授業に組み込み、会話練習ができるようにするなど、より文法・新出単語が定着しやすい仕組みを作っていきたい。

「入門ロシア語」では、シラバスに記載した授業計画と実際の進度にずれが生じてしまったことを踏まえて、より現実に即したかたちでシラバスを修正することとした。また、オンライン授業なので、解答者ではない学生の待ち時間が長くなり過ぎないように時間を区切るなどの対応をしたいと考えている。この授業は基本文法を中心に学習するという性質上、教員の話している時間が長くなり、学生の皆さんが発話する機会が少なくなってしまうが、そのため発音・発話の機会を増やせるよう、工夫していきたい。

＜諸言語教育研究室＞

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

「学科等別」で「諸」とまとめられている中に含まれる3科目は、言語B新カリキュラム始動とともに開講された新設科目のうちの「入門タガログ語」（春・秋）並びに「入門ベトナム語」（春）である。担当者は、試行錯誤しながら授業を行ってくださったようだが、学習意欲の高い履修者が多く、タガログ語やベトナム語の基礎を学ぶと同時に、複言語・複文化的能力を身に付けたと思われる。

「日本手話」の科目においては、どのレベルでも多くの学生が積極的に授業に参加し、言語としての手話を通して、学びコミュニケーションする楽しさを得ている。コラムを通して手話のみならず、ろう者の文化や歴史も学び理解を深めており、授業に対する満足度も非常に高い。継続学習への意欲も高い。加えて、手話交流を目的としたランチ会が楽しかったとの回答が複数あり、授業内での手話対話のみならず、授業以外での手話交流の機会が学生の手話力向上の助力になっていることもわかった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

学生からの率直な意見を受け、見やすい板書の工夫やレジュメの配付に留意し、学習環境の整備に気を配っていく。引き続き、学生の興味に応じた映像視覚教材を使用する、質問しやすい環境を作る、学んだことを実践する時間を設けるなど、授業の運営にも工夫を凝らしたい。

「日本手話」では動画等の映像視覚教材の更新を順次進めていく。手話力が足りない学生とは対話をしながら、自主学習を勧めるなどフォローの仕方も工夫していきたい。また初級1～中級2とレベルに応じて、履修者が手話力をステップアップしていけるよう、今後もさらに授業の改善を目指していく。

＜日本語教育研究センター＞

3－1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

各教員が授業目標を達成できたかどうかを確認するための手がかりのひとつとして、授業評価アンケートを活用できている。学生の出席率、参加度についても、全体的に肯定的な所見が書かれており、多くの学生が積極的に授業に取り組んでいたことが読み取れる。

漢字圏、非漢字圏といった文化的背景の違いのほかに、日本にルーツがある学生の存在等、履修学生の背景の多様性に由来する日本語運用力の違いにより、授業内容の調整に苦労したといったコメントもあった。一部の学生から教材の使いづらさや説明の不足に関する指摘があった科目については、今後、教材の使用法や補足説明を工夫したいといったコメントが寄せられている。教材やスライドを整備する等、より幅広い学習者を支える工夫について、意見交換を行う機会を作ることができればと思う。

3－2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

改善に向けた方針としては、教材・教具の活用等の授業運営に関するものと時間外学習に関わるものがある。

教材・教具については、レジュメの配付やパワーポイントを活用した授業を行うことが内容理解に役立ったというコメントがある一方で、少数ではあるが、板書や動画等の視聴覚教材の導入を期待する声があった。また、授業内活動から得られた気づきの共有や振り返りの活動をさらに学びを深めることができるよう、授業での気づきや疑問点を文章にまとめる宿題を課したり、振り返りのための対話の時間を授業内課題として準備したりするといった改善点も挙げられている。このような活動面だけでなく、配付物についても、授業で扱うトピックについて最新の情報や資料も適宜追加したり、紹介したりするなどして対応する工夫が求められる。

授業外学習時間については、学習を促すための動機づけの工夫、課題内容の工夫を行い、学生が計画を立てながら復習や情報収集に取り組む機会を増やしたいというコメントがあった。

時間外活動を含めた科目設計をすることで、上述の 2 つの観点からの授業改善が期待できる。

4. 今後の改善に向けて

2023 年度のアンケート総評としてこの欄には、2024 年度における言語 A の新カリキュラム完成と言語 B における新カリキュラムの始動について触れ、言語系科目にとって 2024 年度が激変の年度になるであろうことを予告している。

2024 年度、言語 A では新カリキュラムが完成し、自由科目も含めすべてが新しい科目となった。科目担当者の所見からは新しいカリキュラムに対し、不安よりも手応えの方が大きかったことが見て取れる。一方、言語 B では新カリキュラムの始動の年となり、カリキュラムと同時にテキストも一新された言語もあった。自由科目における科目のレベル設定と履修者とのミスマッチ、新テキストに対する担当者や履修者間の評価の違い等、少なからぬ問題がアンケートでは指摘されている。これらの結果を真摯に受け止め、見直し、将来のより良いカリキュラム策定のヒントにしていきたい。

全学共通科目であることから、言語 A、言語 B ともに言語を超えて共通の目標を掲げ、各言語で統一シラバスのもと運営していくことになる。各言語の特徴や担当教員の個性は活かしつつも、すべての学生がどの授業を受けても同じ基礎力と複文化の視座を身につけられるよう、教員一人ひとりの意識改革も行いながら、安定した授業を提供できるよう努めていきたい。

4-15 学校・社会教育講座

1. 科目選定方針とねらい

毎年度、学校・社会教育講座（以下講座）の授業評価アンケートは、教職課程に関しては原則として講義科目を対象として1教員1科目を、そして学芸員課程、司書課程および社会教育主事課程に関しては各課程で重点を置いている科目を選定し、数年にわたって広い科目を網羅できるように科目選定をおこなっている。また、履修者が5名以下の科目については、実施見送りとしている。この科目選定方針に従い、2024年度授業評価アンケート対象科目には55科目（春学期36科目、秋学期19科目）を選定し、実際にアンケート実施に至ったのは49科目（春学期33科目、秋学期16科目）であった。

2. 集計データにみられる結果のまとめ

2024年度の講座における授業評価アンケート実施科目49科目のべ履修者総数は2,331名、のべ回答者数は1,030名、回答率は44.2%であった。2023年度は実施科目が40科目と少な目であり、その一方で回答率は53.7%と高かった。2024年度の全学の回答率は40.2%であり、講座は2024年度、全学の回答率に近づいた。回答者の学年は、1年生407名、2年生327名、3年生252名、4年生39名、その他（科目等履修生）5名であった。下位学年には講義を中心とした科目を、上位学年には実習や演習系の科目を配置しているという特性も表れていると推測できる。

I「学生の学習姿勢」では、「この授業に積極的に参加した」への平均値は4.40であり、前回（4.45）とほぼ同じ水準であった。履修者が教員免許状や資格取得に向け、学習意欲を上昇、維持させつつ、各々の目標に対して学びを進めている様子が見受けられる。これは、講座では授業規模が小さい科目が多く、101名以上の科目は今回のアンケート対象に入っていなかったことが背景にあるかもしれない。

「この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）」については、平均値1.11時間で、前回の0.91時間を大きく上回るという好ましい上昇がみられた。中には平均10時間（3名）、12時間（1名）、15時間（2名）、20時間（2名）のような長時間の自習を報告している者が出ている。特に教科教育法といった学外での実習につながるような内容の科目のいくつかにおいて平均時間が長くなっており、学生が授業以外でも極めて意欲的に学習に取り組んでいると推測される。

II「教員の授業改善に向けて」では、「各回の授業内容は明確だった」が平均値4.57、「教員の伝え方はわかりやすかった」が平均値4.56で、これらの値は昨年度とまったく同じであった。例年どおりの履修者からの高い評価が得られている。担当教員が、各回の授業でねらいや目標を明確に示しつつ、様々なツールを適宜効果的に活用し、授業を進めていることが推察される。よいと思った点として評価されているものは、「配付資料（授業のレジュメなど）」が68.5%、「パワーポイント」が51.7%となっている。「この授業で改善すべきだと思った点はありませんか」では、「上記にあてはまるものがない」と65.5%の履修者が回答していることから、各教員が効果的な教材準備に関わる安定した水準を保ち、授業を進めているものと推察できる。

IIIの「この授業を受けて満足した」についても4.56という高い値であった。「この授業から得ることができたものはありますか」に対しては、「②授業で扱った分野に関する基本

的な専門知識」が 72.1%、「①自分にとって新しい考え方・発想」が 62.6%と高くなっているが、一方で、「③自分で調べ考える姿勢」は 22.1%、「④学問的興味」は 37.8%であり、まだ伸びる余地があると言えそうである。学芸員課程では、アンケート実施科目が他課程よりも少ないということがあるが、上記②について 94.4%という素晴らしい結果を得た。

3. 担当教員の所見に対するまとめ

3-1 「授業評価に対する担当教員の所見」のまとめ

多くの教員が、履修者の高い評価に安堵しながら、履修者からの質問や意見に丁寧に応答している。配布資料やスライドの情報量が多すぎるという指摘に対して、次年度以降、情報を絞りたいと応答している例や、教員の側は授業の進め方や意図等についてきちんと伝えたとつもりだったが、伝わっていなかったことに気がついたので、次年度以降は改めてしっかり伝えるようにするといった応答がみられた。そうした改善点の提案が学生からの主な指摘事項のようであり、たいへんありがたくなった。

3-2 「改善に向けた今後の方針」のまとめ

教員所見からは、いずれの教員も、履修者の声に真摯に耳を傾け、その声を前向きに活かしていこうとする様子がみられる。

4. 今後の改善に向けて

例年同様、講座で提供している授業に関しては、概ね履修者の期待や求める内容に、十分応えられているという現状をうかがい知ることができた。アンケート結果のデータは 2025 年 5 月 9 日にメールで講座会議構成教員と共有し、翌 6 月 4 日の講座会議で意見交換を行った。なお、今回は 9 科目について、担当教員から所見が記入されていなかったことについて意見交換を行った。所見を記入しない意図は不明であるし、記入を強制、義務化するわけにはいかないが、講座教務担当より各課程主任に 2025 年度について所見記入を促していたべくよう依頼した。2025 年度も FD 会議を定期的にもち、履修者の高い学習意欲を維持できる授業の模索、新たな発見や着想を得られるような授業開発を専任・兼任を問わず教員間で促していく。

5. 2024 年度のまとめと今後の展望

大学教育開発・支援センター
TL (Teaching&Learning) 部会長 高林 陽展

1. はじめに

本学の「学生による授業評価アンケート」は、大学教育開発・支援センターが中心となり、教務部・情報企画室（メディアセンター）の協力のもとで実施している。アンケートに回答してくださった学生のみなさんや、所見の執筆にあたった教員各位を始めとして、本件に関わる全てのみなさまに感謝を申し上げたい。以下では、アンケート結果と各学部等総評を踏まえて、多くの学部等に共通すると思われる事項、および今後の授業改善において重要になるとと思われる事項をまとめたい。

2. 学部等別の回答率

2024 年度の回答率は 40.2%であり、2023 年度の 40.0%から 0.2%増加とほぼ横ばいである。各学部等の数値からすると、ほぼ横ばいの学部（文・観・コミ福・現心・全カリ総合）、微増の学部（理・法）、微減の学部（社・全カリ言語）、減少した学部（済・営・異・GLAP・スポ・講座）などの相違がある。その原因として、各学部等の総評では、大規模講義系科目での回答率の低さ（文）、教員による事前アナウンスの有無（済）などが指摘されている。ちなみに、2023 年度は、3 年に一度の「1 教員 1 科目」の原則によってアンケートが実施された 2022 年度と比較してアンケート実施科目とその履修者数が減少したため、回答率が高くなる傾向にあったのだが、2024 年度においてもこの回答水準が維持されていることになるだろう。前年度と同様、改めて、各学部等においてアンケートを実施する目的を明確にする科目選定方針が依然として重要だという点が踏まえられなければならない。今後とも、各学部等が科目選定方針と周知方法の検討を重ね、回答率向上のための方策をご検討いただきたい。なお、大学教育開発・支援センターでは、①実施要領送付時に「学生から多くの回答を得るためのヒント」を共有、②実施要領「学生へのアナウンスについて」を当日の流れがわかるような体裁で共有（色紙）、③教務部発行の「教務に関するご案内」にアンケート実施について、具体的な記載をして共有（原則として授業 13 回目または 14 回目に実施、所要時間 10～15 分程度）、④教育改革推進会議資料に「原則として実施期間中の授業内で実施する」ことをあらためて明示するなど、継続的な改善の取り組みを続けている。

3. 授業外学習時間

各学部等総評で注目すべき点の一つは、授業外学習時間（I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に））の平均値）の増減である。内訳をみると、文 1.40（微増）、済 1.32（微減）、理 1.58（微減）、営 1.35（微減）、GLAP 2.45（微増）、コミ福 1.29（微減）、現心 1.00（微減）、全カリ総合 1.17（微減）、講座 1.11（増加）といったように、全体的に減少傾向が目立っている。その理由について、講義系科目が多く展開されていること（文）や「適切な量の予習・復習につながる課題の提示がなされなかった」こと（営）、「予習・復習に際して学生が生成 AI を活用することによって授業以外に学習した時間が減

少しした」こと（営）などが指摘されており、特に後者は、今後十分な対策が必要となってくることが考えられる。他方で、全カリ総合の「多彩な学び」科目のうちの「知識の現場 (FV)」科目においては、3.74 時間を記録しており、詳しくは次項で述べるが、アクティブ・ラーニングの推進による学習意欲の向上の可能性は、今後、各学部等で検討されるべき点であろう。

4. 授業方法

各学部等総評で共通した傾向としては、①配布資料やパワーポイントなどの質、②学習管理システム (LMS) の効果的な利用、③アクティブ・ラーニングや視聴覚資料の活用による学習意欲の促進といった授業方法にかかわる 3 点にまとめられるだろう。①については、ほぼ全ての各学部等でその質が重要であることが述べられており、この点は過年度とも変わらない傾向である。②については、利活用の程度が学生の評価につながっていることが指摘されている（文・済・理）。今後も、効果的な利活用のための全学的な取り組みが求められる。③については、「授業の双方向性」の確保（文）、「コメントなどを通じた双方向のコミュニケーション、視聴覚教材の使用、ゲストスピーカー」招聘の重要性（社）「グループディスカッションやリアクションペーパー講評を通した双方向コミュニケーション、ゲストスピーカーや時事トピックによるビジネスの臨場感、動画や配付資料の事前掲載による情報伝達などの手段の」活用（観）、「授業内のインタラクション」（現心）、「グループワーク・ペアワークなどの参加型学習をさらに充実させ、学生間のコミュニケーションを活発化」させることの重要性（全カリ言語）など、多くの学部等においてアクティブ・ラーニングの効果が確認されており、今後もその質の向上が目指される。

5. 前年度課題点の改善

各学部等では、前年度（2023 年度）の結果をもとにした、①授業評価アンケートそれ自体にかかわる改善策の実施、②授業内容の改善の取り組みが行われている。具体的には、前年度の学部内での授業評価アンケート結果の共有（社・法）、アンケート実施方法にかんする教員への案内方法の改善（社）、オンライン・オンデマンド科目の教育の質にかんする改善のための継続的な取り組み（営）、アクティブ・ラーニングや双方向型授業の推進（GLAP・観・コミ福・スポ）などが挙げられる。他方で、過年度まで言及の多かった授業担当教員による所見未記入の問題については、今年度の各学部等総評での言及は少なかった（コミ福）。また、新規の課題として、しょうがい学生支援の問題が浮上しつつある（現心）。

6. おわりに

全体としては、授業評価アンケートへの学生の回答に対して、多くの教員が肯定的に受け止め、各学部等において授業での配付資料やパワーポイントの質の向上やアクティブ・ラーニングの促進など、具体的な改善策が継続的に検討されるなど、授業評価アンケート制度の意義は十分に達成できている。しかし、この好循環を維持するだけでなく、回答率のさらなる向上と授業内容の改善の必要性については改めて強調しておきたい。

6. 2024 年度集計データ（資料編）

6-1 回答者数・回答率

延べ回答者数 63,286 名

表1 学部等別履修者数と回答者数、および回答率

科目開設学部等	履修者数	回答者数	回答率
文学部	10,604	3,582	33.8%
経済学部	4,304	1,893	44.0%
理学部	7,400	3,006	40.6%
社会学部	17,360	4,132	23.8%
法学部	2,701	811	30.0%
経営学部	12,997	1,798	13.8%
異文化コミュニケーション学部	3,244	1,508	46.5%
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	473	282	59.6%
観光学部	8,142	2,481	30.5%
コミュニティ福祉学部	4,221	2,053	48.6%
現代心理学部	1,871	613	32.8%
スポーツウエルネス学部	1,885	1,059	56.2%
全学共通キャリア運営センター・総合系科目	43,178	13,034	30.2%
全学共通キャリア運営センター・言語系科目	36,656	26,004	70.9%
学校・社会教育講座	2,331	1,030	44.2%
合 計	157,367	63,286	40.2%

注1) 履修者数・回答者数は、アンケート実施科目の延べ履修者、回答者

注2) 学部等は、アンケート実施科目の開設学部により分類した

表2 学部等別学年別の回答者数

科目開設学部等	1 年	2 年	3 年	4 年	その他	合計
文学部	1,535	1,089	618	330	10	3,582
経済学部	1,753	74	54	10	2	1,893
理学部	1,440	912	562	87	5	3,006
社会学部	1,596	1,253	844	417	22	4,132
法学部	354	305	90	60	2	811
経営学部	633	488	403	221	53	1,798
異文化コミュニケーション学部	1,229	111	95	40	33	1,508
グローバル・リベラルアーツ・プログラム運営センター	87	66	21	40	68	282
観光学部	991	665	591	230	4	2,481
コミュニティ福祉学部	1,047	684	255	65	2	2,053
現代心理学部	173	306	92	38	4	613
スポーツウエルネス学部	599	444	8	3	5	1,059
全学共通キャリア運営センター・総合系科目	6,612	3,408	1,733	913	368	13,034
全学共通キャリア運営センター・言語系科目	23,181	1,418	729	526	150	26,004
学校・社会教育講座	407	327	252	39	5	1,030
合 計	41,637	11,550	6,347	3,019	733	63,286

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 学年は、当該学部等で実施したアンケートに回答した学生の学年を示す（その他：本学学部生以外）

注3) 学部等により実施科目の選定方針が異なるため、学年の偏りがある

6-2 学部等別設問項目別平均値・回答割合

表3-1 文学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	3,562	4.34	0.74
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,438	1.40	2.37
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	3,567	4.39	0.78
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	3,561	4.30	0.87
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	3,574	4.40	0.78

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表3-2 文学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	3,582
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	3,532 ^{*1}	98.6%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,989	55.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	678	18.9%
③パワーポイント	1,175	32.8%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	850	23.7%
⑤シラバス	253	7.1%
⑥上記にあてはまるものがない	341	9.5%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	591 ^{*2}	16.5%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	3,036 ^{*1}	84.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	452	12.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	271	7.6%
③パワーポイント	221	6.2%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	108	3.0%
⑤シラバス	78	2.2%
⑥上記にあてはまるものがない	2,144	59.9%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	425 ^{*2}	11.9%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	3,562 ^{*1}	99.4%
①自分にとって新しい考え方・発想	2,119	59.2%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,162	60.4%
③自分で調べ考える姿勢	988	27.6%
④学問的興味	1,626	45.4%
⑤上記にあてはまるものがない	71	2.0%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	187 ^{*2}	5.2%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 4-1 経済学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	1,873	4.40	0.77
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	698	1.32	1.92
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	1,889	4.27	0.89
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,881	4.15	1.00
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	1,876	4.23	0.91
IV 学部等による設問			
IV1（基礎ゼミナール1）経済関連の文献を読む力がついた	387	4.06	0.93
IV2（基礎ゼミナール1）レジュメやレポート作成の力がついた	387	4.32	0.83
IV3（データ分析入門1）表計算ソフト（Excel）の応用力が身についた	341	4.45	0.70
IV4（データ分析入門1）Power Point でプレゼンテーション資料を作成する力が身についた	343	4.30	0.82
IV5（データ分析入門1）WEB 上から経済資料・統計資料を入手する力が身についた	343	4.39	0.72

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大にそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 4-2 経済学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	1,893
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,859 ^{*1}	98.2%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,101	58.2%
②板書（電子媒体のものを含む）	429	22.7%
③パワーポイント	672	35.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	90	4.8%
⑤シラバス	106	5.6%
⑥上記にあてはまるものがない	188	9.9%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	266 ^{*2}	14.1%
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	1,646 ^{*1}	87.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	270	14.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	172	9.1%
③パワーポイント	126	6.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	58	3.1%
⑤シラバス	60	3.2%
⑥上記にあてはまるものがない	1,141	60.3%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	266 ^{*2}	14.1%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,880 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	674	35.6%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,219	64.4%
③自分で調べ考える姿勢	508	26.8%
④学問的興味	467	24.7%
⑤上記にあてはまるものがない	86	4.5%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	110 ^{*2}	5.8%

注 1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表5-1 理学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	2,986	4.34	0.79
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,418	1.58	1.98
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	2,993	4.36	0.77
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	2,986	4.21	0.88
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	2,981	4.24	0.82
IV 学部等による設問			
IV1 シラバスに沿って授業が行われた	2,981	4.47	0.63
IV2 教員は質問・疑問に対し積極的に答えてくれた	2,986	4.37	0.75
IV3（必修科目のみ）授業で困った際に、練習問題を解き合う等で学生同士が共同して解決策をとった	2,066	4.18	1.03
IV4（1年次必修科目のみ）教員は高校までの授業スタイルとの違いを考慮して授業展開をしてくれた	1,413	3.97	1.02

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表5-2 理学部（回答割合）

		全有効回答者数	3,006
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	2,946 ^{*1}	98.0%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,782	59.3%	
②板書（電子媒体のものを含む）	1,033	34.4%	
③パワーポイント	929	30.9%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	262	8.7%	
⑤シラバス	102	3.4%	
⑥上記にあてはまるものがない	247	8.2%	
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	359 ^{*2}	11.9%	
II5 この授業で改善すべき点だと思った点がありますか【複数選択可】	2,544 ^{*1}	84.6%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	380	12.6%	
②板書（電子媒体のものを含む）	276	9.2%	
③パワーポイント	150	5.0%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	67	2.2%	
⑤シラバス	83	2.8%	
⑥上記にあてはまるものがない	1,733	57.7%	
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	348 ^{*2}	11.6%	
III 学生が授業に期待するもの			
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	2,977 ^{*1}	99.0%	
①自分にとって新しい考え方・発想	1,221	40.6%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,299	76.5%	
③自分で調べ考える姿勢	735	24.5%	
④学問的興味	1,154	38.4%	
⑤上記にあてはまるものがない	71	2.4%	
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	71 ^{*2}	2.4%	

注1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 6－1 社会学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	4,104	4.28	0.75
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	1,778	1.15	1.89
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	4,119	4.34	0.76
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	4,105	4.24	0.86
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	4,119	4.29	0.81

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 6－2 社会学部（回答割合）

		全有効回答者数	4,132
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	4,071 ^{*1}	98.5%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	2,107	51.0%	
②板書（電子媒体のものを含む）	574	13.9%	
③パワーポイント	1,818	44.0%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	1,102	26.7%	
⑤シラバス	164	4.0%	
⑥上記にあてはまるものがない	303	7.3%	
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	501 ^{*2}	12.1%	
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	3,522 ^{*1}	85.2%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	571	13.8%	
②板書（電子媒体のものを含む）	231	5.6%	
③パワーポイント	258	6.2%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	131	3.2%	
⑤シラバス	79	1.9%	
⑥上記にあてはまるものがない	2,468	59.7%	
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	442 ^{*2}	10.7%	
III 学生が授業に期待するもの			
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	4,104 ^{*1}	99.3%	
①自分にとって新しい考え方・発想	2,553	61.8%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	2,399	58.1%	
③自分で調べ考える姿勢	831	20.1%	
④学問的興味	1,655	40.1%	
⑤上記にあてはまるものがない	77	1.9%	
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	141 ^{*2}	3.4%	

注 1) 回答者数

*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 7-1 法学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	805	4.19	0.89
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）*	314	1.01	1.26
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	808	4.28	0.81
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	805	4.14	0.93
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	808	4.27	0.81

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 7-2 法学部（回答割合）

		全有効回答者数	811
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	803 ^{*1}	99.0%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	456	56.2%	
②板書（電子媒体のものを含む）	147	18.1%	
③パワーポイント	236	29.1%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	62	7.6%	
⑤シラバス	38	4.7%	
⑥上記にあてはまるものがない	97	12.0%	
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	140 ^{*2}	17.3%	
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	719 ^{*1}	88.7%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	169	20.8%	
②板書（電子媒体のものを含む）	78	9.6%	
③パワーポイント	64	7.9%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	27	3.3%	
⑤シラバス	11	1.4%	
⑥上記にあてはまるものがない	435	53.6%	
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	120 ^{*2}	14.8%	
III 学生が授業に期待するもの			
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	807 ^{*1}	99.5%	
①自分にとって新しい考え方・発想	348	42.9%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	526	64.9%	
③自分で調べ考える姿勢	138	17.0%	
④学問的興味	312	38.5%	
⑤上記にあてはまるものがない	22	2.7%	
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	32 ^{*2}	3.9%	

注 1) 回答者数

*1：当該設問（複数選択可）の項目に 1 つでも回答した者の延べ人数

*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 8－1 経営学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1,780	4.36	0.76
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	852	1.35	1.91
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	1,790	4.39	0.79
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,785	4.21	0.98
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	1,792	4.32	0.85

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 8－2 経営学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	1,798
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,768 ^{*1}	98.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	999	55.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	289	16.1%
③パワーポイント	796	44.3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	270	15.0%
⑤シラバス	145	8.1%
⑥上記にあてはまるものがない	138	7.7%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	286 ^{*2}	15.9%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,588 ^{*1}	88.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	361	20.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	146	8.1%
③パワーポイント	172	9.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	110	6.1%
⑤シラバス	64	3.6%
⑥上記にあてはまるものがない	927	51.6%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	247 ^{*2}	13.7%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,790 ^{*1}	99.6%
①自分にとって新しい考え方・発想	876	48.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1,237	68.8%
③自分で調べ考える姿勢	405	22.5%
④学問的興味	573	31.9%
⑤上記にあてはまるものがない	33	1.8%
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	97 ^{*2}	5.4%

注 1) 回答者数

*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表9-1 異文化コミュニケーション学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1,501	4.47	0.69
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	628	1.58	1.80
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	1,502	4.45	0.74
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,501	4.31	0.87
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	1,505	4.41	0.80

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表9-2 異文化コミュニケーション学部（回答割合）

		全有効回答者数	1,508
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,476 ^{*1}	97.9%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	698	46.3%	
②板書（電子媒体のものを含む）	379	25.1%	
③パワーポイント	667	44.2%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	369	24.5%	
⑤シラバス	207	13.7%	
⑥上記にあてはまるものがない	172	11.4%	
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	351 ^{*2}	23.3%	
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1,291 ^{*1}	85.6%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	185	12.3%	
②板書（電子媒体のものを含む）	97	6.4%	
③パワーポイント	112	7.4%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	66	4.4%	
⑤シラバス	30	2.0%	
⑥上記にあてはまるものがない	897	59.5%	
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	225 ^{*2}	14.9%	
III 学生が授業に期待するもの			
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,504 ^{*1}	99.7%	
①自分にとって新しい考え方・発想	1,005	66.6%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	833	55.2%	
③自分で調べ考える姿勢	570	37.8%	
④学問的興味	709	47.0%	
⑤上記にあてはまるものがない	37	2.5%	
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	139 ^{*2}	9.2%	

注1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 10-1 グローバル・リベラルアーツ・プログラム（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	280	4.38	0.67
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	178	2.45	2.17
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	282	4.43	0.82
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	282	4.44	0.82
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	282	4.46	0.77

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 10-2 グローバル・リベラルアーツ・プログラム（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	282
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	282 ^{*1}	100.0%
①配付資料（授業のレジュメなど）	104	36.9%
②板書（電子媒体のものを含む）	64	22.7%
③パワーポイント	210	74.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	128	45.4%
⑤シラバス	78	27.7%
⑥上記にあてはまるものがない	15	5.3%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	77 ^{*2}	27.3%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	243 ^{*1}	86.2%
①配付資料（授業のレジュメなど）	34	12.1%
②板書（電子媒体のものを含む）	24	8.5%
③パワーポイント	16	5.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	15	5.3%
⑤シラバス	20	7.1%
⑥上記にあてはまるものがない	154	54.6%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	59 ^{*2}	20.9%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	280 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	187	66.3%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	190	67.4%
③自分で調べ考える姿勢	159	56.4%
④学問的興味	135	47.9%
⑤上記にあてはまるものがない	5	1.8%
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	39 ^{*2}	13.8%

注 1) 回答者数

*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 1 - 1 観光学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	2, 472	4. 29	0. 73
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）*	885	1. 11	2. 20
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	2, 476	4. 32	0. 77
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	2, 458	4. 22	0. 82
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	2, 475	4. 29	0. 80

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 1 1 - 2 観光学部（回答割合）

		全有効回答者数	2, 481
設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}	
II 教員の授業改善に向けて			
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	2, 445 ^{*1}	98. 5%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	1, 308	52. 7%	
②板書（電子媒体のものを含む）	372	15. 0%	
③パワーポイント	1, 127	45. 4%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	632	25. 5%	
⑤シラバス	99	4. 0%	
⑥上記にあてはまるものがない	149	6. 0%	
II 4 II3 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	375 ^{*2}	15. 1%	
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	2, 140 ^{*1}	86. 3%	
①配付資料（授業のレジュメなど）	321	12. 9%	
②板書（電子媒体のものを含む）	139	5. 6%	
③パワーポイント	156	6. 3%	
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	73	2. 9%	
⑤シラバス	51	2. 1%	
⑥上記にあてはまるものがない	1, 518	61. 2%	
II 6 II5 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	255 ^{*2}	10. 3%	
III 学生が授業に期待するもの			
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	2, 470 ^{*1}	99. 6%	
①自分にとって新しい考え方・発想	1, 483	59. 8%	
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1, 346	54. 3%	
③自分で調べ考える姿勢	598	24. 1%	
④学問的興味	911	36. 7%	
⑤上記にあてはまるものがない	65	2. 6%	
III 2 III 1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	85 ^{*2}	3. 4%	

注 1) 回答者数

*1：当該設問（複数選択可）の項目に 1 つでも回答した者の延べ人数

*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 2 - 1 コミュニティ福祉学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	2, 037	4. 44	0. 66
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）*	727	1. 29	2. 73
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	2, 041	4. 47	0. 68
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	2, 029	4. 35	0. 81
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	2, 039	4. 42	0. 74

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 1 2 - 2 コミュニティ福祉学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	2, 053
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	2, 020 ^{*1}	98. 4%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1, 177	57. 3%
②板書（電子媒体のものを含む）	302	14. 7%
③パワーポイント	911	44. 4%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	605	29. 5%
⑤シラバス	108	5. 3%
⑥上記にあてはまるものがない	114	5. 6%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	304 ^{*2}	14. 8%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	1, 735 ^{*1}	84. 5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	281	13. 7%
②板書（電子媒体のものを含む）	109	5. 3%
③パワーポイント	161	7. 8%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	53	2. 6%
⑤シラバス	30	1. 5%
⑥上記にあてはまるものがない	1, 209	58. 9%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	272 ^{*2}	13. 2%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	2, 039 ^{*1}	99. 3%
①自分にとって新しい考え方・発想	1, 310	63. 8%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1, 317	64. 2%
③自分で調べ考える姿勢	364	17. 7%
④学問的興味	761	37. 1%
⑤上記にあてはまるものがない	37	1. 8%
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	82 ^{*2}	4. 0%

注 1) 回答者数

*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 3 - 1 現代心理学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	611	4.21	0.76
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）*	230	1.00	1.65
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	612	4.45	0.65
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	610	4.34	0.80
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	609	4.36	0.73
IV 学部等による設問			
IV 1 この授業の受講者数は適切だった	612	4.40	0.69
IV 2 この授業の設備・環境に満足している	611	4.33	0.79

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 1 3 - 2 現代心理学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	613
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	604 ^{*1}	98.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	352	57.4%
②板書（電子媒体のものを含む）	114	18.6%
③パワーポイント	255	41.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	197	32.1%
⑤シラバス	27	4.4%
⑥上記にあてはまるものがない	33	5.4%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	78 ^{*2}	12.7%
II 5 この授業で改善すべき点と思った点がありますか【複数選択可】	518 ^{*1}	84.5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	69	11.3%
②板書（電子媒体のものを含む）	41	6.7%
③パワーポイント	34	5.5%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	18	2.9%
⑤シラバス	6	1.0%
⑥上記にあてはまるものがない	382	62.3%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	59 ^{*2}	9.6%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	609 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	316	51.5%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	457	74.6%
③自分で調べ考える姿勢	90	14.7%
④学問的興味	316	51.5%
⑤上記にあてはまるものがない	7	1.1%
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	13 ^{*2}	2.1%

注 1) 回答者数

*1: 当該設問（複数選択可）の項目に 1 つでも回答した者の延べ人数

*2: 当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 1 4 - 1 スポーツウエルネス学部（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1, 054	4. 47	0. 68
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1 週間に）*	368	1. 20	2. 81
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	1, 056	4. 57	0. 63
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1, 054	4. 49	0. 73
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	1, 056	4. 56	0. 68

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 1 4 - 2 スポーツウエルネス学部（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	1, 059
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1, 054 ^{*1}	99. 5%
①配付資料（授業のレジュメなど）	497	46. 9%
②板書（電子媒体のものを含む）	225	21. 2%
③パワーポイント	578	54. 6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	465	43. 9%
⑤シラバス	47	4. 4%
⑥上記にあてはまるものがない	30	2. 8%
II 4 II3 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	223 ^{*2}	21. 1%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	924 ^{*1}	87. 3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	128	12. 1%
②板書（電子媒体のものを含む）	54	5. 1%
③パワーポイント	46	4. 3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	24	2. 3%
⑤シラバス	20	1. 9%
⑥上記にあてはまるものがない	702	66. 3%
II 6 II5 の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	104 ^{*2}	9. 8%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1, 054 ^{*1}	99. 5%
①自分にとって新しい考え方・発想	622	58. 7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	658	62. 1%
③自分で調べ考える姿勢	218	20. 6%
④学問的興味	388	36. 6%
⑤上記にあてはまるものがない	11	1. 0%
III 2 III1 以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	68 ^{*2}	6. 4%

注 1) 回答者数

*1：当該設問（複数選択可）の項目に 1 つでも回答した者の延べ人数

*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1 および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 15-1 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	12,943	4.34	0.76
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	5,258	1.17	2.15
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	12,983	4.44	0.74
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	12,936	4.35	0.82
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	12,929	4.37	0.81
IV 学部等による設問			
IV1 この授業の教室の大きさは適切だった	12,924	4.23	0.96
IV2 この授業の受講者数は適切だった	12,911	4.25	0.84
IV3 この授業の行われた教室の環境や設備は十分だった（大きさの観点を除く）	12,930	4.34	0.82
IV4 【学びの精神のみ対象】この授業を通して高校と大学の学びの違いを感じた	4,440	4.39	0.80
IV5 【学びの精神のみ対象】この授業を通して大学の授業を受ける心構えができた	4,454	4.22	0.85
IV6 【F科目のみ対象】この授業を通して英語で学ぶことに対する意欲が向上した	695	4.06	1.01

注1) 回答者数は延べ人数

注2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 15-2 全学共通カリキュラム運営センター・総合系科目（回答割合）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	12,874 ^{*1}	98.8%
①配付資料（授業のレジュメなど）	6,994	53.7%
②板書（電子媒体のものを含む）	2,167	16.6%
③パワーポイント	5,780	44.3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	4,505	34.6%
⑤シラバス	793	6.1%
⑥上記にあてはまるものがない	774	5.9%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	2,444 ^{*2}	18.8%
II5 この授業で改善すべき点と思った点がありますか【複数選択可】	11,172 ^{*1}	85.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	1,774	13.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	735	5.6%
③パワーポイント	772	5.9%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	394	3.0%
⑤シラバス	338	2.6%
⑥上記にあてはまるものがない	7,920	60.8%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	1,729 ^{*2}	13.3%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	12,942 ^{*1}	99.3%
①自分にとって新しい考え方・発想	8,438	64.7%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	7,006	53.8%
③自分で調べ考える姿勢	2,793	21.4%
④学問的興味	5,786	44.4%
⑤上記にあてはまるものがない	243	1.9%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	761 ^{*2}	5.8%

注1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 16-1 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I1 この授業に積極的に参加した	25,865	4.55	0.64
I2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	8,668	1.84	2.67
II 教員の授業改善に向けて			
II1 各回の授業内容は明確だった	25,926	4.55	0.69
II2 教員の伝え方はわかりやすかった	25,824	4.49	0.78
III 学生が授業に期待するもの			
III3 この授業を受けて満足した	25,814	4.46	0.78
IV 学部等による設問			
IV1 宿題や課題は授業内容の理解を深めるのに役立つ	25,884	4.40	0.78
IV2 宿題や課題へのフィードバック、質問に対しての対応が十分になされた	25,840	4.42	0.80
IV3 授業内での既習事項の確認・復習が十分になされた	25,817	4.40	0.79
IV5 その言語圏の社会や文化についての知見を得られた	25,834	4.16	0.93
IV6 その言語の学習を継続したいと思うようになった	25,899	4.24	0.91

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いにそう思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2の単位は「時間」

表 16-2 全学共通カリキュラム運営センター・言語系科目（回答割合）

全有効回答者数 26,004

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	25,535 ^{*1}	98.2%
①配付資料（授業のレジュメなど）	10,569	40.6%
②板書（電子媒体のものを含む）	7,881	30.3%
③パワーポイント	10,732	41.3%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	5,089	19.6%
⑤シラバス	2,356	9.1%
⑥上記にあてはまるものがない	2,913	11.2%
II4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	4,264 ^{*2}	16.4%
II5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	22,032 ^{*1}	84.7%
①配付資料（授業のレジュメなど）	2,339	9.0%
②板書（電子媒体のものを含む）	1,478	5.7%
③パワーポイント	945	3.6%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	772	3.0%
⑤シラバス	659	2.5%
⑥上記にあてはまるものがない	17,238	66.3%
II6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	2,343 ^{*2}	9.0%
III 学生が授業に期待するもの		
III1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	25,779 ^{*1}	99.1%
①自分にとって新しい考え方・発想	11,815	45.4%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	13,246	50.9%
③自分で調べ考える姿勢	10,002	38.5%
④学問的興味	7,777	29.9%
⑤上記にあてはまるものがない	1,204	4.6%
III2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	1,736 ^{*2}	6.7%
IV 学部等による設問		
IV4 この授業を通して向上した能力はなんですか【複数選択可】	25,716 ^{*1}	98.9%
①読む力	13,568	52.2%
②書く力	12,830	49.3%
③聞く力	10,811	41.6%
④話す力	13,685	52.6%
⑤プレゼンテーションをする力	4,444	17.1%
⑥ディスカッションをする力	5,957	22.9%

注 1) 回答者数

*1:当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2:当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

表 17-1 学校・社会教育講座（平均値）

設 問 項 目	回答者数 ^{注1)}	平均値 ^{注2)}	標準偏差
I 学生の学習姿勢			
I 1 この授業に積極的に参加した	1,027	4.40	0.67
I 2 この授業に関連して、授業以外に学習した時間（平均して、1週間に）*	433	1.11	2.01
II 教員の授業改善に向けて			
II 1 各回の授業内容は明確だった	1,029	4.57	0.62
II 2 教員の伝え方はわかりやすかった	1,025	4.56	0.65
III 学生が授業に期待するもの			
III 3 この授業を受けて満足した	1,028	4.56	0.65

注 1) 回答者数は延べ人数

注 2) 平均値は、各選択肢の評価点を使用して算出

(5:大いに思う、4:そう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)

*I2 の単位は「時間」

表 17-2 学校・社会教育講座（回答割合）

設 問 項 目	全有効回答者数	1,030
	回答者数 ^{注1)}	割合 ^{注2)}
II 教員の授業改善に向けて		
II 3 この授業でよいと思った点がありますか【複数選択可】	1,022 ^{*1}	99.2%
①配付資料（授業のレジュメなど）	706	68.5%
②板書（電子媒体のものを含む）	162	15.7%
③パワーポイント	533	51.7%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	278	27.0%
⑤シラバス	56	5.4%
⑥上記にあてはまるものがない	53	5.1%
II 4 II3の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業でよいと思った点があれば記入してください【自由記述】	208 ^{*2}	20.2%
II 5 この授業で改善すべきだと思った点がありますか【複数選択可】	848 ^{*1}	82.3%
①配付資料（授業のレジュメなど）	101	9.8%
②板書（電子媒体のものを含む）	28	2.7%
③パワーポイント	39	3.8%
④動画等の映像視覚教材（オンライン授業そのものの動画ではありません）	20	1.9%
⑤シラバス	22	2.1%
⑥上記にあてはまるものがない	675	65.5%
II 6 II5の選択肢を選んだ理由、あるいはそれ以外でこの授業で改善すべき点があれば記入してください【自由記述】	116 ^{*2}	11.3%
III 学生が授業に期待するもの		
III 1 この授業から得ることができたものがありますか【複数選択可】	1,025 ^{*1}	99.5%
①自分にとって新しい考え方・発想	645	62.6%
②授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	743	72.1%
③自分で調べ考える姿勢	228	22.1%
④学問的興味	389	37.8%
⑤上記にあてはまるものがない	10	1.0%
III 2 III1以外でこの授業から得ることができたものがあれば記入してください【自由記述】	72 ^{*2}	7.0%

注 1) 回答者数

*1：当該設問（複数選択可）の項目に1つでも回答した者の延べ人数

*2：当該設問（自由記述）に回答（記述）した者の延べ人数

上記（*1および*2）以外の項目は当該設問の項目を選択した者の延べ人数

注 2) 割合の算出

回答者数を、全有効回答者数で除することによって算出

2024 年度「学生による授業評価アンケート」報告書

2025 年 9 月発行

編集 立教大学 大学教育開発・支援センター

発行 立教大学 大学教育開発・支援センター

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

TEL 03-3985-4624 FAX 03-3985-4615

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe.html>

e-mail cdshe@rikkyo.ac.jp

